

344  
580



\* 0050962000 \*

0050962-000

特202-339

松柏三十年

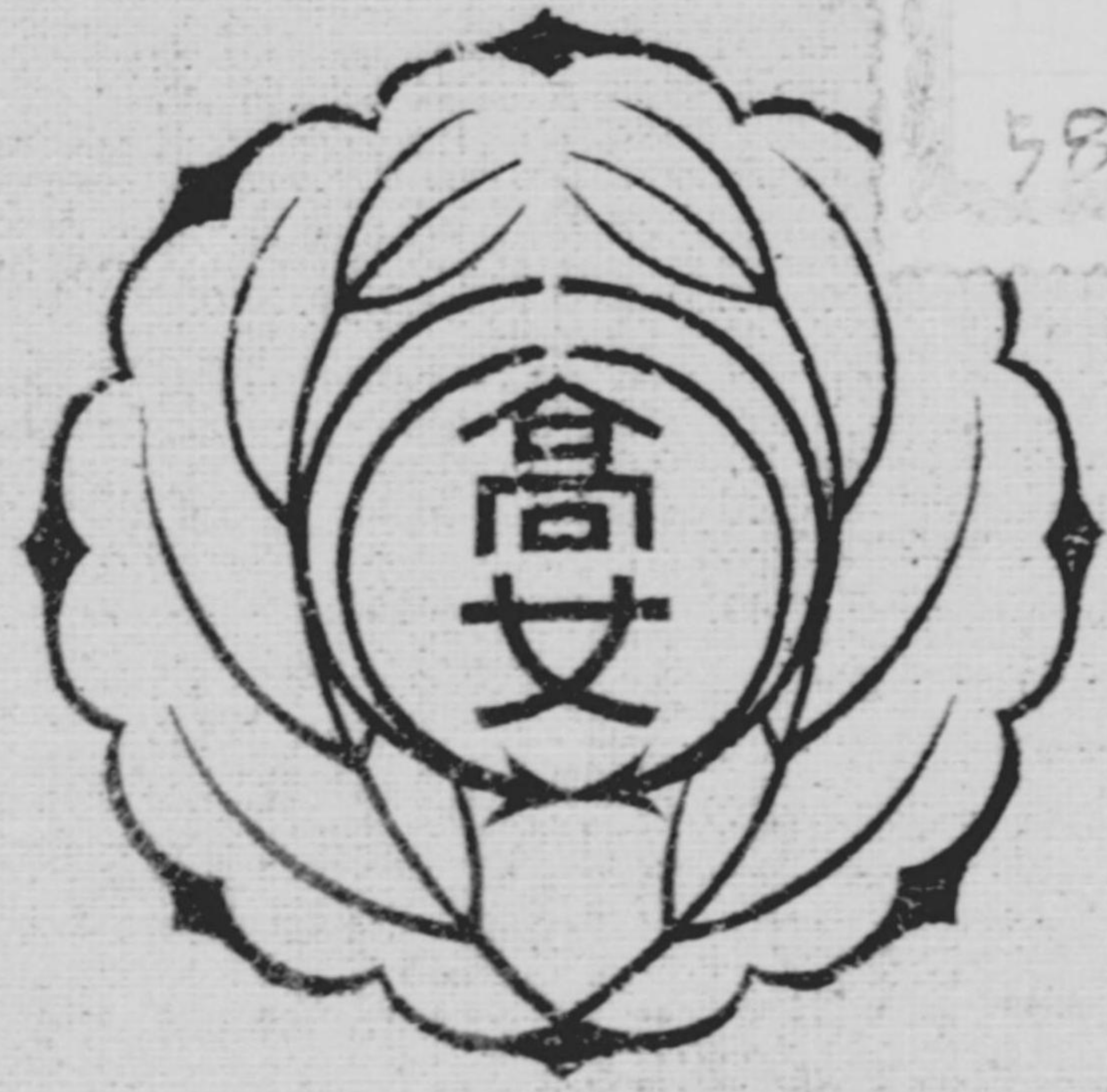
兵庫県立柏原高等女学校松柏会

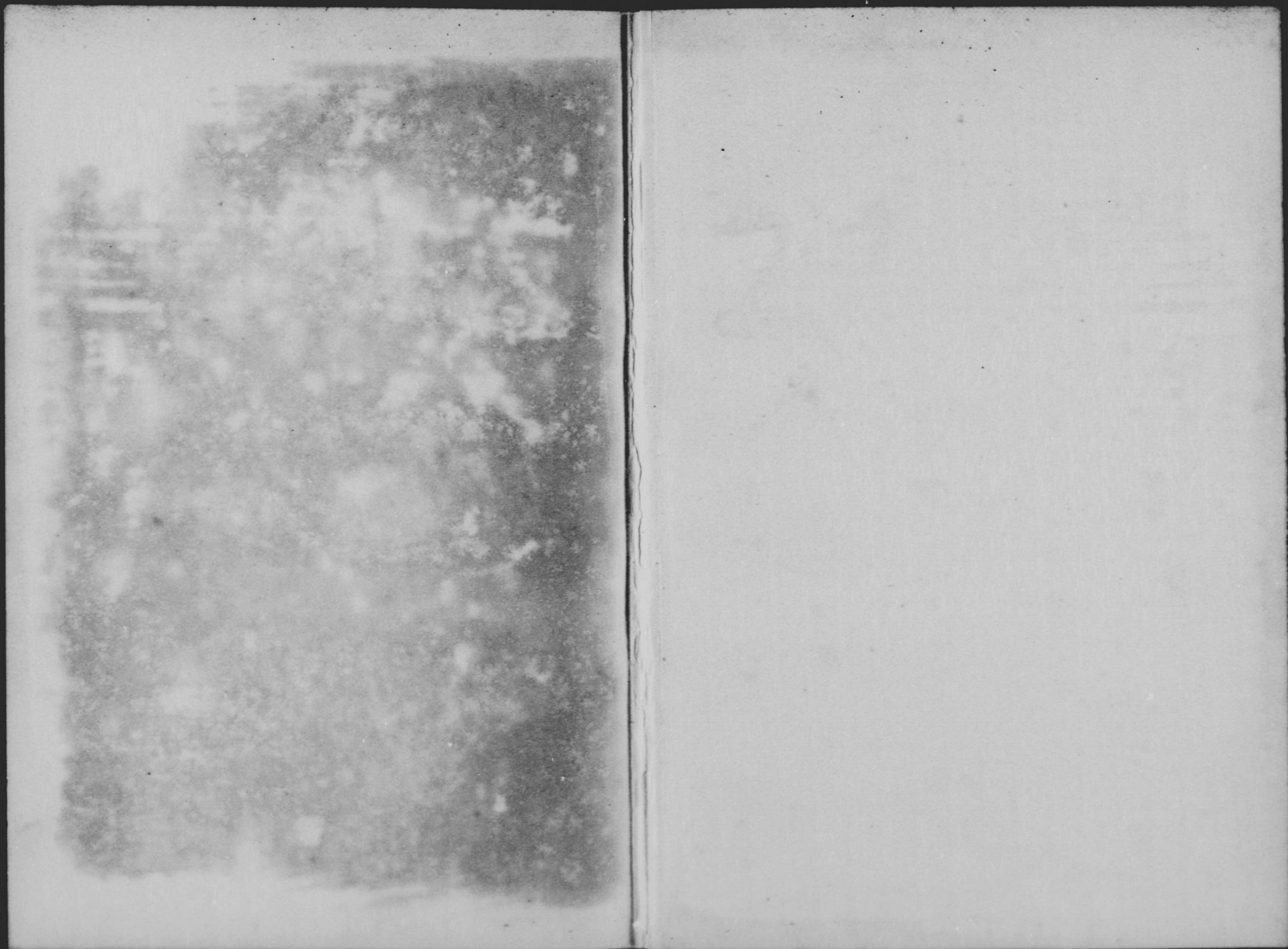
昭和7

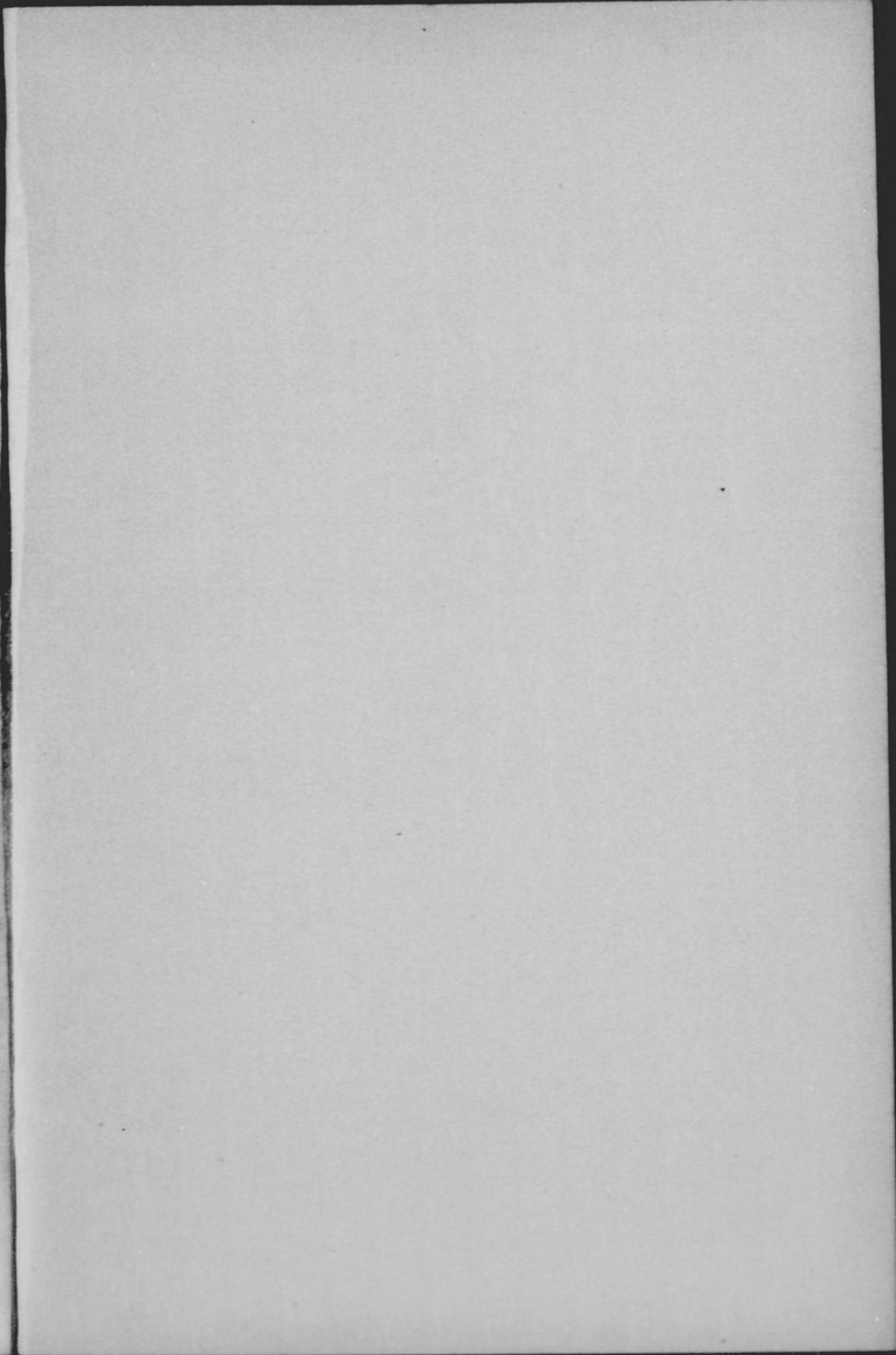
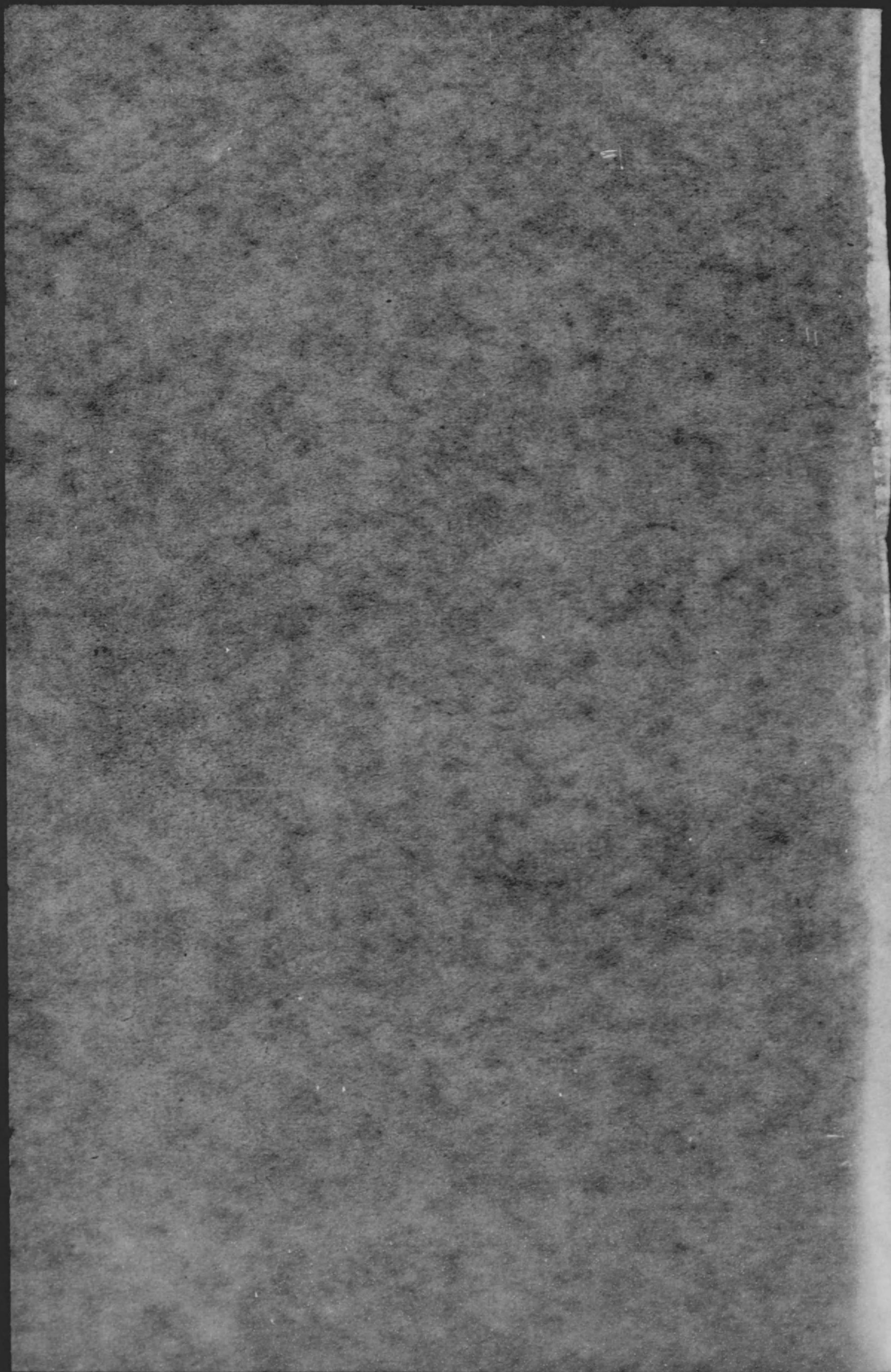
AHM

344

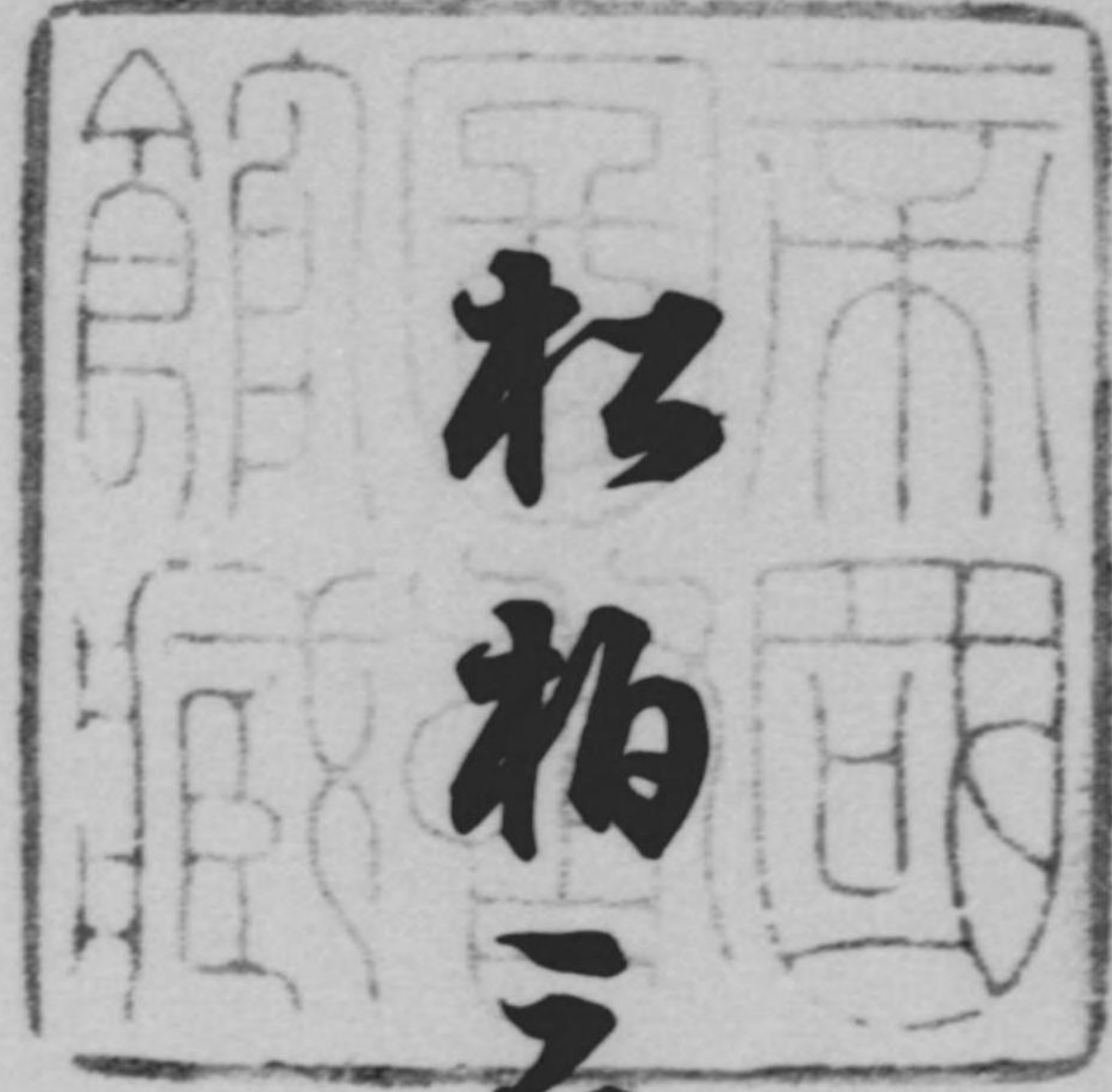
580





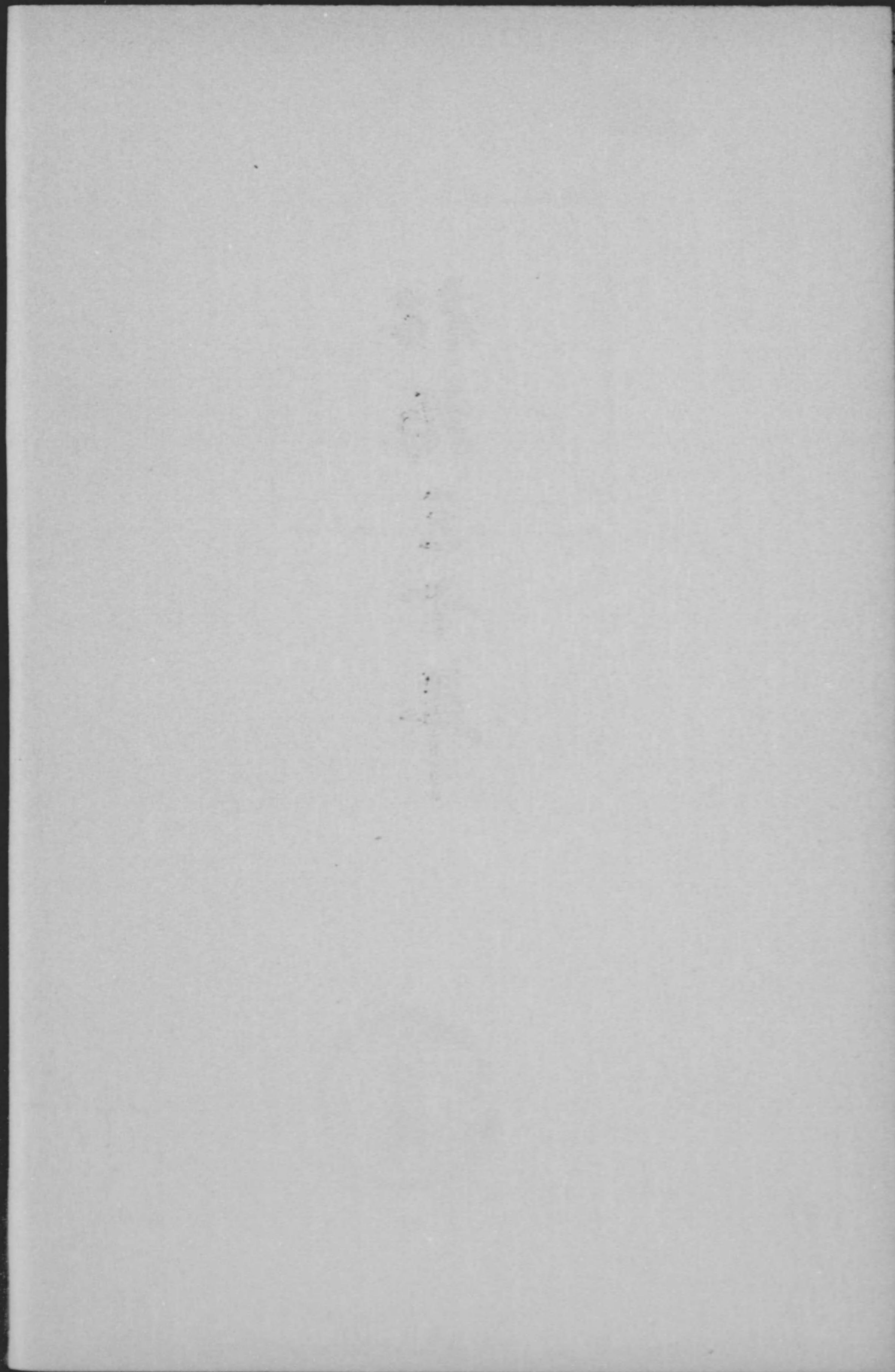
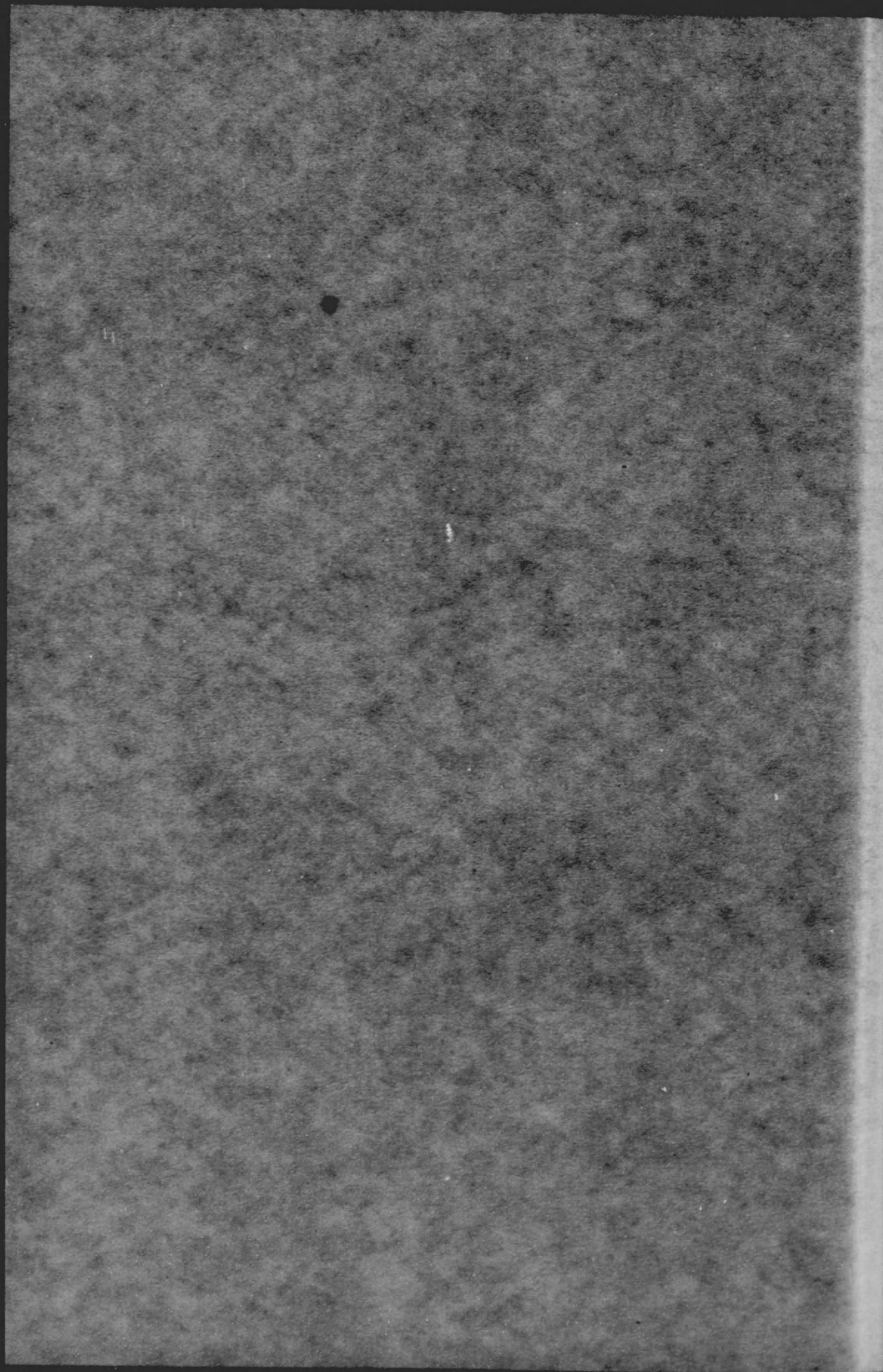


特 202  
339



松栢  
三十九年

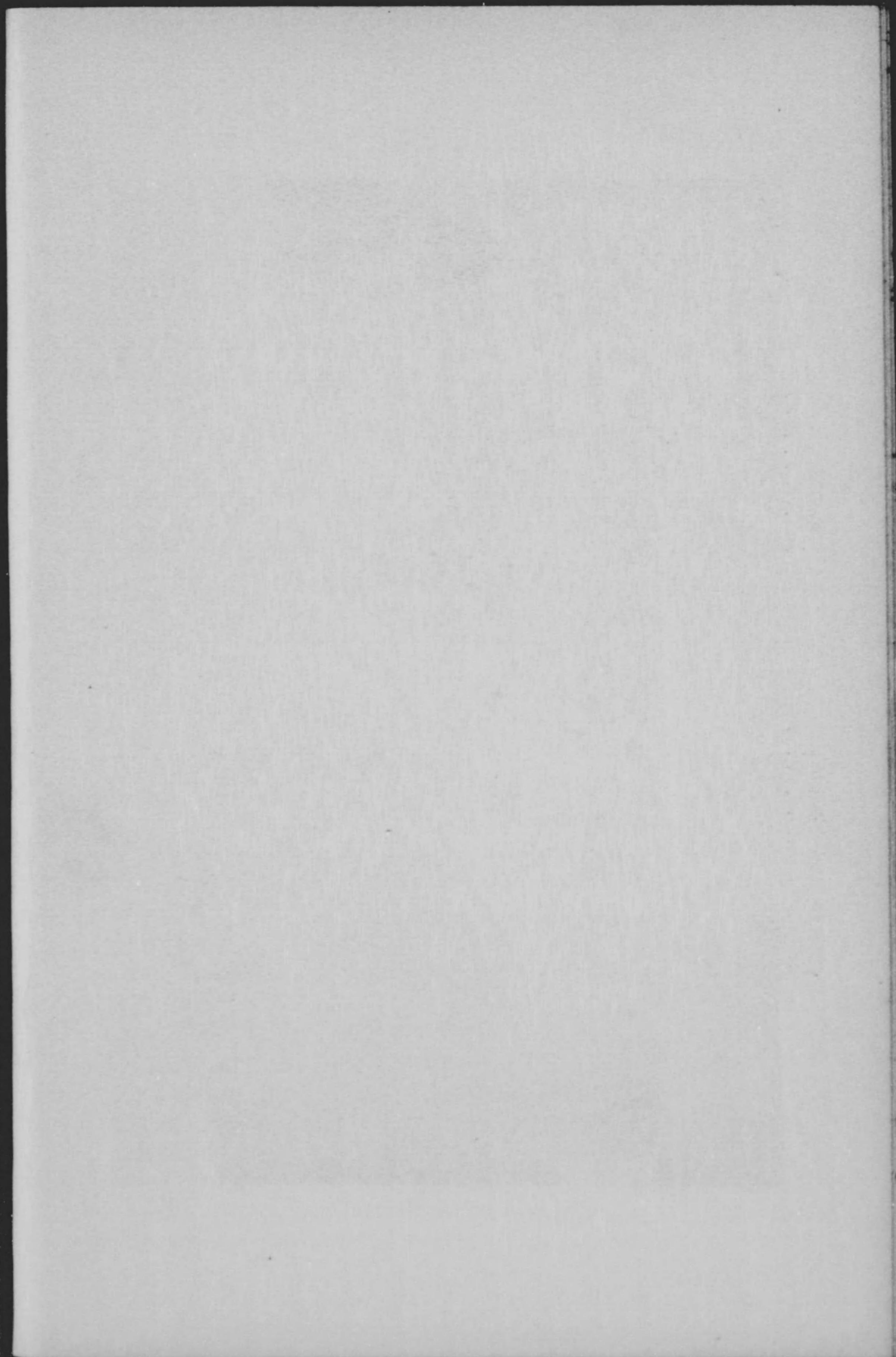
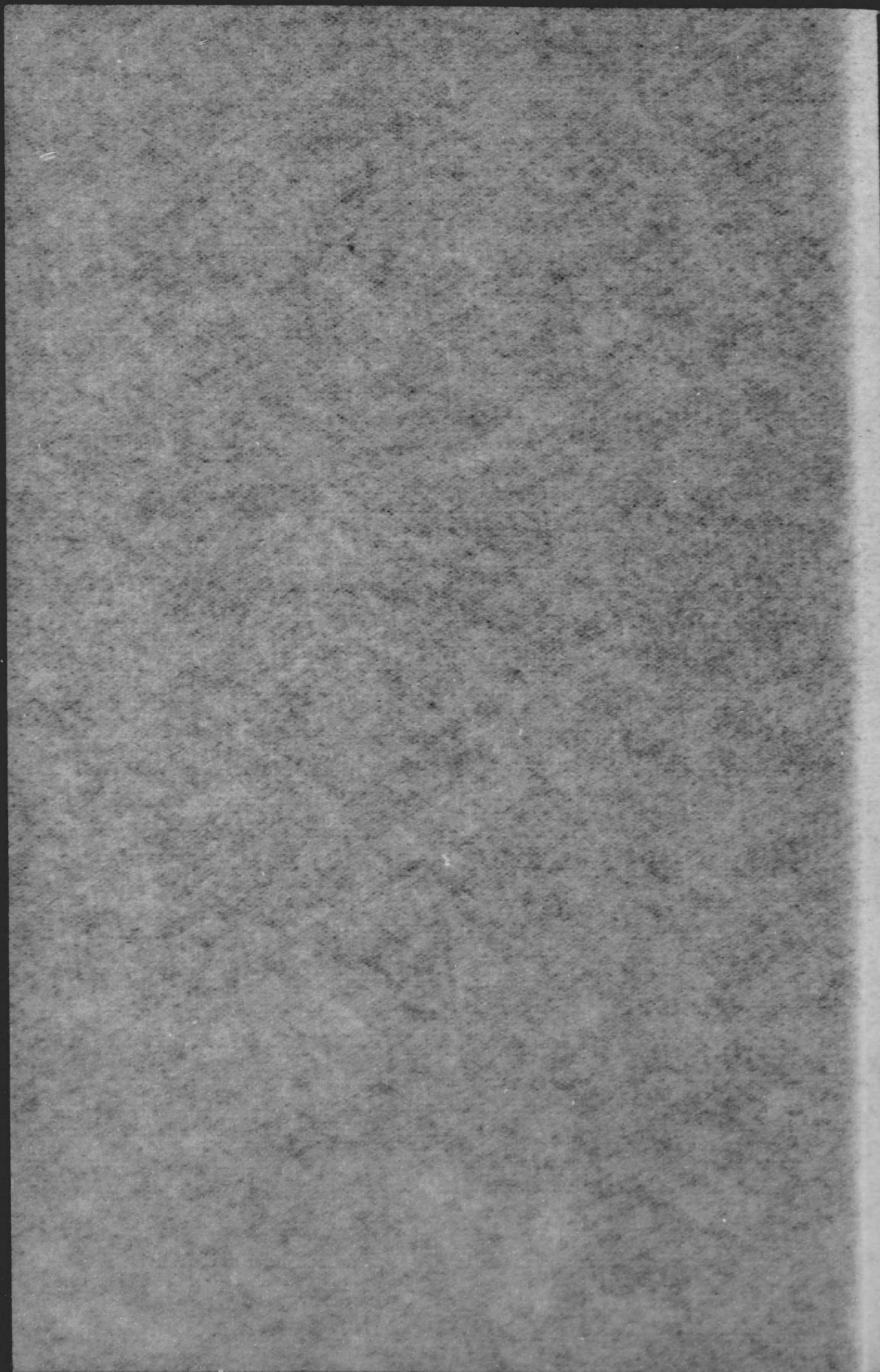










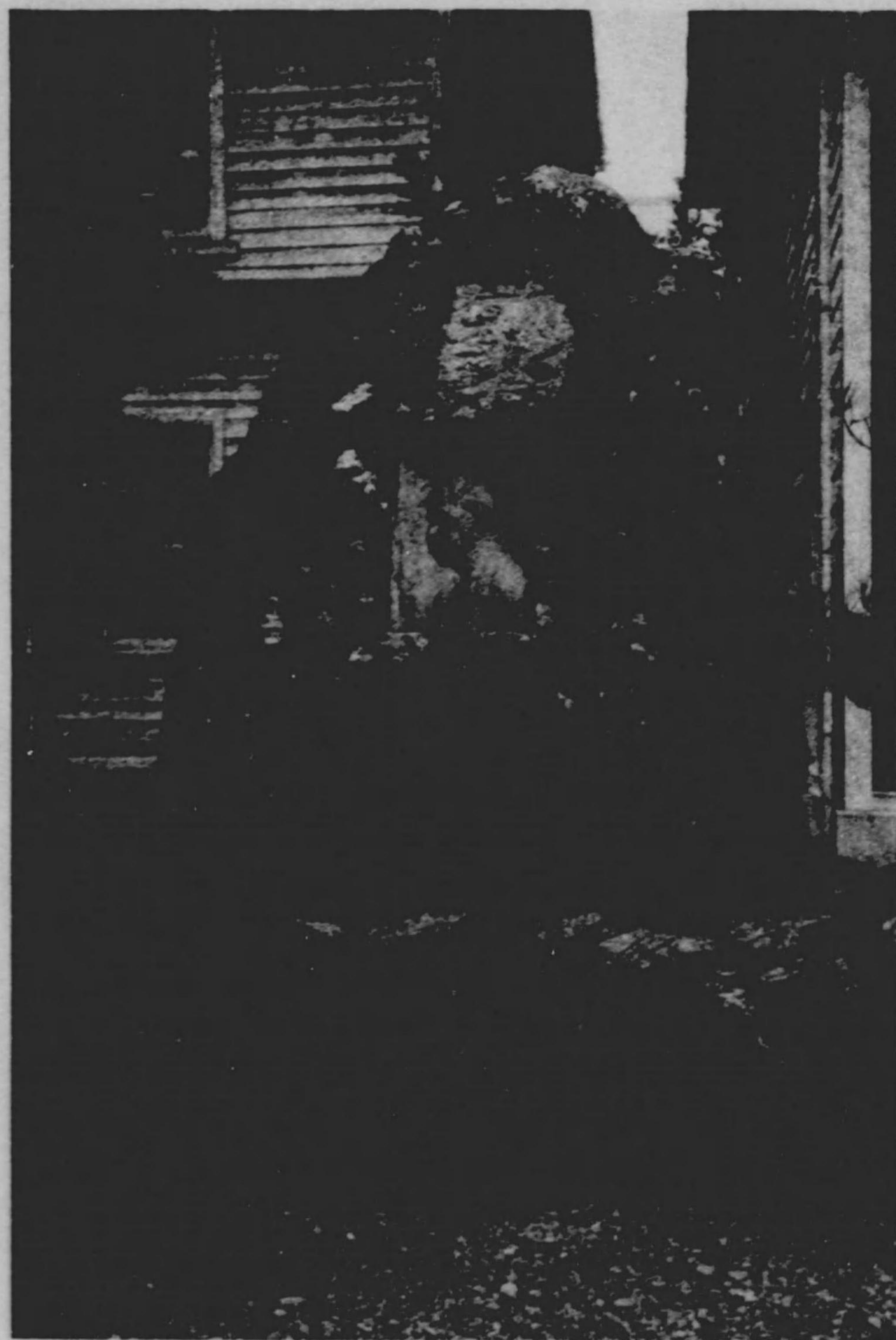


現 在 本 校 校 舎 前 景





現 在 本 校 校 舎 前 景



近藤前校長壽像

前校長近藤氏は本市九郎市氏本校創立以來年多其の經營發展に端をたれ  
を公費の郡本職の職退りあ功の年積るす對に育教郡本すらなみの  
たし成竣月五年五十正大りにごころす設建を像壽の其て以



(設置り依に附寄の兄父の時當月五年三和昭) 庭前と殿安奉



像壽長校前藤近

たれさ場に展覧管經の其年多來以立創校本は兵部市九藤近長校前  
を貴公の証本際の繼退りあ功の年積るす對に育教郡本すらなみの  
たし成竣月五年五十正大りなにとこるす設置を備寄の其て以

本校優勝旗



(昭和四年六月本部  
芦田辰治氏寄贈)

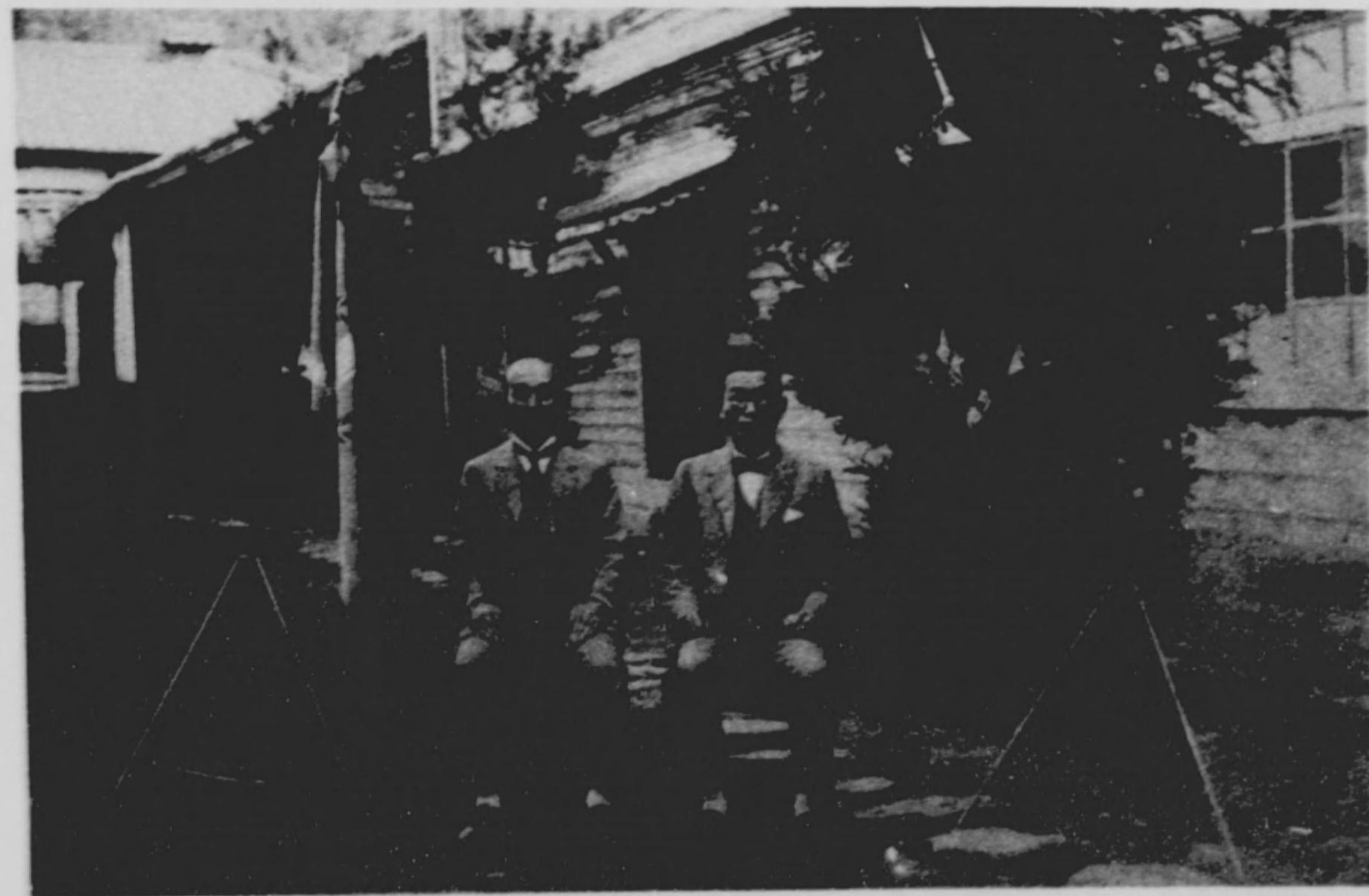


小學校選手優勝旗  
(昭和二年十月本部三口助氏寄贈)

本校優勝旗

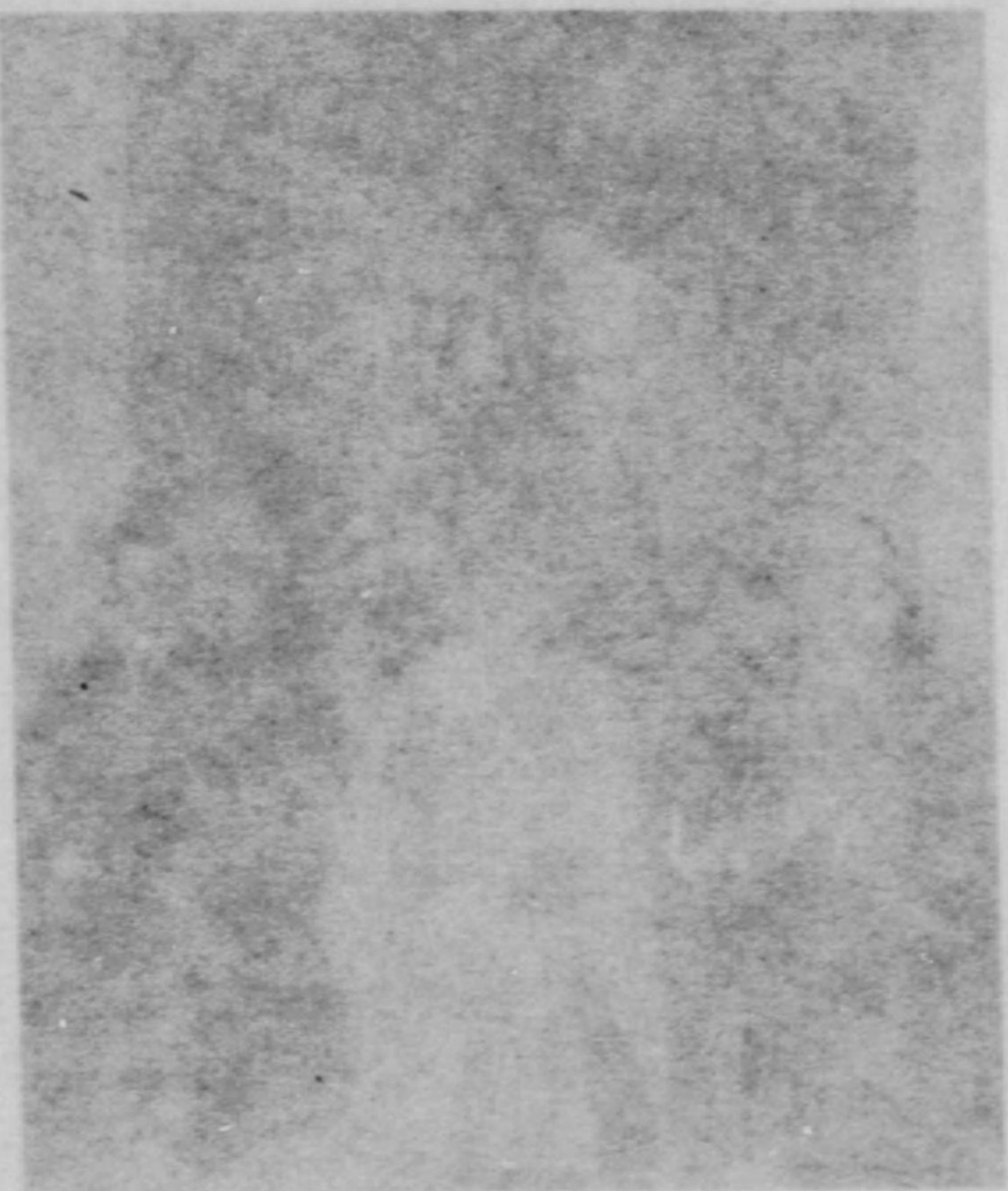


(昭和四年六月本部  
芦田辰治氏寄贈)



小學校選手優勝旗  
(昭和二年十月本部三口助氏寄贈)

本校優勝旗

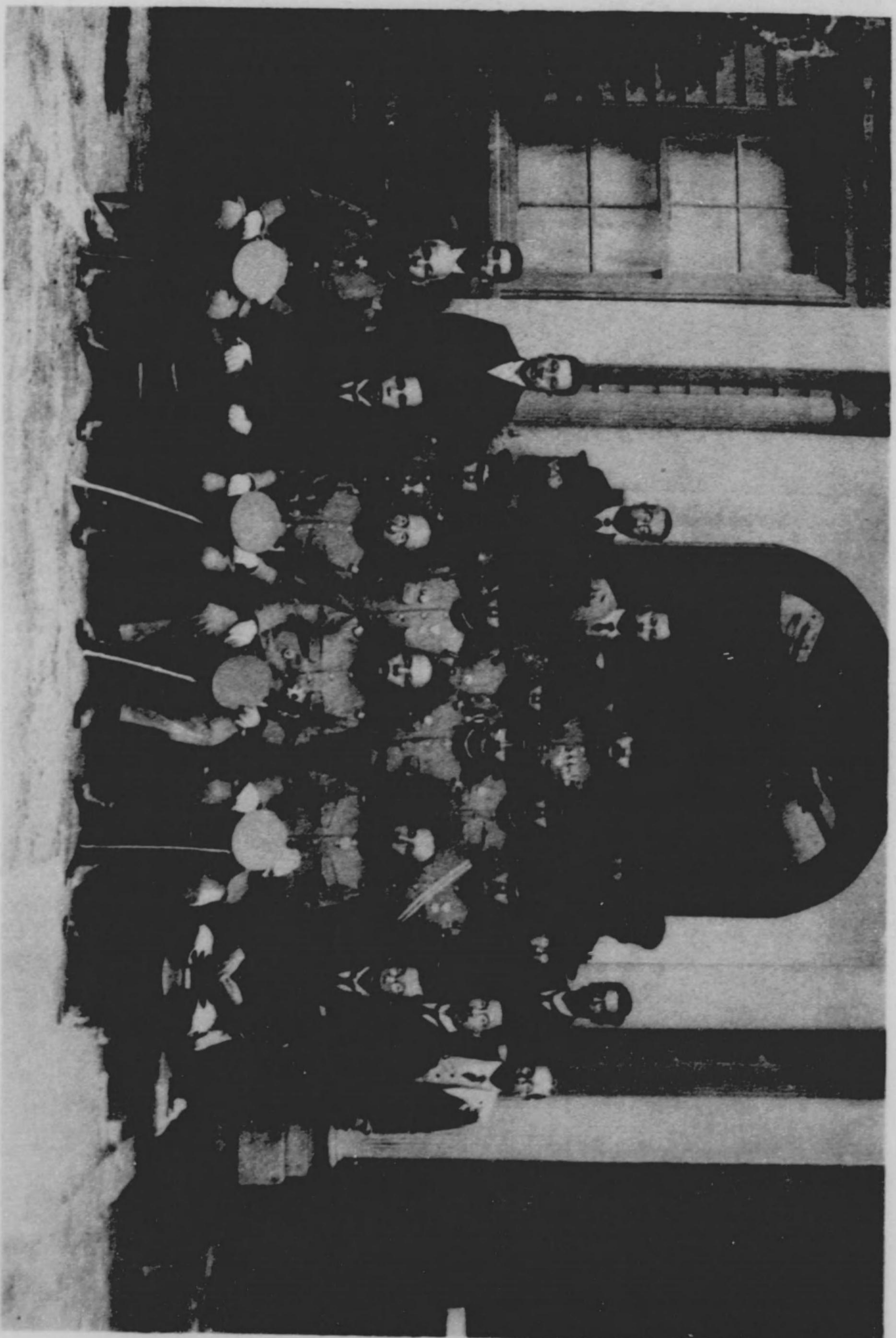


(昭和四年六月本誌  
戸田辰治氏寄贈)



小學校選手優勝旗

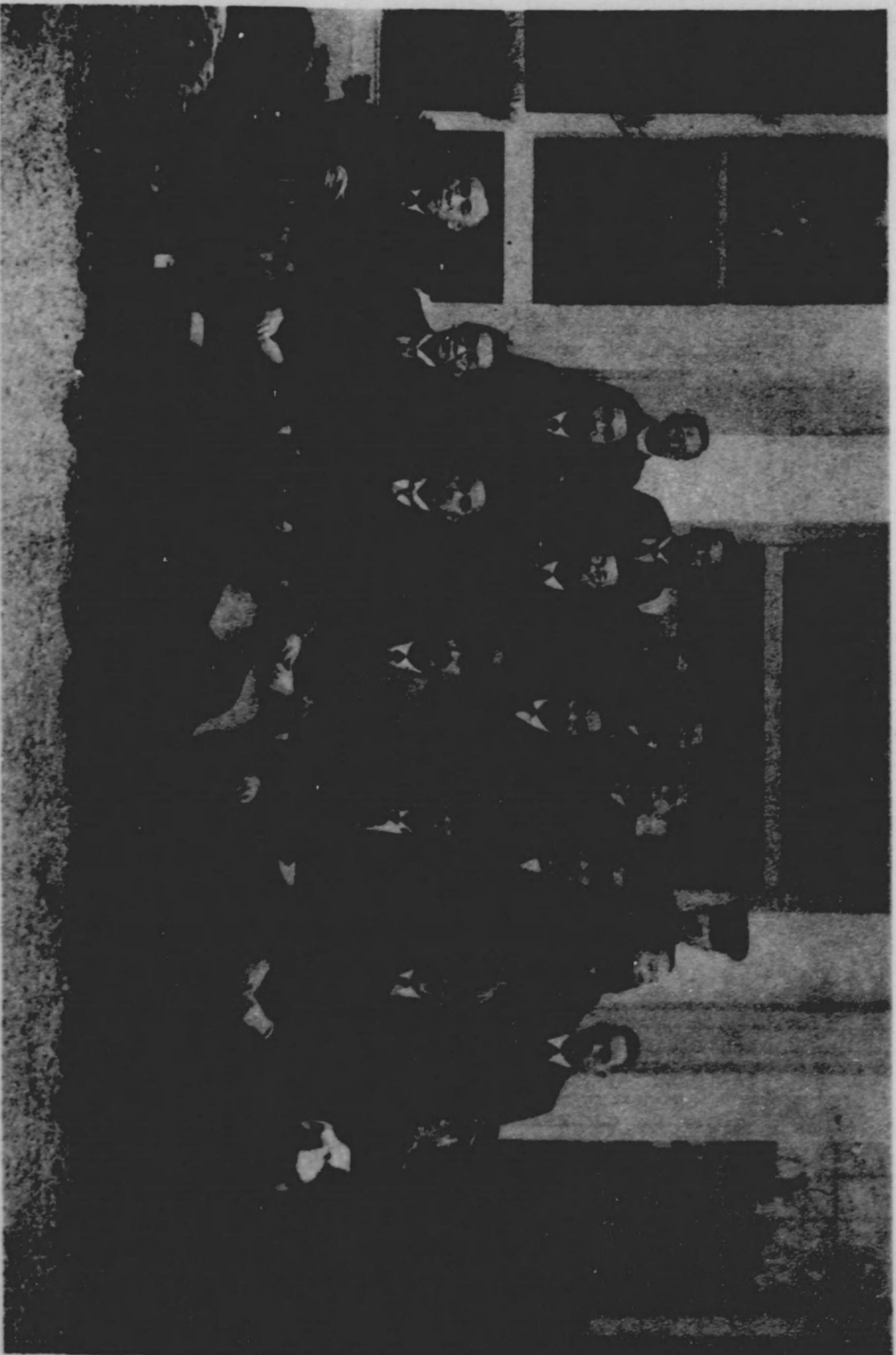
(昭和二年十月本誌寄贈)



宇垣陸軍大將來校記念

大將昭和三十五年九月日本郷軍青年訓練所生徒を檢閲の爲に於ては、本校に於ては、五十二年九月五日、演説の後、





岡知事來校記念  
(昭和六年三月三日)



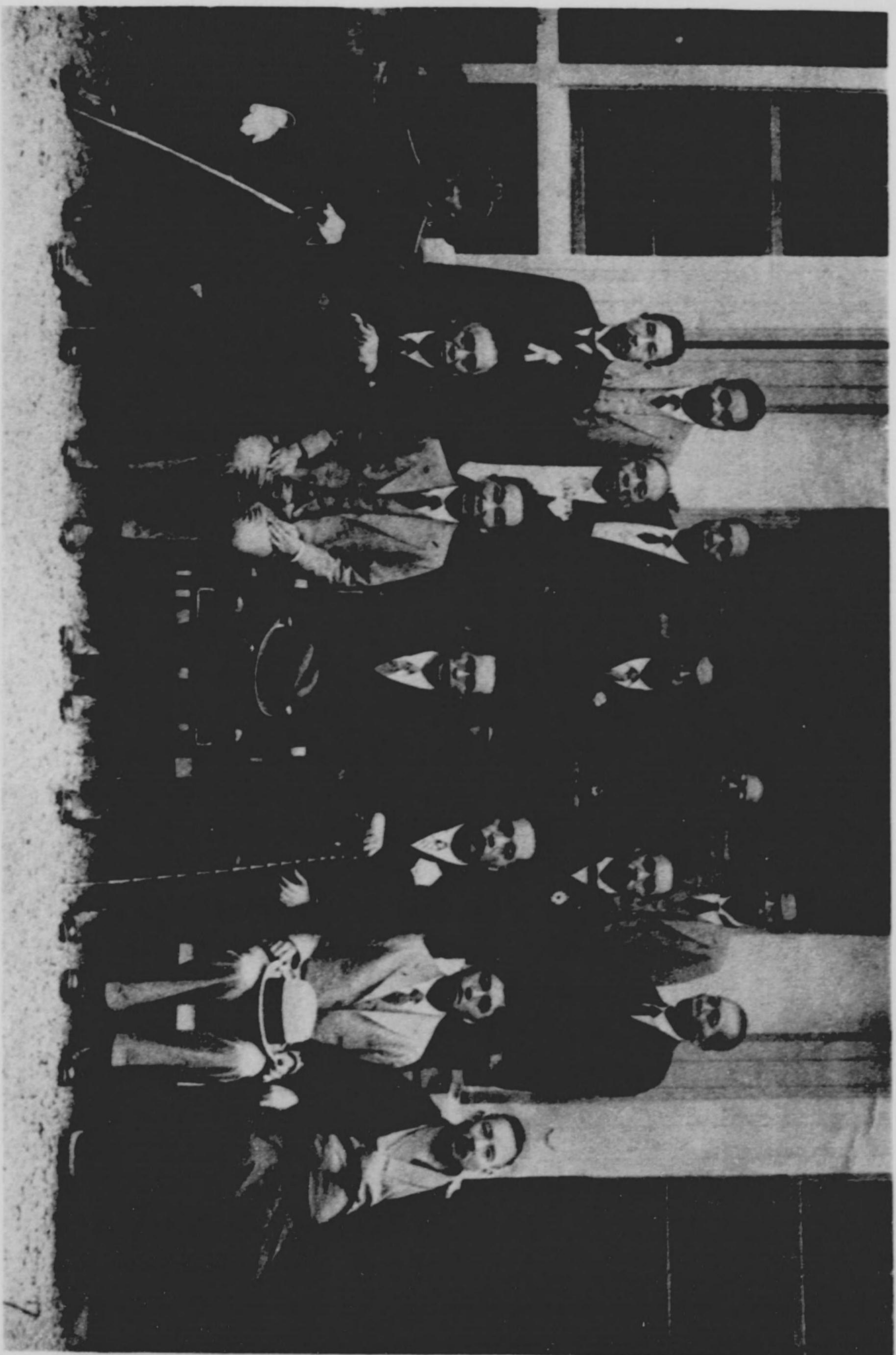
念記校來事知岡



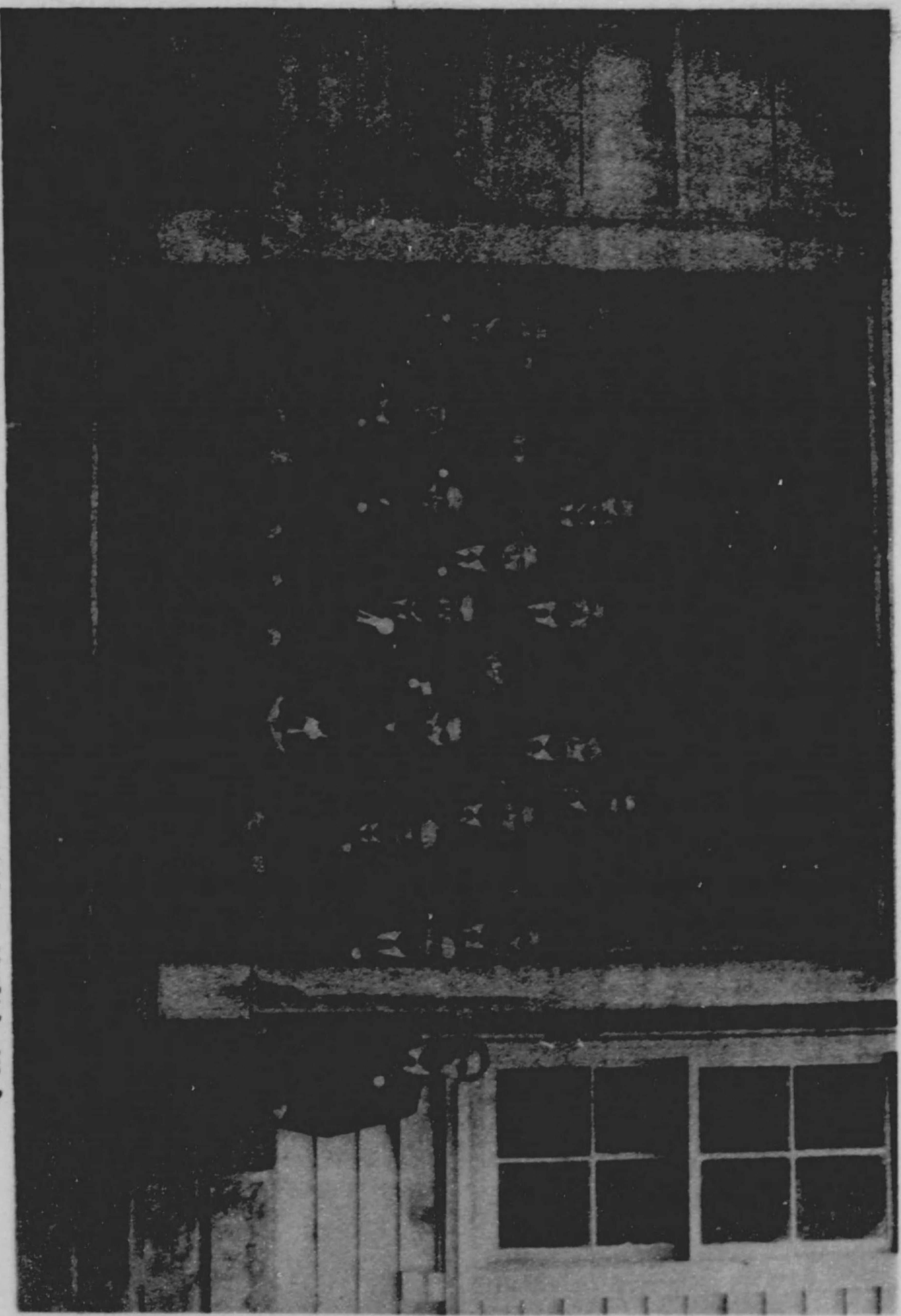
(日二月十年六和昭) 念記校來事知柳小



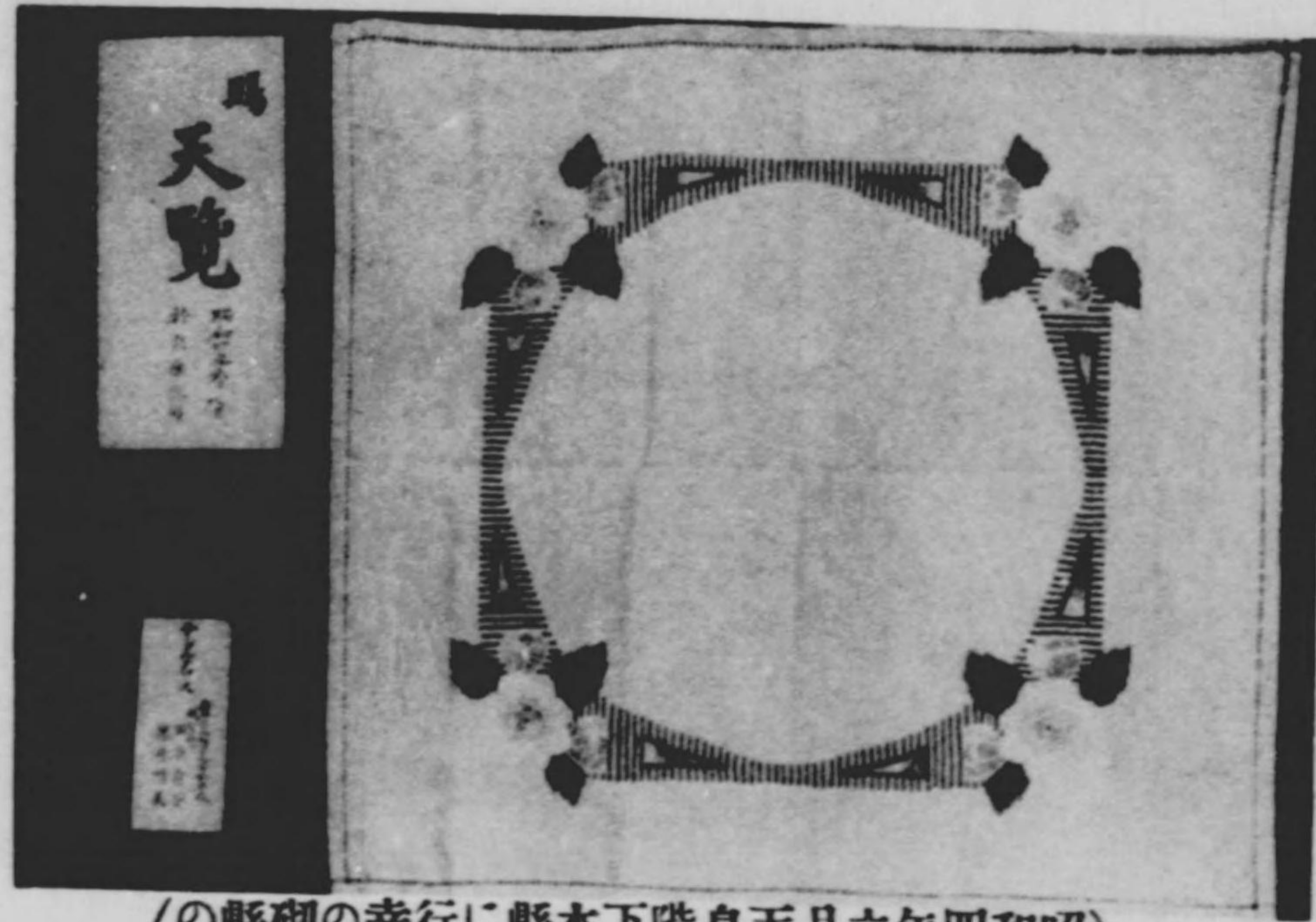
小柳來事紀念



小柳來事紀念 (昭和六年十二月二日)



(日八月五年七和昭) 念記席臨式念記年周十三他の其事知根白



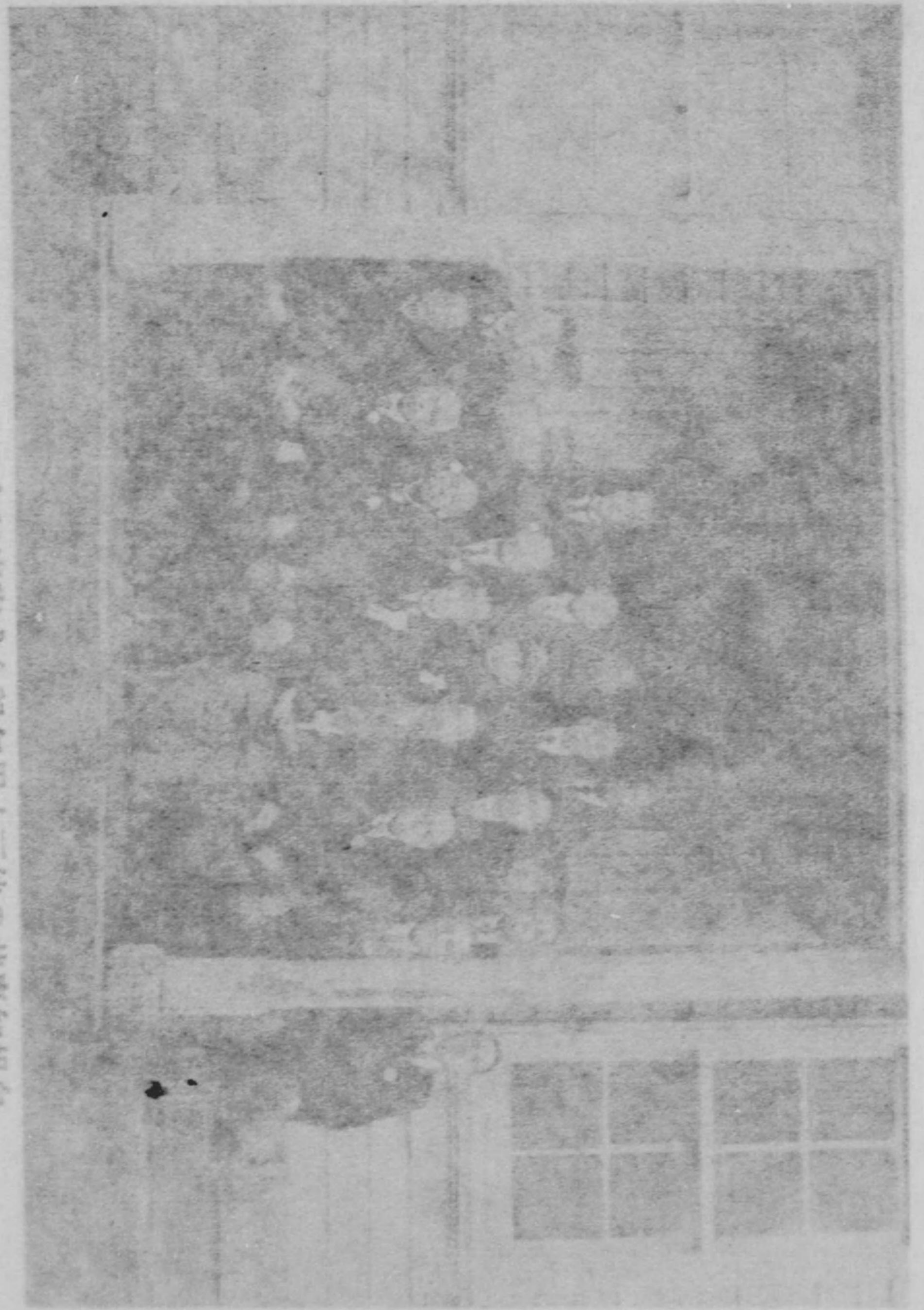
本校出品天覽品

(昭和四年六月天皇陛下本縣に幸行の幸に  
選抜を受け出品も天覽の光榮に浴したる)

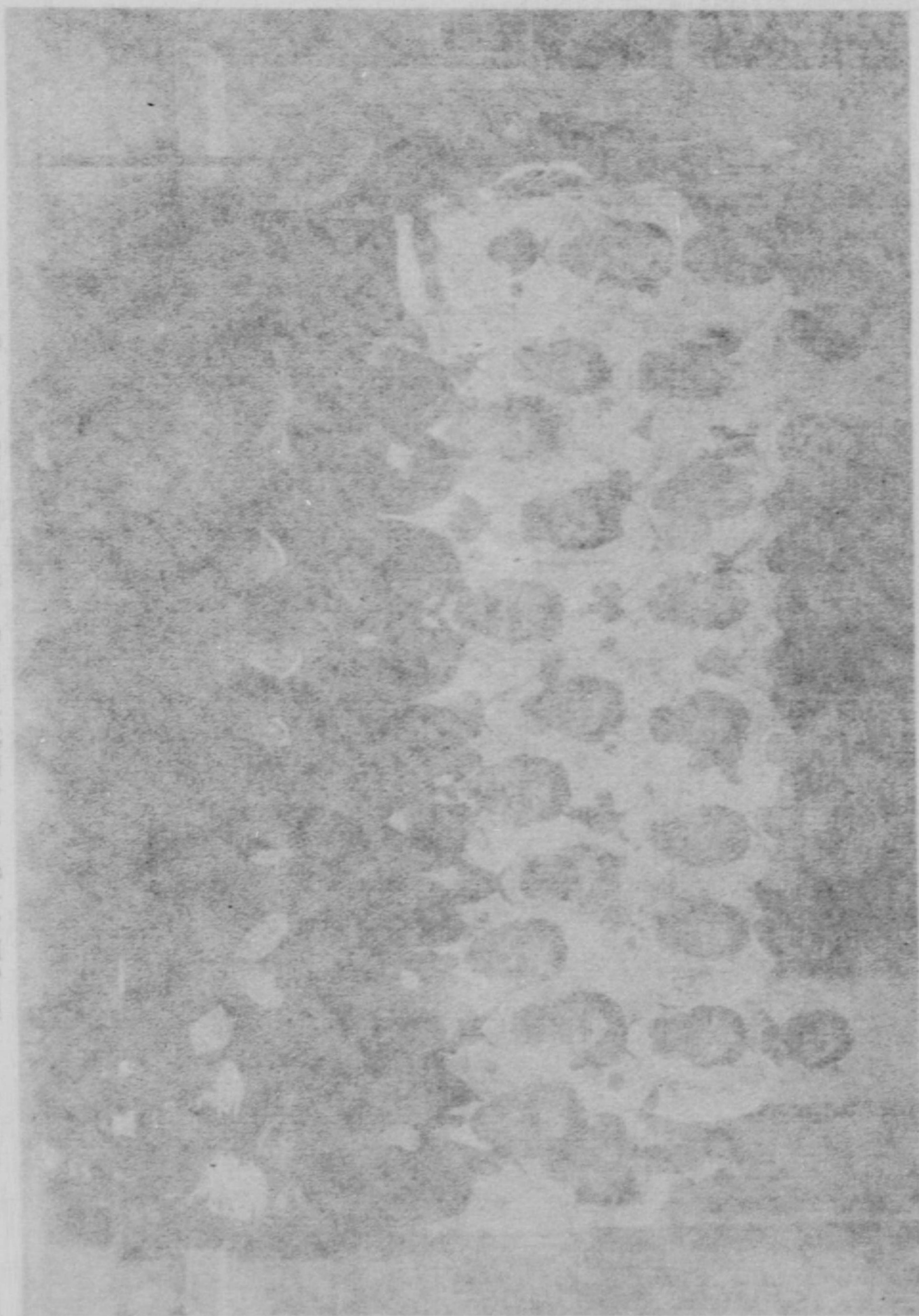


御大典記念教育品展覧會本校出品

(昭和三年十月本縣主催御大典記念教育品  
展覧會に出品し入選の榮譽を得たもの)

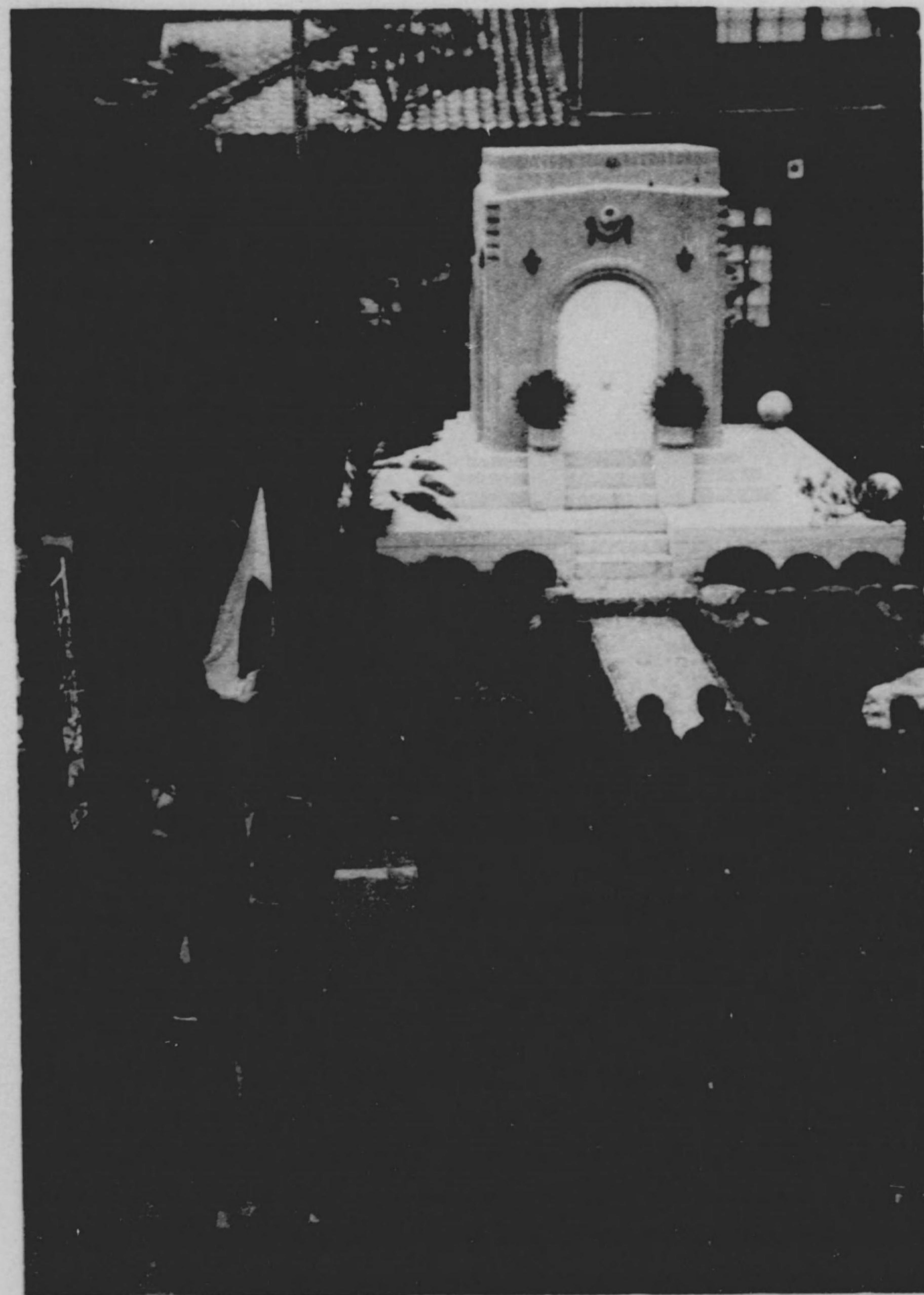


(昭和五年七月) 念記席婚式念記年周十三他の共事知照白

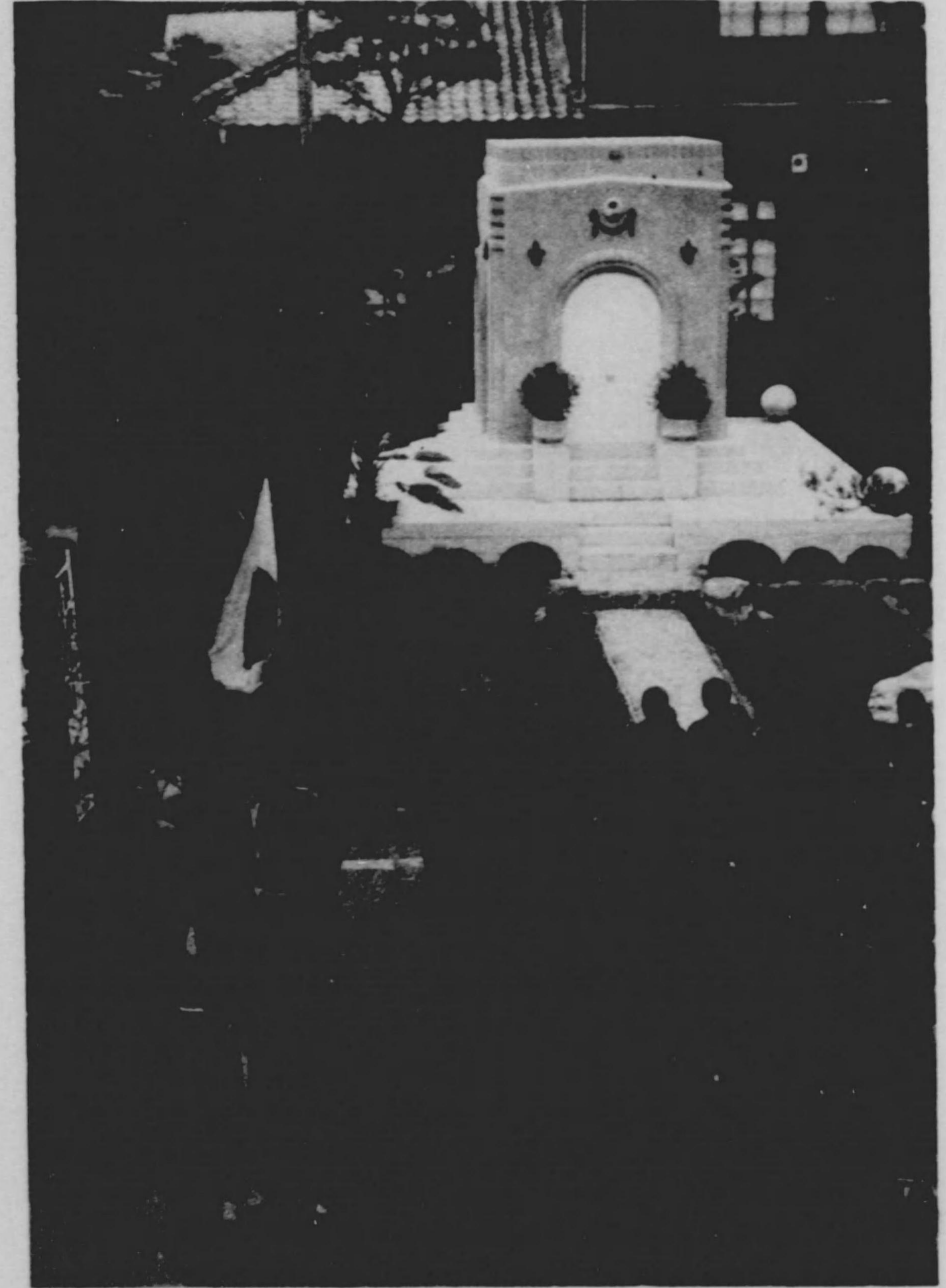


(生する其に舞五府二て於に揚是神皇統大日五月六年四和昭)  
(子と孫に榮光の其が古美代も授本れらせば行な開創鎮の年青)

(一) 念記加參開親御



式揚掲旗國念記典大御



式揚掲旗國念記典大御



式揚揚旗國念記典大御

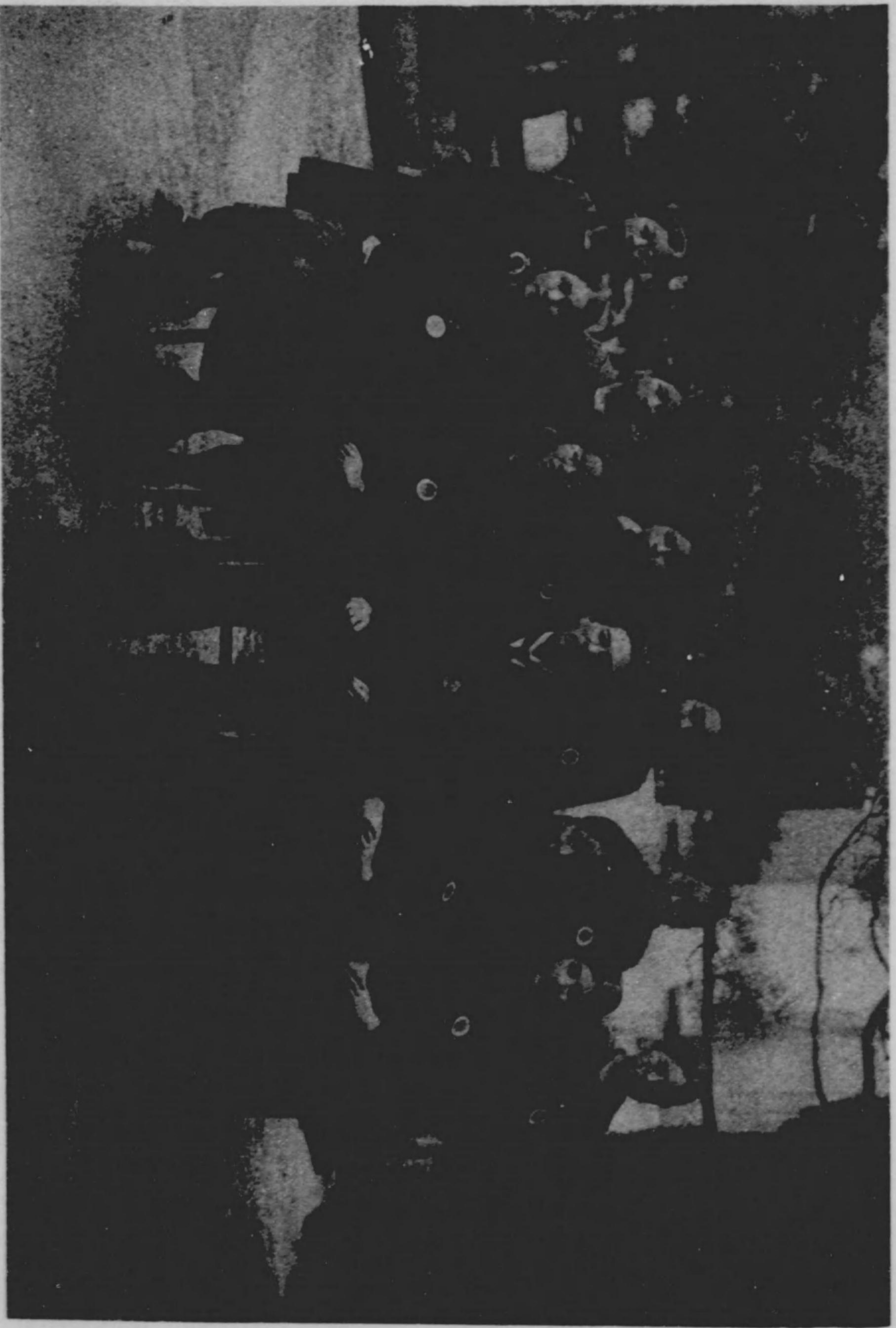
(一) 念記加參閱親御



(生學る互に縣五府にて於に場兵練東城阪大日五月六年四和昭)  
たし浴に榮光の其が者表代も校本れらせは行を閱親御の年青)



(三) 念記加參閱親御



(たつ擔を榮光の閱親御び再て於に場兵練東城阪大日六十月一十年七和昭)

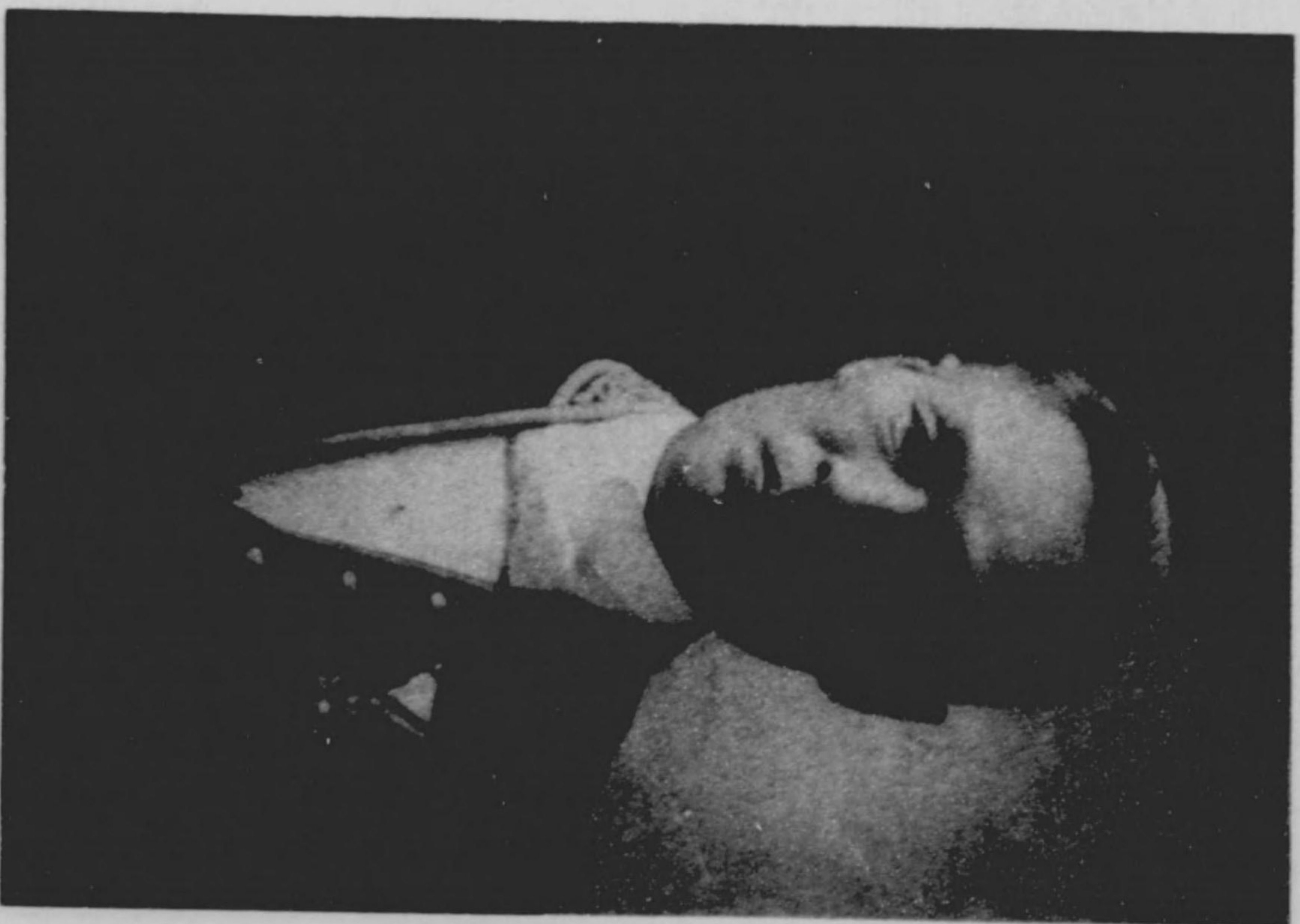
(二) 念記加參閱親御



(たつ藩を榮光の隨親御の御て於に場英練東威既大目六十月一十年七和略)



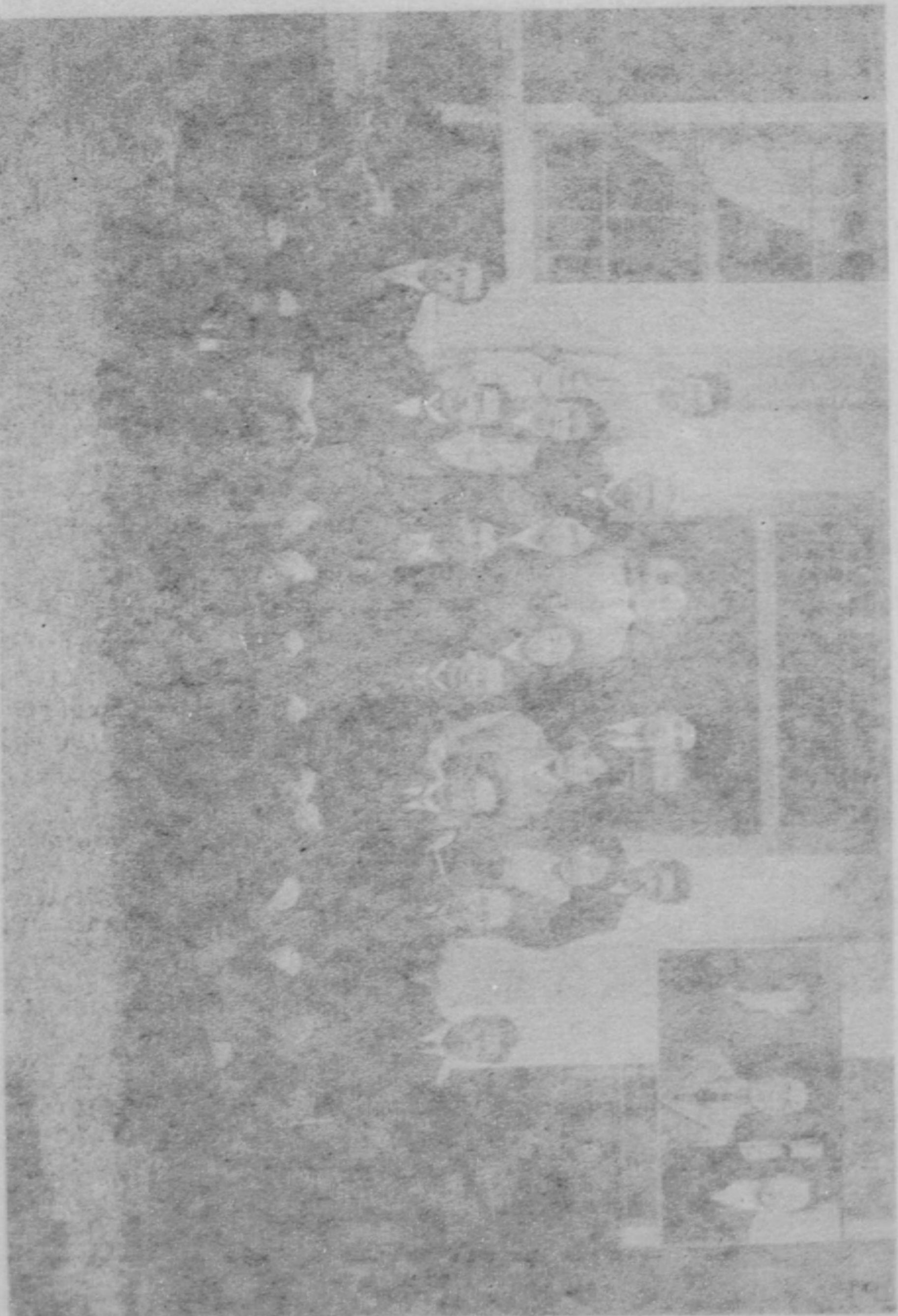
一 亮倉津長校代二



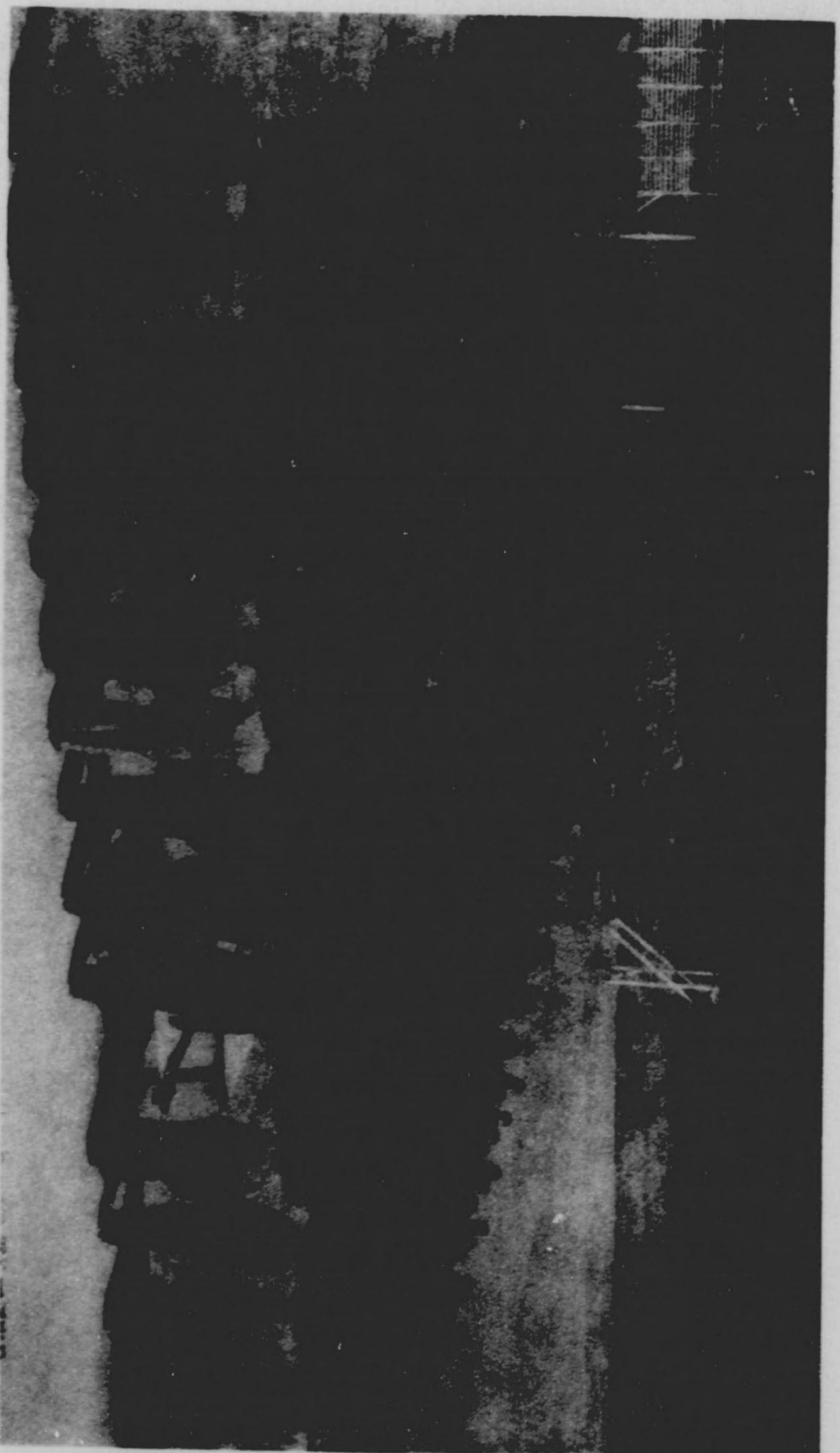
氏郎市九藤近長校代初



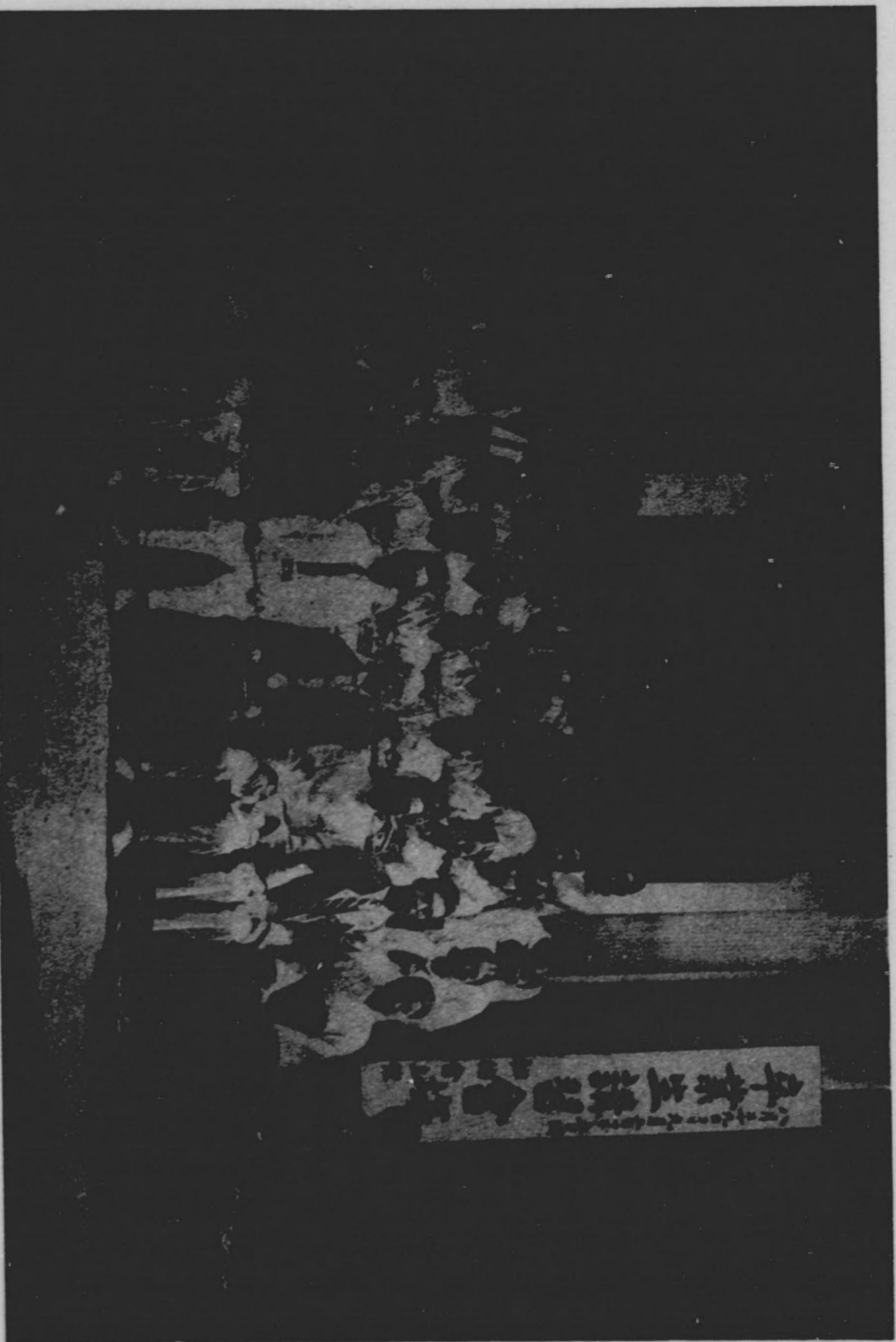
本 校 現 職 員



本校現狀



全校朝禮



(昭和七年) 卒業生講習會記念

## 序

本校は茲に三十年の歴史を閲した。人に在つては所謂而立の歳、之を記念せんがために本年五月八日其の式典を擧げ、更に各種の事業を遂行したが、今また此の記念録を編纂し以て過去を回想するの料となすと共に、深く現状を省察して將來の改發に資しようと思ふのである。

今や世は擧げて非常時を叫び更生を唱道する。教育のここ亦固より又新の事項尠しとせぬ。併しながら單に新奇を趁ひて歴史を尊重せざるは、恰も過去に執着して世の趨勢を顧みざるごと一般、殊に教育者の採るべからざる態度である。是れ誇示すべき何物をも有たぬ本校が、猶且つ本冊子を刊行して記念せんとする所以であ

る。

嗚呼三十年、長くもあり短くもある。吾等は千六百の卒業生と共に、年々歳々松柏の緑彌濃やかなるが如く、本校が永遠に亘つて益榮に行かんことを衷心祈念するものである。

昭和七年十一月

兵庫縣立柏原高等女學校長 津 倉 亮 一

## 凡 例

- 一、本冊子は昭和三年發刊した創立二十五周年記念録の續編といふ心持を以て編輯した。従つて過去の歴史については其の極めて概略を記すに止め、最近數年間に亘る現状を稍詳細に記述した故に兩書を併せ讀まれんことを希望する。
- 一、本冊子は特に本校教育の内容について精しく叙述する意圖であつたが、紙數に自ら制限あり且諸種の活動を其の意味に於てまとめるとは頗る難事であるから、是亦概要に止め一部分に縮約した依つて本書の記載する所を以て本校教育の全面に亘るものと速斷せられざらんこと望む
- 一、記述上の態度は筆者個人の觀念を超えて、學校又は松柏會といふものから書いた。その爲め職員に關することなども客觀的に取扱つた。
- 一、本冊子の編輯は河津啓太郎、進藤隆義、角田しを、澤野惠津子の四教諭、書記原田平三郎及び予の六名が擔當した、表紙圖案は田内駿士教諭の手に成つたものである。

昭和七年十一月

松 柏 會 長

松柏三十年 目次

序	.....	一
凡例	.....	一
第一編 學校	.....	一
第一章 沿革の概要	.....	一
第一節 町立時代	.....	一
第二節 郡立時代	.....	二
第三節 縣立時代	.....	四
第二章 教育の場所	.....	五
第一節 校地と校舎	.....	五
第二節 設備	.....	七
第三章 職員・生徒・卒業生	.....	一三
第一節 校長	.....	一三
第二節 職員	.....	一四
第三節 生徒及び卒業生	.....	一六

第四章 本校教育綱領……………一八

  第一節 傳統的精神……………一九

  第二節 教育目標……………二二

第五章 本校教育活動の實際……………二五

  第一節 勤勞の實踐……………二五

  第二節 自治の指導……………二八

  第三節 健康の樂園……………二九

  第四節 優しき愛……………三〇

  第五節 教員一致の研究……………三一

  第六節 卒業生の指導……………三三

第六章 社會への貢獻……………三八

第二編 寄宿舎……………四一

  第一章 寮 舎……………四一

    第一節 變遷の概要……………四二

    第二節 現 狀……………四三

  第二章 舎監及び舎生……………四三

  第一節 舎 監……………四三

  第二節 舎 生……………四四

  第三章 經營の概要……………四四

    第一節 方 針……………四五

    第二節 經 濟……………四五

  第四章 施 設……………四六

    第一節 櫻 橋 會……………四六

    第二節 雜祭 七夕祭など……………四七

第三編 松柏會……………五三

  第一章 沿革概要……………五三

  第二章 經費及び事業……………五六

    第一節 豫 算 例……………五六

    第二節 財 源……………六〇

    第三節 財 產……………六四

    第四節 小學校女兒の體育獎勵……………六六

    第五節 公開學藝會……………六八



第六節	温室の花	七二
第七節	松柏會誌	七三
第八節	校地の購入	七四
第九節	音楽會	七五
第三章	卒業生の活躍	七七
第一節	社會的活動	七七
第二節	熱烈なる母校愛の發露	七八
第四編	松柏圖書館	八二
第一章	建設の由來	八二
第一節	建設の經過	八二
第二節	成效	八三
第二章	設備及び圖書	八四
第一節	設備	八四
第二節	圖書	八五
第三節	委託圖書	八六
第三章	經營狀況	八七

第一節	經費の變遷	八七
第二節	役員	八八
第三節	圖書館利用狀況	八九
第四章	自由の學園	九二
第五編	家庭會	九五
第一章	設立事情	九五
第二章	役員	一〇〇
第三章	會員	一〇三
第四章	活動	一〇三
第六編	三十周年記念祝賀狀況	一〇六
第一章	準備	一〇六
第二章	行事の概要	一〇八
第一節	記念式及び祝賀會：式辭、告辭、祝辭、祝電	一〇八
第二節	追悼會、生徒宴會及び映畫會、祭文	一三三
第三節	音楽會	一三九

第四節 講演會……講演要領……………	一四〇
第三章 展覽會、バザー及び記念品……………	一五〇
第一節 展覽會及びバザー……………	一五〇
第二節 記念品……(附記)……………	一五四

# 松柏三十年

## 第一編 學校

### 第一章 沿革の大要

#### 第一節 町立時代

本校の濫觴たる岷山は明治三十六年三月の設立に係る柏原町立女學校である。同校は前年四月創立した町立小學校女子補習科の姿を變へた小學校類似の各種學校に屬するものであつて、今日の女學校とは其の組織程度を異にするものである。併しながら當時の學則に依れば、本科の修學年限は三年であり高等小學校二學年修了者を收容することゝして居るのであるから、所謂乙種程度の高等女學校とでも稱すべきものであつて、既に今日の形態に進むべき素地を備へて居たのである。

當時縣下に於ては男子の中等教育機關は急速なる勢を以て普及し、當地に在つても明治三十年縣

立の中學校が設立せられ、女子中等教育も亦漸次其の氣運が起り、公私立のもの數校を數ふるに至つた。本校は斯かる機運に乗じ當地方の事情に鑑み、爰に女子教育の振興に努むべく基礎を築いたのである。けれども校舎は小學校の一部を充て、内容設備も亦甚だ貧弱なるを免れないため、切りに郡費の補助を要求したが漸くにして三十九年初めて九百圓を受くるに立つた。而して此の頃縣下各地に郡立高等女學校の設立せらるゝものもあり、本郡に於ても夙に教育に熱心なる識者の間に寧ろ郡に移管せんとするの議起り、同時に郡役所(現在の本校北隣なる基督教會)の移轉問題及び郡立病院(現在の本校本館)の存廢問題が議せられ、是等と共に解決することとなり結局郡役所は現團體事務所へ病院は町立として現基督教會へ、而して本校は郡立として現在の位置に移轉することとなつたのである。

## 第二節 郡立時代

本校が明治四十一年郡立となるや爰に高等女學校令に依る高等女學校に昇格し、小規模ながら獨立の校舎を有し元高等小學校であつた本館を中心として當地方女子のために高等教育の機關は確立せられ、本郡が如何に教育に理解あり進歩的であるかを明に立證するに至つたのである。寧ろ本校の正確なる誕生は此の年にあると言ふべきである。事茲に至るに就ては日露戦役の大勝が國民教育

の普及に基因するとまで唱道せられ、非常なる勢を以て教育の進展を叫んだといふ時勢の然らしむる所もあつたが、特に近藤校長を初め當時の柏原町當局者及び有識者の諸氏竝に郡當局郡内識者の熱誠なる苦心は容易ならぬものがあつたであらうし、本校としては其等の諸氏に對し永久に亘つて之を記念し深甚の感謝を捧げねばならない。爾來校地の擴張校舎の増改築等數次に亘つて行はれ高等女學校としての面目は漸を遂うて整へられたのであるが、教育の内容についてもかなりの變遷があつた。

時に明治四十三年十月高等女學校令に改正が加へられた。當時の文部省訓令によると新に實科を設け特に裁縫及び實業に重きを置き以て家業を重んじ勤勞を尙び質素勤勉の氣風を養成し中産家庭の主婦たらしむるを目的としたものである。趣旨は甚だ時宜に適したものであつて、本校も之に則り土地の情況に應ずる意味を以て、大正二年から實科高等女學校の制に變更した。之が爲に裁縫時間を増加する外實業に於ては蔬菜果樹の栽培及び養蠶の實習等も行つたのである。然るに事志と違ひ、地方一般の風潮は却つて實科を歓迎せず入學志願者の如きも甚しく減少を見るに至つた。

斯くて世は著しく進展し一面近代的なる浮華輕佻の風も盛ではあるが、他面文化の發達も目醒しく、女子教育亦大に振興するに至つた。是に於て本校は大正七年實科を廢して再び高等女學校の制に引戻したのである。

又財政の方面に於ては設備の完成を期するに従つて経費の多端を加へ、明治四十三年以來縣費の補助を受けて居たのであるが後郡制廢止の聲起り、郡財政の處理と共に本校管理の主體も亦變動を免れぬこととなり管爰に縣管移の運動を初め、爲めに校舎設備の改造及び生徒定員の倍加（即ち四百名）を行ひ移管の準備は整へられたのである。

### 第三節 縣立時代

郡制は愈々大正十年四月勅令を以て廢止せられることとなつた。そこで縣下郡立高等女學校は夫々條件を附して縣管に移管せられることとなり、本校も亦當時の縣會議員、郡當局等幹旋に努め遂に翌十一年四月より兵庫縣立柏原高等女學校の看板を掲げるに至つたのである。是に於て前年生徒定員を四百名とし八學級編制とした關係上、それに適應する設備を要することとなり、十年より二ヶ年の経續事業として七教室及び寄宿舎の一部其他校舎の大増築を行ひ、又運動場の擴張を執行する等郡は多額の費用を投じて茲に縣立學校たるの面目を整へ、十二年三月移管式を兼ねて増築落成の盛典を挙げ本校歴史の一新紀元を劃したのである。

右の如く殆んど現狀に近き堂々たる形態は出來上つたのであるが、こゝに甚だ遺憾であつたのは理科を主とする内容設備の不備なる事であつた。大正十二年 皇太子殿下御結婚の御慶事あり、之

が奉祝の記念事業として教授設備の充實を企劃したが、幸に當時の父兄及び有志の協賛を得、爰に御慶事記念事業協賛會なるものを組織し、其の幹旋により五千七百餘圓の醸金を得、漸次機械器具を購入して設備を終へ、同會は十四年三月解散するに至つたのである。

さて願て縣立移管後四年間に於ける教育そのもの、内容如何を考察するに、先づ組織については明治四十一年郡立となるに及び學則を改正して本科四年補習科一年を置き、後本科を實科に改め再び本科としたことは既に述べた通りであるが、大正十一年縣立に移管せられると同時に補習科を廢止し定員を四百名とした。然るに超えて十四年に至り再び補習科を復活して九學級四百五十名の定員として今日に及んで居るのである。而して縣立となれば其の學則に基くのであるから特に本校の特色として擧ぐべきものはないのであるが、併し學科課程に於て農業を各學年に亘つて課したこと、は確に本校の一特色である。後年教育思潮に促されて本縣立高等女學校が總て園藝科を置いたのであるが、本校は夙に實業の名稱の下に之を實施し來つた所である。

## 第二章 教育の場所

### 第一節 校地と校舎

—飛行機上より俯瞰したる本校附近—



(所判裁は下左・校學小は右・校本が上左てつ向)

環境が人々の氣分性格に大きな影響を有つといふことは疑はれない事實である。此の點に於て本校は非常に恵まれて居る。現在の所在地は南隣の小學校等と共に柏原藩主の邸宅跡であり、柏原町の東部に位し少し隔て、山を負ひ、校舎の階上から西の方を望めば全町を一眸の間に聚め鬱蒼たる入般山を指呼することが出来、極めて閑靜で教育の場所としては唯水明の美を缺くのみで殆んど理想的である。

此の地は元郡立の觀ある氷上高等小學校の占むる所であつたが、後本郡吉見村上田にも高等小學校が設置せられ、漸次各町村に尋常小學校と共に併置せらるゝに及んで廢校となり、校舎は郡立病院として使用せられたので

あるが、更に町立として北隣なる現基督教會に移轉すると共に、幸にも本校の占有する所となつたことは前にも言及した通りである。

明治四十二年初めて此處に移轉した當時は、現在の運動場昇り口なる石崖迄であつて、凡そ現校地の半にも過ぎないものであり、校舎も本館が教室の殆んど全部で裁縫作法室等が現理科室の邊にあり、寄宿舍の如きは町内各所の民家を借用して居た有様である。併し其後生徒の定員も増加し建物も古く狭くなつた爲め數次に亘つて増改築も行はれ運動場も擴張せられ、遂に大正十一年縣立移管となるに及んで大増築が斷行せられ、次で補習科の設置と相俟つて現状の如く九學級定員四百五十の學校としては先づ相當の規模となつたのである。

## 第二節 設備

校地及び校舎についての設備の概要は前述の通りであるが、更に各部分に就て大略を記述しよう

### 一、缺陷

本校は一見其の校相が立派なるために設備上缺陷ありとしも見えぬのであるが、教育上から仔細に點檢すればかなり大きい缺陷がある。

#### (1) 講堂の無いこと

學校建造物の中心は講堂であり、講堂が單なる儀式的場所に止らず各種の教育上必要であることは論を俟たぬ。然るに本校は不幸にしてこれが無いので辛うじて雨天體操場を兼用して居る。何とかが増築を切望して止まぬ。

### (2) 二普通教室の不備

現本館二階の二室を普通教室に充てゝ居るのであるが、細長く天井低く窓少く、爲めに通風採光等に於て甚しく不適當である。是亦改造の急なるものがある。

### (3) 裁縫教室の不足

現在は裁縫専用の教室は一室しか無い。九學級の學校としては少くとも今一室は必要にして不可缺である。依つて現在は作法室と兼用にして居るのであるが、兩科學科の性質上其の内容設備が異なるため實際上の不便利が甚しい。

### (4) 地歴教室の無いこと

地歴教授には各種の圖書標本の類が必要であるが、之を各普通教室へ毎時間持運ぶことは日常の仕事として至難の事である。即ち教授準備といふことが事實上出來難い。故に現在は一普通教室に同居して居るのであるが、其の爲に生徒は屢々移動して學習せねばならぬので常に甚しく繁雜を極める。

### (5) 物化博の同居

物理化學の教室と博物教室とは各獨立して存在することが常態である。然るに本校は三科同居して居るために、殊に準備室が狹隘繁雜で其のため教授能力に影響せざるなきやを恐れて苦心一方ならぬものがある。

### (6) 寄宿舎の位置近接に過ぐ

狭い校地内に教室と相對し又相接続して寄宿舎がある。説明しなければ其れが寄宿舎であることには何人も氣附かない。概ね教室の一部だと誤認する位である。是れは舍生監督上便利の様で却つてさうではなく、又舍生自身も家庭的氣分に乏しく外出の如きは規律が立ち難い。甚しい缺點といふほどでないが今少し校舎から離れて居る方が望ましい。

### (7) 其他

前記の外、運動場の狹隘、自轉車置場の狹小等々については猶不備に思はれるものもあるが今一々之を列舉することを止める。

以上の諸點は決して理想を標準として之を缺陷なりと言ふのではない。極めて普通の希望に過ぎぬものであるが、本校の成長が漸進的であつて最初から完全なる計劃の下に成されたものでないから止むを得ない。併しそれがまた本校歴史の特色の存する所であり次々への將來に望みをかけて生

ひ立つて来た所以であるとも言へる。

## 二、特色

前述の如く本校の設備には固より缺陷と認むべきものもある。併し又一面他校に比して些か特色なりと信するものもあるのである。

### (1) 物化設備の充實

これは前章第三節に於て概記した如く御慶事記念事業として廣く多數の寄附に依つて整備したものである。殊に生徒の實驗用具は概ね充實して居り、寧ろ之を使ひこなすことに相當の苦心を要する位である。

### (2) 圖書館

別項記載の如く大正五年の頃から計劃されたものであるが、竣工したのは十年後の大正十五年冬の事である。固より獨立の圖書館に比すべくもないが、一枚のものとしては教育上多大の便益を得一特色として數ふるに足ると信する。藏書今日猶貧弱を免れないが、幸にして小島友吉、足立武一郎兩氏の甚大なる厚意に依り夥しき書籍を寄托せられたため、當地方に稀な内容を備ふるに至つたことを感謝せざるを得ない。

### (3) 奉安殿

御眞影の奉安所は學校に於ける一の神殿とし且火災等萬一の場合を豫想して、小學校に於ては夙に土藏風のものが安全地に建立せられたものであるが、何故か中等學校は甚だ遅れて居る感があつた。然るに近年各地中等學校に之が建設を見るに至つた。

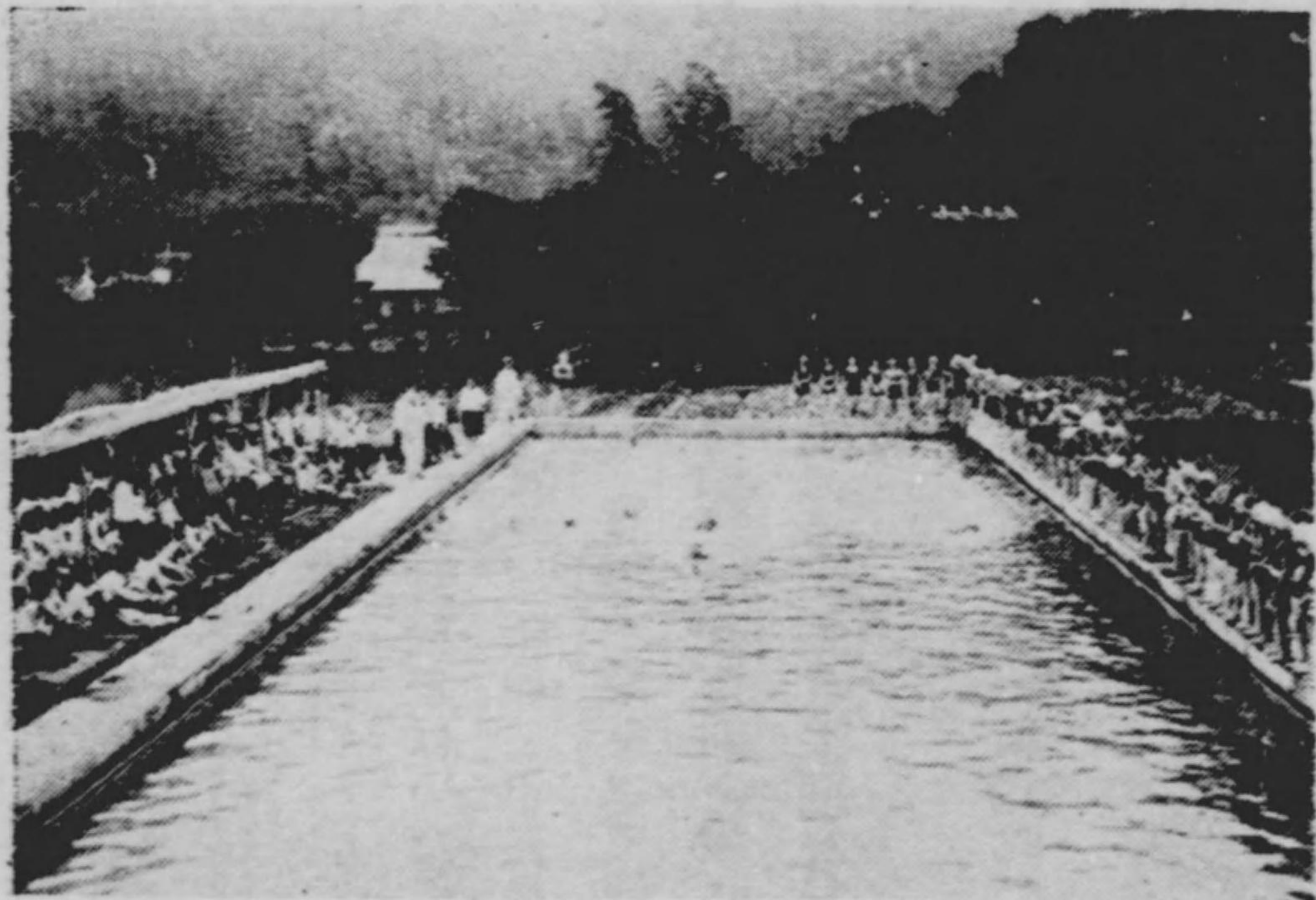
本校の奉安所は從來本館二階の一隅で、甚しく粗末であり萬一の場合を豫想すると殊に恐懼に堪へない有様であつた。津倉校長はいたく之を憂へ私に新設を希望して居たが、時恰も御大典奉祝の記念事業を策するに當り、昭和二年五月の父兄總會に於て中島敏之介氏之を父兄の贖金に依つて建設せんことを主唱し、滿場一致を以て即決した。茲に於て三十五名の委員を擧げ更に九名の特別委員を囑託し、總費用約三千五百圓を投じて現在の奉安殿及び其の附近の庭園を築造し、本校前景の面目を一新して現に見るが如き美觀を呈するに至つた。其の落成の式典を擧げたのは昭和三年五月であつた。

此の奉安殿は他に類例の少い新様式であり、且出來榮が甚だよろしいとの好評を博し、現に春日部小學校のものは僅かに規模を小さくしたのみで全然同一の様式であり、かなり遠方から多くの參觀者があつたほゞである。

### (4) 近藤前校長壽像

前校長近藤九市郎氏が本校の成長に對する盡瘁貢獻の甚大なることは屢々述べた所であるが、其

―本校プールにて選手遠泳中の光景―  
(昭和三年七月竣工)



の退職後本郡町村長諸氏に於て同氏の徳を永久に傳へることとなり、約千五百圓を醸出して壽像の建立を企てられ諸氏の斡旋に依り遂に大正十五年冬竣成し除幕式を舉げた。本縣下には此の種の例甚だ少く殊に中等學校に於ては極めて稀な美舉と謂ふべきである。

#### (5) プール

本校は毎年夏季休業の初めに生徒の有志を募集して但馬竹野濱に海水浴を行つて來た。併し其の有志は僅かに二三十名に過ぎないのに、附添職員は五六名の多數でかなりの費用を要するに拘らず効果之れに伴はないことを遺憾に思つてゐた。是れ海國女子として多少の水心あるべきを、當地方は全く水泳場の無いためである。然るに偶々昭和三年春當町消防組に於て防火用貯水池設置の企てあるを知り、プール兼用とせられんことを希望したが幸に當時の縣會議員畑七右衛門氏、町消防組頭岡林佐市

氏等の好意盡力に依り縣當局の容るゝ所となり、即ち町から二千五百圓を寄附せられ、縣より四千餘圓を支出し茲に現プールが實現したのである。そこで昭和三年以來毎夏全生徒をして水泳練習をさせることが出来るやうになつた。

#### (6) 校旗

校旗は學校精神の象徴として將又校風發揚の具として甚だ必要なものである。本校は古い歴史を有しながら校旗の制定無きを遺憾とし、昭和四年六月五日 聖上陛下關西行幸に際し御親閲を受ける光榮ある千載一遇の機會に之が制定を企劃した所、幸に佐治町芦田辰治氏の寄贈を受けることとなり、大阪高島屋に依囑して調製を了し、六月四日芦田氏の參列を乞ひ職員生徒一同及び同窓會員代表參集、千種神職によつて入魂式を厳修し、翌五日之を捧げて御親閲を受けたのである。旗は深紅の地の中央に本校徽章を刺繡したもので、見るから優雅な中に生々とした活氣と一味の嚴肅とを感ずるものである。

## 第三章 職員、生徒、卒業生

### 第一節 校長



初代 近藤九市郎先生

明治三十六年柏原町立女學校が創設せられるに當り、前々年から同町立崇廣尋常高等小學校長であつた近藤先生が兼任となり、同四十一年郡立高等女學校に昇格せられるや校長兼教諭に任せられ爰に専ら本校のために盡瘁せらるゝことゝなつた。爾來引續き校長として本校の生みの親として苦心經營し、幾多の變遷を経今日の盛運を築き上げたのであるが、健康勝れず遂に勤續二十三年にして大正十五年三月依願退職せられた。

二代 津倉亮一先生

大正十五年四月本縣視學津倉先生が當校長に補せられた。先生は多年教育行政に従事せられて居たが爰に本校に赴任せらるゝや、頗に清新の氣を加へた感があつた。本校の傳統を尊重すると共に更に教育方針を確立し、銳意内容の整備に着手せられ、又新に學校の餘力を見出して努めて一般社會の爲に貢献せんことを企てられ、校風の顯揚と共に潑刺たる校運の隆昌を見るに至つた。

第二節 職員

本校創立以來現在に至るまでの職員は他校からの兼務者を除き、訓導教諭囑託等を合せて約百十五名であり、書記七名、校醫十三名である。是等の諸先生が校長を援け熱誠を以て本校の進展に盡

瘁せられた效績は多大なるものがある。今一々其の芳名を記することを得ない失禮を謝すると共に只明治四十一年郡立以來の教頭先生の氏名を掲げて謝意を表する。

- 明治四十一年五月より大正二年五月まで 前田 勵先生
- 大正二年六月より大正六年一月まで 佐藤 良 薫先生
- 大正六年二月より大正九年五月まで 川田 以一先生
- 大正九年五月より大正十四年五月まで 久保田 由四郎先生
- 大正十四年五月より昭和二年三月まで 清水 敏二郎先生
- 昭和二年四月より 現任 河津 啓太郎先生

尙本校職員中教諭の勤續年數を調査するに、現教諭角田しを先生の十二年以上を最長とし、最短二箇月の先生もあるが、今明治三十八年頃の未詳の分數名を除き、百十四人の勤務月數は總計三千七百二十六箇月であつて、之を一人當りにすると三十二箇月七分即ち凡二年九箇月となる。他校に比して如何であるかは今之を知ることが出来ないが、教育上から見ても些か遺憾とする所である。



る。が近年但馬地方及び阪神地方からの入学者が多少増したのであつたが、最近に至つては、三田生野兩高等女學校が縣立移管になり且つ經濟的關係等もあつて著しく減少した。

生徒は一般に健康であり眞摯である。此の點は大に誇つて良いと信ずる。今一々之を實證することを略するが、毎年精勤皆勤者頗る多數に上ること、近年實施する勤勞作業等に於て些かも嫌意の風なく、愉んで自ら勞働する事實だけでも推知するに足る。

卒業生は昭和七年三月までに實數約千六百人ある。皆夫々其の所を得て幸福なる生活を營んで居る。而して其の家族と共に全國に分布して居ることは勿論、外國に在住の人も尠くはない。殊に最も喜ぶべきことは皆母校を想ふこと厚く、度々の記念事業等にも醵金して其の發展を助け、又最近支部組織が普及して母校との關係がいたく密接となつたことである。是等の點は他校に比して遜色なきのみならず、寧ろ本校の一特色と謂ふべきである。

## 第四章 本校教育綱領

本章及び次章に於ては本校教育の内容について記述しようと思ふ。此の種の記念録は多く所謂沿革を主とする環境の歴史的事情を記述するのが一の様式になつて居るが、今回は些か其の型を破り

教育其のものゝ内容をも記して本校の精神を明かにしようと思ふ。但し此の事は外面的事實を列擧すると異り、教育活動の精神に入るのであるから頗る難事である。其れ故遠きに溯つて其の内面的精神の變遷を明らかにすることを止め、津倉校長の時代となつてからの最近數年間に於ける事實を基礎として本校の教育精神を明にしようと思ふ。

### 第一節 傳統的精神

#### 一、實用主義

茲に實用主義と云ふは、プラグマチズムの譯語を用ひたのではなく、所謂役に立つ教育を重視すると云ふ意味に於てである。本校の生ひ立ちが既にさうであつたことは、本校が小學校の延長であり、女子にとつて必要な學問技術の習得を目標とし、創立の頃に於て本科の他に技藝専修科及び選科なる分科を設け、更に三科共に裁縫手藝の教授時間が全體の三分の二を占めて居り、又生花茶儀等曲の如きをも隨意科として課したことも立證し得る。此の教育方針は校長の勤績と共に牢固として抜くべからざるものとなつた。其の後一旦高等女學校としながら實科に改めたことによつても將來一家の主婦として其の内政を掌る上に直に役立つやうにと云ふ意圖が見える。

此の精神は今猶本校の一目標として尊重する所であるが、唯餘りに實用に墮して高等女學校本來

の性質から遠ざかり、或は教育をして卑俗に功利的に流れしめぬやうに注意して居るのである。

## 二、農村主義

語は商工主義に對立して専ら農業教育を施したといふ程の意味ではなく、夙に農業に關する教育を加味して來たことを指す。是れは前記の實用主義から當然演繹されることであるが、特に獨立させた。

本校は純農村地方に存在するといつても可い。環境が都市に遠い農村であると云ふばかりでなく生徒の如き少數の者を除いては殆んど全部農家の子女である。斯かる地方的事情に依つて農業に關する知識及び技能を授け以て農家の主婦として將又一般に農業に對する理解を扶植しようとしたのである。此事は大正二年實科制に改めた頃明になつたことではあるが、當時猶ほ實科の語は多く家政を重視する意味を出でなかつたことは、其の學則及び實習地の極めて貧弱であつたことに依つて知られる。併しながら既に花卉蔬菜の栽培や養蠶まで僅かではあるが實習せしめたことに由つて、本校が此の方面の教育に意を注いだことを證すべく、又今日に至るまでも之を傳統的精神として益々擴充して居るのである。

今やかよわい少女の手によつて耕耘し播種し除草し施肥する等多大の工夫と勞力とを要する仕事としては、稍廣きに過ぐる程の實習地を有し、稻まで作る教育を施すことは昔に較べて些か奇とす

べき觀はあるが、一は却つて時世の要求と他は教育思潮を參案し、卒業生が必ずしも將來農業に無關係なる生活をなすとも、農業的訓練の必要なることを確信してのことである。

## 三、良妻賢母主義

此の主義は獨り本校の傳統たるのみではなく、女子の學校は悉く然りであらう。唯本校は創立以來嚴として此の主義を打立て、女らしい女を養成することを念とした。それは一般的校風がさうであるばかりでなく、學科課程に於ても現はれ、實用主義に於て述べたるものゝ外、稍古風の觀はあるが、マツサージの如きをさへ加へたことに依つて略々其の意圖を推知することが出来るであらう。斯かる技術的良妻賢母の養成のみならず、固より精神的方面に於ても婦徳の涵養を重視したことは言ふまでもない。

唯注意すべきは、從來目指した良妻賢母の概念は、動もすれば從順に過ぎて卑屈に流れんとする封建的な傾向を有つて居たことである。是れは一は時勢の然らしむる所ではあつたであらうが、其所に新意義を導入し、現代又は將來に於て女性が其の生活の指導精神とするに足るもので無くてはならないことである。然らば其の新意義に於ける良妻賢母とは如何なるものか。此の點については聊か議論に亘るために茲に之を避けるが、以下記述する所の本校教育の實相全體を綜合すれば、略其の意の存する所を知り得ると信ずる。

高等女學校の教育の目標は一般的には素より法令で定められてある。けれども法令は全國劃一的であり、用語が法文的であるから、其のまゝが直に本校の教育方針だといつたのでは、強いて特色附けないまでも猶不明瞭を免れない。で法令の範囲内ではあるが、更に本校の目指す所を摘記する

### 一、傳統的精神の發揚

本校の傳統的精神が實用主義、農村主義、良妻賢母主義の三者に約することが出来ることは前節に於て述べ、更に之に對して新らしい教育思潮を導入し現代化することの大意も記した通りである併しそれと密接な關係のある意味に於て、即ち傳統的精神を新らしい意味に於て發揚することが、本校教育の一方針である。然らば新意味とは如何。それは大要以下述ぶる所を加へることである。

### 二、體驗主義の徹底

教育は其れが直に生活である。生活のための方便ではない。それを方便ばかりだと考へるのは將來の生活を豫想し其のための準備だと考へる一面のみを強く觀るからである。教育を生活だと見れば一々の仕事は直にそれが自分である。即ち自我の活動である。自我の活動であるならばそれがまた自分の人格を築いて行く一つ一つであり、従つて眞劍で無くてはならない。教育を斯様に信念す

ることに依つて日々の仕事は生々活潑の氣に満ちて來る。而して其の活動は勿論手足を勤勞する經驗から入る。だから經驗は人格の糧である。本校は此の信念に立つて一見些々たるが如き日常の掃除をも大に重視し、四角な室を圓く掃くといふは其の生徒の人格に四隅を残す缺陷を持つと解し、平生大いに警めて居るのである。併し筋肉に訴へる經驗のみが所謂體驗ではない。體驗は精神の改造にまで喰入らねばならぬ。即ち一舉手一投足は直に反省と自覺との契機であると考へるから、大きなことを見落してはならぬが、又一見つまらぬ些事をも充分心を留めて眞面目に處理させる。固より未だ徹底といふには過ぎる現状ではあるが、本校の用意は茲に在る。

### 三、自律主義の高潮

自ら爲すべきこと爲すべからざることとは凡そ人々に定まり又之を知る。唯之を他人からの拘束に由つて動くのと自分の責任の自覺によつて動くのとに依つて價值ある人間と否らざるものとが岐れる。女性は一般に久しい因襲によつて又誤つた一方的道德教育によつて男性の命令希望に基いて動く所の習性を養はれた。眞の從順は固より美德であるが、自覺の伴はない其れは盲從卑屈に墮する。教養ある新女性は封建的な婦徳では養はれない。茲に自律的氣魄が必要であり、本校の傳統的精神に一味の清新さを加へようとする所以である。唯併し學校と云ふ團體に在つては眞の自律の光は現はされ難い。何となれば教權が常に隱微の間に働くからである。だから猶更注意して獎勵し實現の

所を指教する必要があるとも云へる。廊下の塵は掃除當番のみが取るものではない。通りがかりの誰でもが氣付き次第拾つべきものである。唯雑物を取除いた清浄さが自分に取つて喜ばしいのでなくてはならない。斯かる境地が自律の眞意義と信じ、本校教育の意圖の重要な一方面が構成されて居るのである。

#### 四、人格主義の信念

あらゆる教育活動の究極の歸結を、十全な人格の完成に置く。併しそのものは理想である。四年五年の教育を以て其處に到達し得ると思ふが如き夢は見ない。だからと云つて少しも近づくことが出来ないといふやうな絶望も懐かない。生徒の現在も其のまゝで人格と固より観る。唯其の不淨のものを取除き清麗なるものを容れるやうに努力する。あらゆる學科といふが如きは、悉く斯かる人格の核を包む原液たるものであるやうに教育する。別々の學科自體ではない。

さて人格は悪いことをしないをとなしい好人物といふが如き俗意ではない。更に積極的な美しいことを進んでする、独自の存在價値が逐次に擴大される人間の義である。女性は優しいと云ふことが本領の一つである。だがそれは單に消極的なるものではなく、其の中に勇をも含むものでなくてはならぬ。本校が體驗を重視し自律を尊ぶ所以も茲に存する。而して現代が思想危機と謂はるゝは結局日本人たることを強く意識しない所に胚胎すると觀するが故に

「我は日本人なり。而して日本婦人なり」

といふ自覺と自尊とが永遠に亘る人格構成の要訣だと確信し、此の信念が本校教育の出發點にして而も其の到達點である。

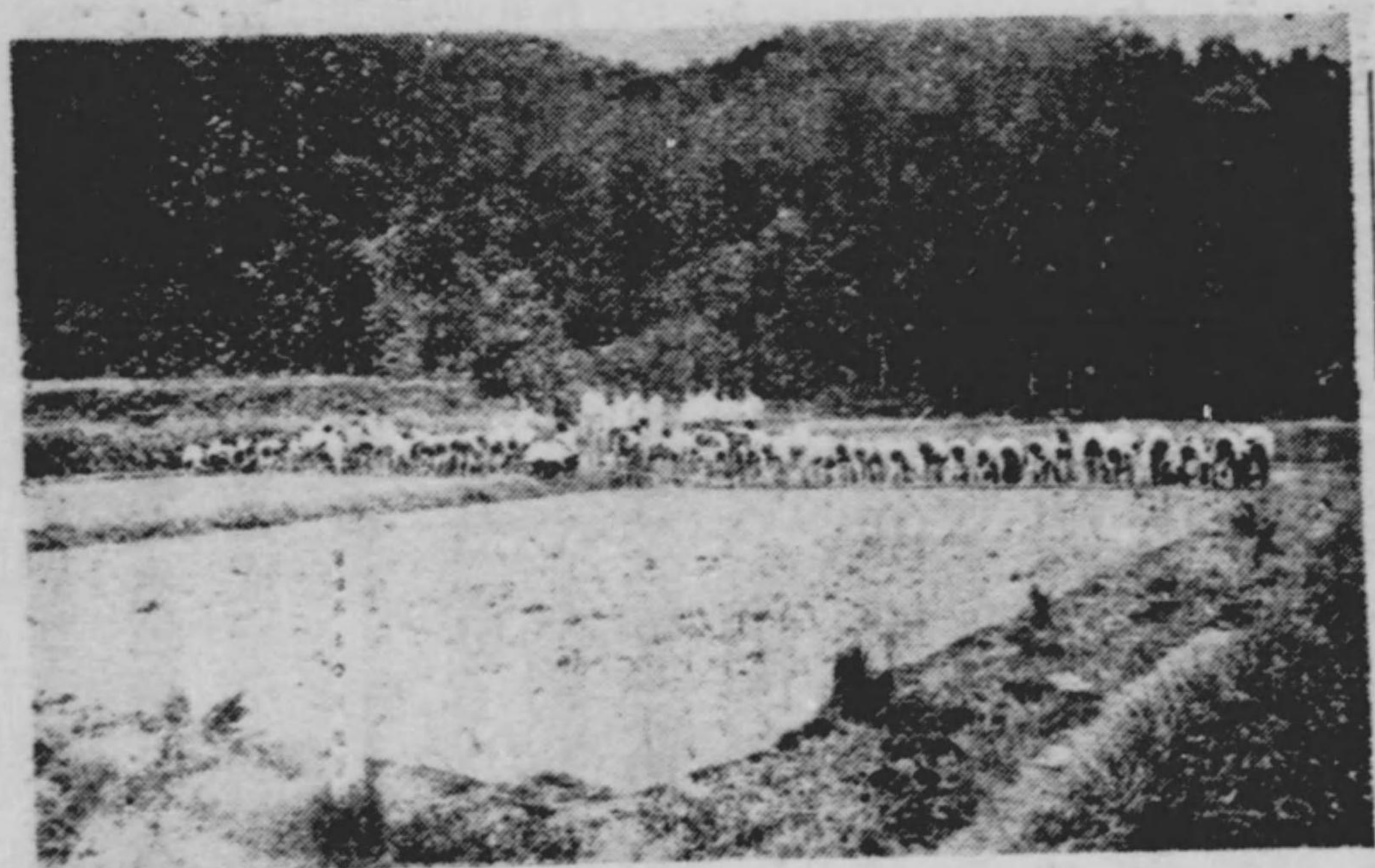
## 第五章 本校教育活動の實際

爰に記す所のものは最近數年間に於ける本校が特に意を用ひて實行して居るものゝ摘要である。勿論之が全部ではなく、施設の多くは省略した。

### 第一節 勤勞の實踐

現今學校教育の陥り易い弊害は、單なる觀念の注入である。イデオロギーは其所に止らず實踐の力を持たねば眞物ではない。故に教育は單なる觀念の構成ではなく、寧ろ自己の生活活動を律し得る實踐の力を養ふことである。而して兩者並進は望ましいことではあるが、實踐を重視して其の機會を計劃することが極めて實際的である。本校は此の見地に立つて勤勞が一重點をなし、作業を獎勵する。一週一時間は必ず全校一人も残りなく從事する。其の他の場合は各級各人任意に何等かの

田植の光景



作業に服する。其の作業に服するや、課せられたものとしてではなく、自らのものとして愉ぶといふことを覺らせる。働くことが楽しみでなくてはならぬ。

此の教育は本校の一枚風として立派に實現されて行きつゝある。生徒は勞作を少しも厭ふ風はない。妙齡な女ながらもかなりの勞働をいやな顔をせず、孜々として片付けて行く。誠に嬉しく感ずる所である。

併し生徒の學校生活に於ける勤勞作業の機會は尠い。又其の性質も學校といふ團體に限られる場合が多い。是れ生徒の家庭生活社會生活に於て學校の陶冶が擴充せられねば一層徹底することは困難である所以であつて、本校は此の點についても周到な注意を拂ひ、生徒自身に對して獎勵すると共に父兄母姉に對しても務めて勸奨する所である。

溫室や學園に四季を通じて花を絶たぬことは容易の業でなく、農業實習園に雜草を見ず、空地の出來ぬやうにする爲に

も亦周密な計劃と不斷の手入が不可缺である。是れが完全に行はれることは單に教師の命令のみでは不可能であつて生徒が自發的に作物を見舞ひ處理することが大切である。夏休みに數人の四年生が自ら稻の中に入つて稗を引いて居るのを見たとき、如何に嬉しく満足に思つたことであらう。又別に勤勞團を組織して一層之を強調して居る。

### 勤勞團規程

第一條 本團ハ柏原高等女學校職員生徒ノ全部ヲ以テ組織ス

第二條 本團ハ本校ノ一教育施設トス

第三條 本團ハ勤勞團ト稱ス

第四條 本團ハ勤勞愛好ノ精神ヲ發揮シ作業ニ依リ得タル金品ヲ以テ國家ノタメ又ハ公益慈善及本校ニ必要ナル施設ヲ實行スルヲ以テ目的トス

第五條 前條ノ目的ヲ達成センガ爲適當ナル方法ニ依リ左ノ事業ヲ行フ

一、生徒制服ノ作製販賣

二、雜巾ノ作製販賣

三、狀袋ノ作製販賣

四、其他

第六條 本團ニ左ノ役員ヲ置キ任期ハ不定トシ團長之ヲ決ス

團長一名 團務ヲ統轄ス

理事若干名 事業ノ計劃遂行ヲ策ス

内一名ハ理事長トシ一名ハ會計事務ヲ掌ル

第七條 團長ハ校長、理事長ハ主席教諭之ニ當リ理事ハ職員中ヨリ團長之ヲ委囑ス

第八條 本團役員以外ノ本校職員ハ本團ノ事業ヲ援助スルモノトス

### 第二節 自治の指導

生徒の學校生活は校長の主義方針に基き、教師の指圖監督に據ることが多い。集團の統制上止むを得ないことでもあるが、其れ故に猶更各人各小團體自らの意志に依つて行動する機會も用意して其の意味に於ける自由自治が訓練されねばならない。況んや本校は自律的精神の發揚を一モットーとして居るに於てをや。

自治的學習は各學年毎週一回乃至三回課業終了後に行はせる。此の場合教師は相談對手である。又毎日自由に圖書館に入らせる。實に圖書館は自習に於て非常に大きい役目を有つ。又修養的な機會は毎週月曜日の始業前各學級に於て反省會を行ひ、生徒自ら立つて感想を述べ改善事項を協定する。

る。

作業は毎週水曜日の課外に行ふ。作業の種類は時に依り學級によつて一定しない。又其れでよいのである。或は校舎内外の特別掃除、整頓、靴下の修繕、雑巾作製、狀袋貼等々、仕事を工夫することに困ることはあつても、仕事をするを臆怖がることは斷じてない。

以上の他學習及び作業の細部に至つては多くの自治が含まれ、また斯かる場合を捉へて徒らなる干渉を避ける。斯かる品性の陶冶が生徒の家庭生活にも及ぶことを切念するが、事實は果して如何か、完全には固より行はれないであらうと推想される。是又家庭との連繫の必要なる所以である。唯寄宿舎に在つては家庭的な訓練を盡さんものと苦心し、色々の施設を行つて居る。その狀況は寄宿舎の部に譲る。

### 第三節 健康の樂園

健康には色々の事が關係する。氣候風土、地勢、食物、住宅、職業、人情氣風風俗、遺傳、等々併し教育が是等の影響を動かし、不利な條件をも改善して健康への貢獻をなす方面もある。其の第一は精神の快活であり、第二は體育、第三は衛生である。是等の諸方面に對する本校教育の用意は頗る多く、今之を一々詳説することは其の時でないから、體育方面の主なる施設を述べるに止める



體育の正規的な方法は體操時間の教授である。併しそれは學校に定められた課業であるから、今爰に記述するには及ぶまい。即ち本校の特に留意して居る體育は、總て全校舉つて行ふ所の(一)課外運動(二)プールの水泳(三)郊外遠足(四)教授衛生等である。其れ等も一般的には他校と特異のものではないが、其の内容に至つては明に夫々方法を異にして居り、それが合理的に且生徒の體質に適當して居るか否かが問題である。本校は是等の諸點に注意して選擇按配し、殊に競技の如きは選手制度を採らず出来る限り普遍的に行はせる。

運動場には昭和三年櫻樹三十本を植え、藤棚をも造り、春の頃は課外運動も賑ひ自然の美と健康の美と相映つて、人か花か人かの詩的樂園を展開する。夏はプールに波を蹴立て、水と遊び、秋は運動會の練習に彼處にダンス此處にランニングと全校舉げて體育熱横溢し、冬は雨天體操場に號令の聲勇ましく、雪降れば雪投げに興ず。即ち四季を通じて松柏の校庭に健康の花は躍る。

毎年の身體検査の結果は文部省標準を越ゆることさへあり、精勤者、皆勤者の非常に多數に上ることは既に述べたる如く、家庭の理解熱心と共に生徒の健康を證するものである。

#### 第四節 優しき愛

愛の精神は人へは勿論、禽獸草木から一紙片に至るまでも普遍的に働かねばならない。此の心情

が基礎となつて色々の道德が派生する。花木については暫く措き、本校では中庭に金網の禽舎を設けて、十姉妹、カナリヤ、金花鳥、紅雀、うづら等の小禽十數羽を放ち、餌を與へ水を給し、小草など挿して飼養して居る。多數の生徒のことであるから、兎角責任の歸屬が明らかでないために、故意ではないが却つて時に手入れの行届かぬ處れはあるが、こゝ數年経續して些の弊害も認めぬ。小鳥の鳴き聲に將又飛び交ふ姿に心自ら和らぎ、云ひ知れぬ優しみを感じ、物を與へて愛撫する中に自然と生徒の愛の芽は伸びて行く。

斯かる優しき愛は成長して一校の美風となり、生徒間は極めて圓滿に交際せられ、未だ曾て反目嫉視は固より一度も爭論を起して問題となつたことは無い。この事は更に擴充されて卒業生間の友愛、母校愛となつて顯現して居る。

#### 第五節 教員一致の研究

自らは其の教授時間を己れの城廓と考へて他人の入ることを好まず、又他の者は自己の専門外と考へて侵入することを恐れるといふのが中等學校の弊ではあるまいか。しかしそれが毎日一つ所に生活して居るお互の事である。寧ろ開放して(特に生徒の名譽に關する場合を除き)誰でも何時でも參觀して一面教授法の研究に資し、他面生徒の學習状態を考察するよすがとなし、互に胸襟を披い

て生徒のために學校の爲に熱誠を献げるといふ態度が非常に望ましい事である。

本校は爰に決する所あり、昭和二年以來個人同志の參觀、數人の參觀、全職員の參觀等を屢々實施し終了後齒に衣着することなく意見を交換し、和氣霽々裡に釋然として更に一層の精進を心私かに誓つて來た。此の間事實人によつては遠慮に過ぎて甘く行はれないことなど往々にしてあつたが未だ曾つて弊害を起して覺醒せねばならぬやうなことは一度も無く、今猶實施を繼續して居る。

### 實地教授參觀實施法

#### 一、個人參觀

1. 隨時個人的に相互參觀を行ふ
2. 各人はなるべく一ヶ年中に他の教授を一巡すること
3. 學級擔任はなるべく自己の擔任學級について參觀すること

#### 二、小合同參觀

1. 各組はなるべく一學期に二回實行すること
2. 組分次の如し
  - (イ) 修身、公民科、作法、教育、法經
  - (ロ) 國語、歴史、地理

(ハ) 英語

(ニ) 音樂、習字、圖書

(ホ) 數學、物理、化學、博物、實業

(ヘ) 家事、裁縫

(ト) 體操

#### 三、大合同參觀

1. なるべく一學期に一回實行すること
2. 時宜に依り左の方法で何れかを選ぶこと
  - (イ) 一人の教授を全教員にて參觀するもの
  - (ロ) 二三人の教授を二三人に分れて參觀するもの
  - (ハ) 大體文科、理科、技能科に分れて參觀するもの

### 第六節 卒業生の指導

本校の卒業生が如何に母校愛に満ち／＼て居るかと言ふことは、別に記述した通り色々の事實に依つて實證することが出来る。又卒業生と本校の連絡も會合や會誌によつて行はれては居る。それ

にも拘はらず本校が卒業生に對して格別役立つことの出来ないのは遺憾であるのみならず寧ろ申譯が無いと云ふのが津倉校長の口癖である。其の意味から言へば指導なきいふのはをこがましいかも知れぬ。それで如何なる施設に依つて卒業生に對し些かたりとも貢献するか、問題となり、教師は教師の持つてゐるものを役立てるのが適當であるといふ所から、講習講演を行ふことになった。大正十五年、初めて卒業生中現に小學校に勤務して居る人達の爲めに講習會を開いた。是れが卒業生講習會の第一回である。

### 第一回卒業生講習會

一、期間 大正十五年八月二十五日より三十日まで六日間

#### 二、學科及び講師

- |           |     |      |
|-----------|-----|------|
| 1. 教育及教授法 | 六時間 | 津倉校長 |
| 2. 國語     | 六   | 河津教諭 |
| 3. 數學     | 六   | 吉野教諭 |
| 4. 理科     | 六   | 由良教諭 |
| 5. 音楽     | 六   | 高野教師 |

三、聽講者數 三十五名

其の後色々の事情に由つて繼續開催することが出来なかつたが、卒業生の中に希望を申出でた人もあつて、昭和六年夏第二回の講習を決定した。此度は最近五ヶ年の卒業生全部といふことにし、氷上郡内在住の人に限つた。それは只通學に便利であるからといふ理由に過ぎない。然るに今回は格別非常に歓迎を受け、豫想外の成績を挙げた。其の爲め津倉校長は嬉しくてたまらず、無理に病軀を押して出講された程である。

### 第二回卒業生講習會

一、期間 昭和六年八月二十九日より九月二日まで五日間

#### 二、學科及び講師

- |          |     |         |
|----------|-----|---------|
| 1. 思想問題  | 三時間 | 津倉校長    |
| 2. 現代文藝  | 二   | 河津教諭    |
| 3. 家庭科學  | 四   | 進藤教諭    |
| 4. 家庭經濟  | 五   | 吉野教諭    |
| 5. 家事    | 五   | 角田教諭    |
| 6. 手藝及洋裁 | 一〇  | 草川教諭    |
| 課外講演     | 二   | 田中(伊)教諭 |

同 二 井之上少佐

三、聴講者數 一一六名

講習終了後卒業生からは續々と感謝と明年開催の希望とを申出るといふ状態で、教師と卒業生俱に満足に堪へないといふ有様であつた。

とは言へ卒業生にも夫々用事を持つて居り、學生時代とは異つてさう度々家を外に出歩くわけにも行かず、又昨年も今年もと云ふ感もあるであらうと些か躊躇する所があつたが、熱心な希望者もあり且多可郡からは昨年の講習を知らせなかつたことを不平の如くに云つて來ると云ふ状態であつたため、遂に本年も第三回講習を開催することとした。其の計劃は大體昨年と同じである。

### 第三回卒業生講習會

一、期間 昭和七年八月二十九日より九月二日まで五日間

二、學科及講師

- |                |     |         |
|----------------|-----|---------|
| 1. 現代倫理        | 三時間 | 津倉校長    |
| 2. 古代文學        | 四   | 河津教諭    |
| 3. 家庭に於ける電氣の應用 | 四   | 進藤教諭    |
| 4. 家庭健康法       | 四   | 田中(政)教諭 |

- |         |    |      |
|---------|----|------|
| 5. 割烹實習 | 四  | 角田教諭 |
| 6. 手藝   | 一〇 | 杉浦教諭 |

特別講演(田捨女について) 二 田艇吉翁

三、聴講者 四四名、他に婦人會員、實習學校生徒等約七〇名

所が其の結果は豫想の通り、前年の如き盛況は呈しなかつた。併し出席した人々の熱心さは數の少さを償うて餘りある程で、双方極めて愉快に終始した。爰に特筆すべきことは今回は特別講演として田捨女につき田翁の御講演を願つたことである。翁は八十三の御高齢にも拘はらず炎暑をもちとせず、捨女の遺品をも携へて二時間に亘る長講演をいとも御熱心になされた。此の講演には當町婦人會の主立ちたる人々及び農商實習學校の職員生徒諸氏も聴講せられ、甚だ有意義であつたことゝ喜んだ次第である。

以上は本校主催の講習について略記したのであるが、此の他松柏會支部制の確立と共に各支部に於て其の總會が催され、料理などの講習を併せ行ふ向もあり、又は講演を希望する支部もあつて、夫々本校から講師を派遣した。是又卒業生に大いに喜ばれ、親密な連絡が重ねられると同時に、些かにても裨益することが出來たのである。

本校所在地たる柏原町の支部みどり會は、流石に母校の膝下丈けに、度々會合研究の機會を作り

圖書館に集つて益する所が甚だ多い。大手筋から圖書館の二階に電氣の燈が晃々と輝いてゐるのを望むとき、母校と卒業生の親しさを感じると共に、嗚呼昭代なる哉と讚嘆せずには居れないのである。

## 第七章 社會への貢獻

教員は學校教育にのみ没頭すべきではない。固より非常に多忙であつて日も猶足らぬ。専門學科の研究に、生徒に對する課業以外の指導陶冶に、繁雜なる事務の處理に、各種施設の計劃實施に。若し所謂個人指導の徹底を期するならば、時間割に依る教授などは言ふに足らず生徒一人々々に面接し夜を日に繼いで到底眞に透徹することは至難である。併しながらそれを實行しようとする大勇猛心を起すにしても其れには不可能な種々の事情がある。そこで全然餘力と餘暇とを有せぬとは云へぬ。否其れは見出せば却つて少くないのが實狀である。然るに従來中等學校は地方との關係が稀薄であり、學校に留る時間さへ比較的に尠く、學校以外に對して殆んど貢獻する所がない。是に於て努めて餘力餘暇を作り社會の爲に自己の有するものを役立て、教育上些かたりとも貢獻し、延ては自校教育の進展にも資する所あるべしとは津倉校長の持論である。勿論教師の任務の本末を誤つてはならぬことは言ふまでもなう。

本校は昭和二年以來職員中に社會教育係を設け、其の係及び教務係等に於て、積極的に社會教育のプランを立て、實施し、又は地方の町村、小學校、其他各種團體よりの依頼に應じて、出張講演講習等を行つて來た。其の爲め毎年度初めに當り、各教員の研究題目を各方面へ通知して、演題選擇の資料に供して居る。

此の事業のために皆夫々其の専門の學科を基礎として活動して居り、時には活動寫眞を利用して講演なさすることもあるが、最も多忙を極めて居るものは校長である。津倉校長は昭和二年以來氷上郡聯合女子青年團長をも兼ね、其の爲にかなりの精力を注ぎ、熱心に指導して今や本縣下に於ても屈指の模範團體となつて居る。又小學校教員の請に依り繼續講義を行ひ、青年團婦人會等の總會講演會に招聘せられること年三十數回にも亘ることがある。

以上の他社會への貢獻を廣い意味に包攝すれば、幾多臨時の施設もあるが、今は只社會文化の進展に關するもののみを摘録するに止めた。

○丹波新聞記事（昭和六年二月五日）

我等の誇

理想の學び舎

縣下に比類なき柏女校

縣社八幡神社の森に聳ゆる多寶塔を圍んで形造る千餘戸を擁する邑街、それは明治維新の大業に  
 卒先して勤王の旗を擧げた由緒ある織田藩の城下町、我が柏原町である。この由緒深き柏原町に誇  
 とするものは多々あれど、先づ第一番に指を屈するものは高鉢山麓に位し創立以來二十九年といふ  
 歴史を有し、宏壯なる建築に築山に花園に趣味を凝らして精神に慰安を與へ清新なる人格主義をモ  
 ツトとし、教授法に於ても眞面目なる研究を爲し、熱心なる良教員を有する勉學の理想郷とも言  
 ふべき縣立柏原高等女學校である。

校門を入りて左側に崇嚴なる奉安殿、右側に圖書館ありて前庭の崇嚴清美なる事、學を志さず者  
 に一種の魅惑と憧憬を抱かしめる。更に進めば宏壯なる校舎は配置よく並び建ち、中庭の清麗なる  
 ことさながら天國の樂園に在るの感がして、讀書研究を志し、物靜かに勉學にいそしむとするも  
 の、理想郷である。近年阪神地方より續々入學轉校して來る生徒の増加した事は、都會の學校に比  
 して土地風俗が少女の教育上最も適して居る事と、教育方法が机上の空論的でなく實社會に適應し  
 た教育法、即ち理科、家事科、裁縫作法等に細心の注意を拂つて教員と生徒との意思がピッタリと  
 合ひ、そこに眞の教育の價值を見出して創立以來千六百の卒業生を出したことが社會一般に認めら  
 れた譯で、我等の誇として筆を取るもの、優越感を覺ゆる處である。

校内の風紀は質素健實を旨とし、被服料、學資に於ても縣下に比類なき低廉で、目下不況時に際

して収入減を續けつゝある現在に處して、最も經濟的にも出來てゐると言ふことは、婦人としての  
 嗜みを十分に備へた優良なる生徒を出して居る所以で、目下生徒募集期に入つたが此の美風を慕ひ  
 遠く阪神地方りも續々入學申込がある模様である。

○丹波新聞記事 (昭和六年五月二十日)

#### 柏原高女主催の教育映畫會

##### 獨逸製「宇宙の驚異」を映寫

去る二十三日正午より柏原町公會堂に於て、縣立柏原高等女學校主催にて、教育映畫の會を催し  
 一般の入場を許して大盛會であつた。

フィルムは獨逸學界の重鎮數氏の原作に依るもので「宇宙の驚異」と題し、獨逸ウファ社の特作で  
 映畫化した天文學教科書と稱されてゐる。

○大阪毎日新聞 (昭和六年十二月八日)

#### 柏原高女の滿洲軍慰問

柏原高等女學校では水上郡出身兵へ金七十圓及び校長と生徒の慰問文を直送し、又關東軍司令部  
 へ金四十圓と校長の感謝文を直送、猶縣婦人會取扱ひの一錢釀金に應じて三圓九十四錢を送り、縣  
 取扱ひの慰問品として娛樂的書籍(價格五十圓)多數を送つた。

## 第二編 寄宿舎

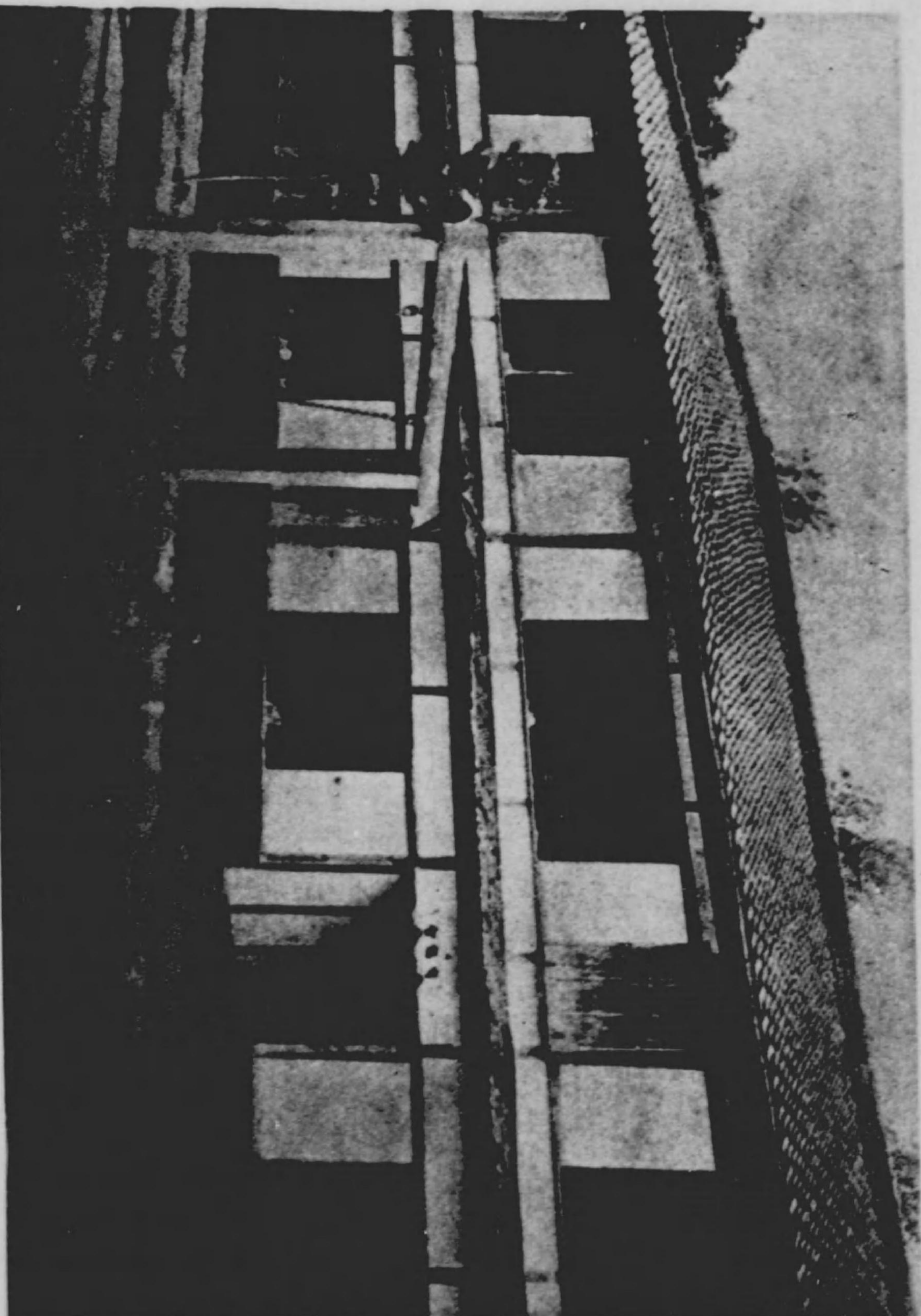
### 第一章 寮 舎

#### 第一節 變遷の大要

明治三十六年本校の創立と共に生徒宿舎の必要に迫られたが、生徒も少く設備も無く、附近の家を借りて分宿してゐた。所が明治四十二年現在の位置に移轉するに及び、之を校内寄宿舎として舎生六十名全部を收容し、ここに始めて組織立つて寄宿舎生活を営むことになつたのである。其寄宿舎は十二間に五間の二階建て、本校々舎が病院であつた爲昨日迄は患者の病室に充てられてゐたのを、彼是修理改造し、洗面所、洗濯所、浴室等を増築したものである。

然し何分明治十八年の建築物のことゝて、現に腐朽の箇所が多いのみならず、近年白蟻の被害甚だしく殆んど使用に堪へぬので、之を壊し其位置に大正六年工費九千七百餘圓を以て二十間に六間の木造二階建一棟及び附屬建物を新築し、七年五月竣成したのが現在のものである。之を清貞寮と

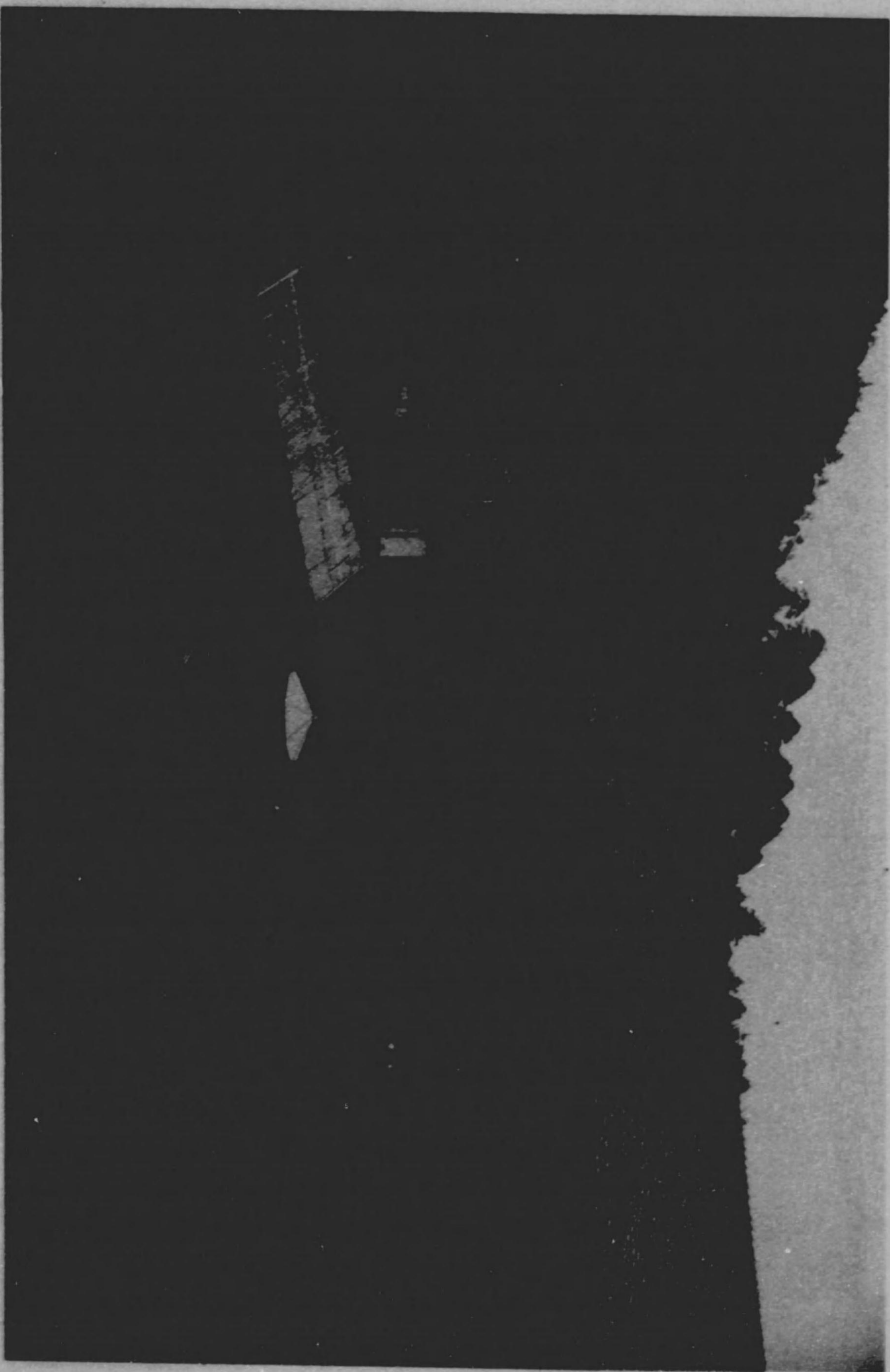
舍宿寄の年二十四治明



(病の院病立郡らか校學小等高立郡元築建の年八十治明)  
(たじ築改後其がたつなと舎宿寄校本年二十四りなと室)



舍宿寄宿本の在現



云ふ。越えて大正十年には更に上下各二室を増築し、更に昭和二年に階下西端の二室を病室と定め隔離便所一棟を附設した。

第二節 現 状

現在二階建延坪數三百七十坪を左の通り使用してゐる。

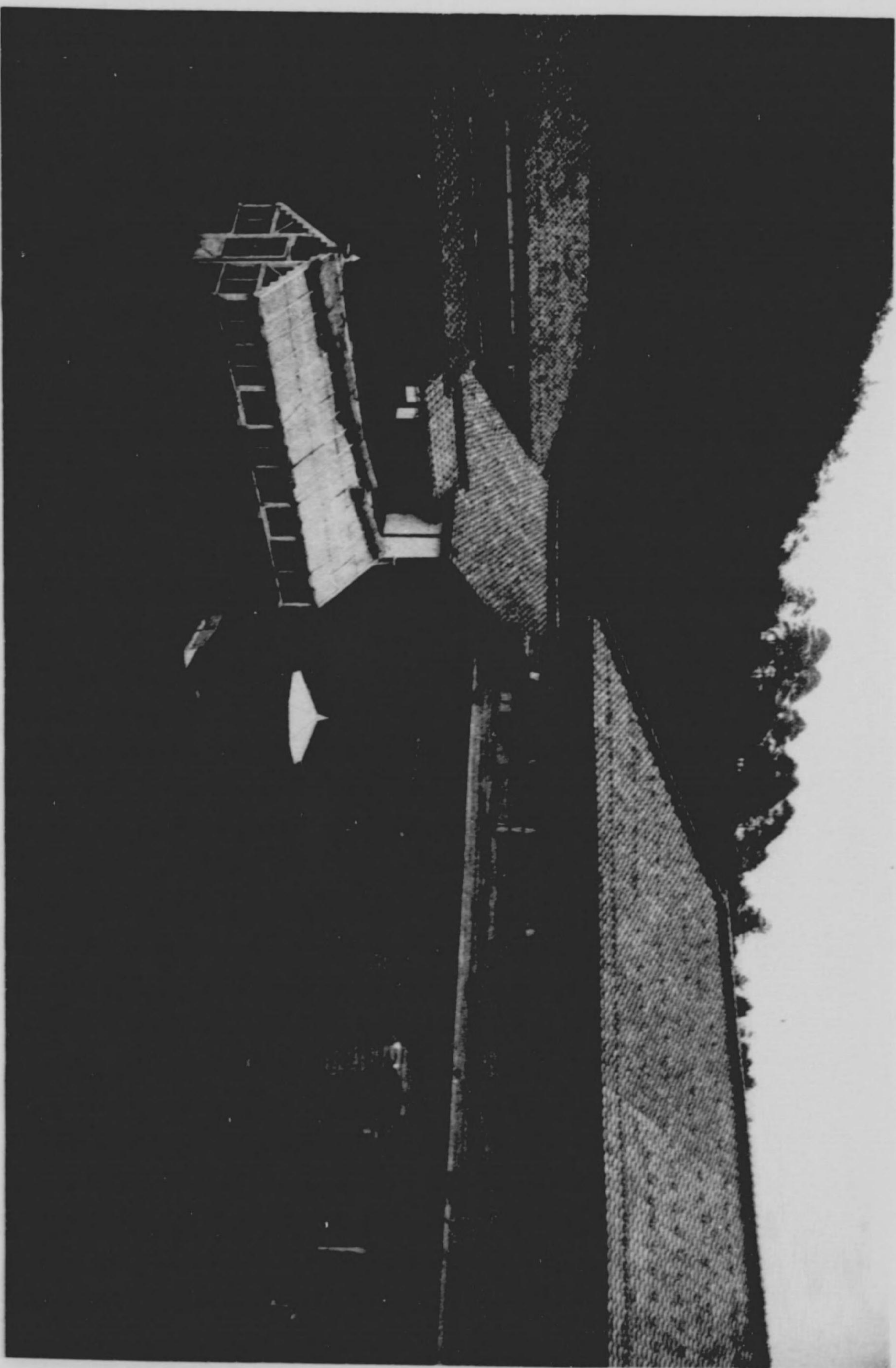
舍監室	二	生徒室	一八	應接室	一	事務室	一
週番室	一	娛樂室	一	集會室	一	食堂	一
炊事場	一	炊婦室	一	物置	四		

尙衛生設備としては 病室二、浴室一、理髮室一、洗面所及洗濯所一、物干場一  
警備設備としては 消火器を階上階下に各二臺、及び防火彈數個を配置して居る。

第二章 舍監及舍生

第一節 舍 監

舍監は開設當初の佐藤ハナ、長澤甲子、中川スズ氏等を初任とし歴代舍監數二十七名、現在は角



舍宿寄宿本の在現

云ふ。越えて大正十年には更に上下各二室を増築し、更に昭和二年に階下西端の二室を病室と定め隔離便所一棟を附設した。

### 第二節 現 状

現在二階建延坪數三百七十坪を左の通り使用してゐる。

舍監室	二	生徒室	一八	應接室	一	事務室	一
週番室	一	娛樂室	一	集會室	一	食 堂	一
炊事場	一	炊婦室	一	物 置	四		

尙衛生設備としては 病室二、浴室一、理髮室一、洗面所及洗濯所一、物干場一  
警備設備としては 消火器を階上階下に各二臺、及び防火彈數個を配置して居る。

## 第二章 舍監及舍生

### 第一節 舍 監

舍監は開設當初の佐藤ハナ、長澤甲子、中川スズ氏等を初任とし歴代舍監數二十七名、現在は角

田、戸塚の二先生である。其中舎監在職の比較的長い人々は次の通りである。

佐藤	ハナ	(四年)	永澤	甲子	(五年)	内田	時得	(四年餘)
池上	はる	(六年餘)	角田	しを	(八年以上)			

### 第二節 舍生

舎生は最初の間一軒に四五人宛二三軒を借用したといふから、十四五名であつたと思はれるが、現今の位置に統一された當時は約六十名に達し、大正七年新築の頃には八十五名、大正十三年頃には最も多数を收容した頃であつて百十餘名であつた。所が其頃播丹鐵道の開通と、逐年自轉車通學者の増加とは舎生の數を著しく減少させ、昭和三年には八十二名となり昨年は四十八名、本年度は三十四名である。

現在の舎生を地方別にすれば次の通りである。

氷上郡	十名	多可郡	十一名	有馬郡	五名	美囊郡	一名	朝來郡	一名
川邊郡	一名	神戸市	一名	京都府	三名	大阪府	一名		

## 第三章 經營の大要

### 第一節 方針

經營竝に訓育の方面はすべて舎監の監督指導の下に自治制を採り、特に將來主婦として家庭の實際に活動し得るやう其の修養と技術の練磨とに重きを置く。

週番制度により上級生二名を交替勤務とし、舎監指導の下に寮舎の日常に關する各般の事務及び外來者の應接等に當らせて居り、副週番二名を三年生より交替に出して週番を援け且つ仕事の見習をさせる。

又主婦二名を上級生中より輪番勤務として食料品の購入貯藏、炊事献立表の調製、炊事用具の購入整理等に當らせて居る。

其他修禮生、新聞當番は一二年生より、又炊事當番、風呂當番は各室輪番に之に當る。以上の各係によつて起床より就寢に至る迄の舎内の事務から毎日の食事、計畫、遂行に亘る各般の運轉を行つてゐる次第である。

### 第二節 經濟

經費の節減と榮養價の増加とを如何に工夫すべきかは常に注意を怠つてはならぬ問題であるが、

本校に於ても断えず此の點に注意しつゝある。特に最近の不況に鑑み生徒の支出する經費の可及的低廉を圖り、從來食費月平均凡十二圓、舍費二圓であつたのを、昭和四年十月からは食費凡十圓程度に、舍費を一圓八十錢に下げ、更に昭和五年十一月よりは食費一ヶ月凡九圓、舍費一圓五十錢に減額したが、尙一層の節約をこゝろみつゝあるけれども、同時に榮養價の減少することを恐れ其の向上に腐心しつゝある。只舍生數の減少は寄宿舍經濟の上に少なからぬ痛手である。

## 第四章 施設

### 第一節 櫻橋會

以上述べて來た日常生活諸機關の外に修養、娛樂、運動等の方面の活動機關として櫻橋會を組織して居る。此の種の施設は從來も種々の名目の下に臨時に行はれて居たのであるが、昭和三年御大典記念として之等を統一し、更に効果的にしようとする目的で生徒自治の下に此の會は設けられたのである。

本會は修養部、娛樂部、運動部の三部に分れ、各部に選舉による部長、副部長、理事を置く。

修養部は寄宿舎生としての日常の實踐をはじめ、家庭的社會的修練を積み、又一般精神修養の方法を講ずるもので、勤勉、禮儀作法、清潔整頓、趣味の涵養、自己反省等につとめて居る。

娛樂部は舎生お互の親睦を圖る機會を作り上品な娛樂を行ふもので、誕生日會、部屋會、五節句會、遠足、其他茶話會等を機會々々に行つて居る。

運動部は身體を練り運動趣味を體得し、將來新時代の婦人としての活動精神を養はうとするので放課後各種の運動、遠足、登山、小運動會、雪中行進等を選んで居る。

### 第二節 雛祭、七夕祭など

#### 一、雛祭

櫻橋會行事中の一として毎年四月初めには雛壇を飾り、適當な日曜を選んで柏原町字柏原及東奥村の四五才位より七八才迄の女兒を招き、舎生の手で晝食を馳走し一日を楽しく遊ばしむる事としてゐる。可愛らしいお客様の歸宅後は又舎生一同にて親睦茶話會を催す例としてゐる。

○丹波日々新聞記事（昭和五年四月十七日）

#### 柏原高女の雛祭

柏原高等女學校では同校寄宿舎主催の下に四月十三日午前十時より裁縫室に於て同町内の五六歳



の女兒八十名を招いて雜祭を催した。餘興として、蓄音器、唱歌の合奏等あり、一同晝食を共にして午後二時可愛らしい盛會裡に散會したが、お土産として雜誌、菓子袋等を貰ひ喜んで歸つた。

#### 二、七夕祭

七月七日には中庭に笹を立て色紙短冊を結びつけ裁縫物や果物を供へ、其前で舎生一同は平素と變つた楽しい夕食をしたため、校長先生の御話を伺つたり又各自の和歌を讀み合ふことなどを例とする。

○關西タイムス記事（昭和五年七月十五日）

#### 柏高女寄宿舎の七夕祭

縣立柏原高等女學校に於ては去七日夜七時から中庭で七夕星祭りを催し、津倉校長の講話あり、夕食を共にし餘興として琴の演奏唱歌など團樂の夕を賑やかに過した

#### 三、お月見

毎年九月の十五夜には校庭に薄縁を敷きお月見の茶話會を開く事としてゐる。

#### 四、社會的訓練

我が寄宿舎は舎生ばかりの修養に志すのみならず、時に社會のためにも働きかけてそれが自分の修養に資すると心得、機會ある毎に本校の施設とは別に何かの仕事をししようと心掛けて居る。今其の一例を新聞記事によつて示す。

○大阪毎日新聞所載（昭和五年十二月二十四日）

氷上郡柏原高等女學校寄宿舎生一同として、去る廿日柏原警察署大西署長宛に、お正月にお餅もいただきけぬやうなお氣の毒な方々にどうぞ差上げて下さいと記した手紙に、現金三十七圓十七錢を添へて申出た。これは寄宿舎生一同が今學期の始めから、學資金に小遣ひ間食等の節約やら、古新聞雜誌などを賣つたお金をためたもので、この健氣な奇特な行爲に署長初め係官はいたく感激し直に年末貧民救濟費に充當した。

#### 櫻橋會の約束

- 一、昭和三年の御大典記念として櫻橋會を起し一層私達の生活を向上さすことに致しませう
- 二、本會を修養部、娛樂部、運動部の三部に分けませう
- 三、各部には部長、副部長、理事を置く事にして部長と副部長は補習科か四年の者で理事は三年

生以下各學年から一人づゝときめませう

- 四、本會の代表は修養部長が兼ねることに致しませう
- 五、右の役員はお互が進級致しました四月に選舉することにしませう
- 六、選舉されました役員は特別の事情の者は皆一ケ年間仕事を続ける事に致しませう
- 七、各部の費用は寄宿舎の費用の内から出していただく事にしませう
- 八、各部では一ヶ月に一度以上何かの催しをすることに致しませう
- 九、時々各部役員會を開き相談會をすることにしませう
- 一〇、各部で會合等をしました時には其の都度記録を作つて置く事にしませう
- 一一、各部の目的と仕事を大體左の様にきめませう

#### A 修養部

1. 目的 寄宿舎生としての日常の實踐をはじめ家庭的、社會的修練を積み又一般精神修養をすることにしませう

#### 2. 方法

- 一、お互が勤勉であることに心がけませう
- 一、清潔整頓に注意しませう

- 一、禮儀作法を正しく言葉をきれいに致しませう
- 一、お琴、お花、お茶等なるべく多くの趣味を養ふ様にしませう
- 一、人の物と自分の物の區別を明にしませう
- 一、時々修養部會を開いたり特別に反省する時間を作りませう
- 一、舍則をかたくまもりませう

#### B 娛樂部

1. 目的 私達お互に親睦する機會を作り上品な娛樂をすることに致しませう

#### 2. 方法

- 一、誕生日會、お部屋會等を開きませう
- 一、お正月、七夕祭、雛祭、端午等のお祝ひを致しませう
- 一、時々の日曜に遠足することに致しませう
- 一、カルタ會、トランプ會などを致しませう
- 一、茶話會をひらいて手製で紙なんかで花輪等を作つて置いて室々で餘興を出して一番人氣のあつた室にそれをあげるといふ様なことを致しませう

#### C 運動部

1. 目的 運動趣味を充分理解體得し新時代の婦人としての活動的精神を養ひませう

2. 方法

- 一、夕食後の運動時間には必ず運動することにしませう
- 一、時々球技會を開きませう
- 一、時々遠足、登山等を致しませう
- 一、一學期に一度位は小運動會を致しませう
- 一、冬期積雪の日には雪中行進を致しませう

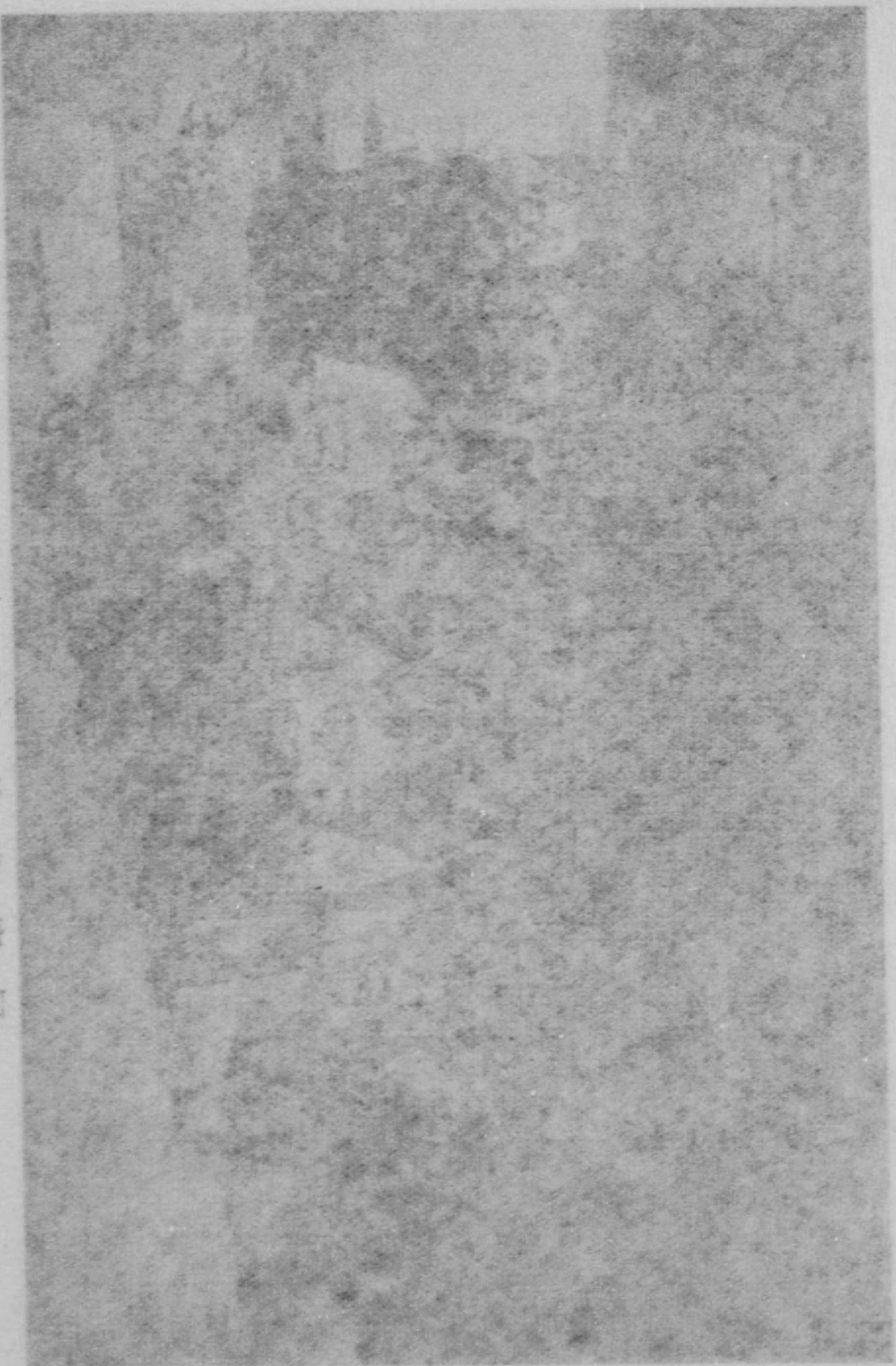


同窓會總會 (昭和五年鐘ヶ坂にて)

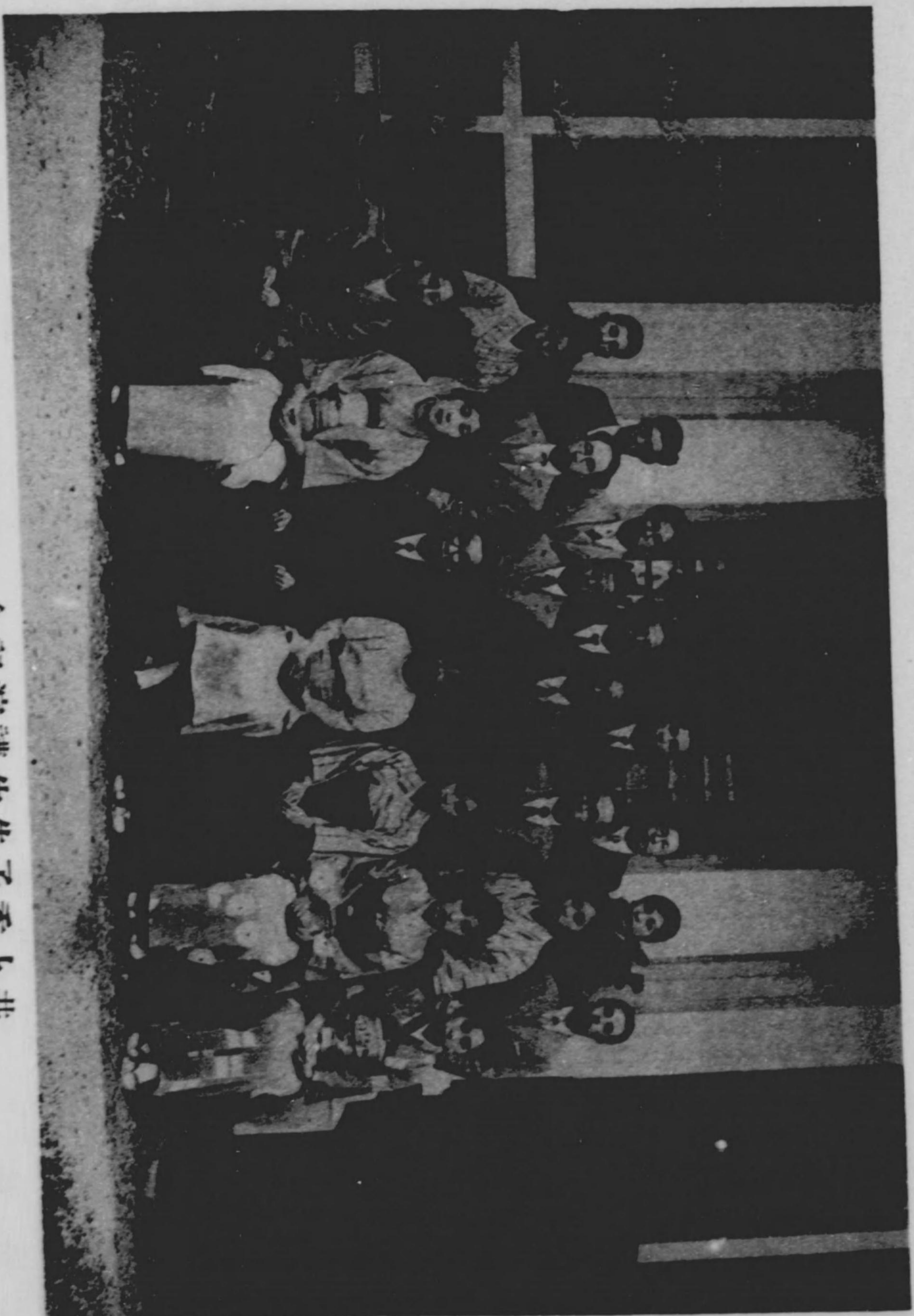




(上)：昭和六年鐘ヶ坂會總會總



(昭和六年九月) 同窓會總會



井上秀子先生講演記念 (昭和七年五月三日)



柳兼女子史三周年紀念獨唱會之盛況  
(昭和七年五月十日於柏原公會堂)



宮川美子嬢獨唱會紀念  
(昭和七年五月十七日於柏原公會堂)

## 第三編 松柏會

### 第一章 沿革概要

松柏會は所謂校友會のことである。明治三十七年六月創設されたものであつて、校名の頭字に因み論語の「歲寒うして然る後に松柏が凋に後るゝことを知る」といふ語から名づけたのである。當初本會は在學生、卒業生及び半途退學生中の志望者を以て會員とし現舊職員を客員に推薦するといふ組織であつた。

當時は、幹事部、文學部、運動部、家政部の四部だつた。その後の主なる變遷を年を逐うて摘録する。

明治三十八年 技藝部増設。

同 三十九年 松柏文庫及び美術部創設。

同 四十年 初めて同窓會が開かれた。同窓部の濫觴である。

同 四十一年 技藝部及び美術部廢止。此年から本校は郡立となつた。



柳兼女子史三周年紀念獨唱會之盛況  
(昭和七年五月十日於柏原公會堂)



宮川美子嬢獨唱會紀念  
(昭和七年五月十七日於柏原公會堂)

## 第三編 松柏會

### 第一章 沿革概要

松柏會は所謂校友會のことである。明治三十七年六月創設されたものであつて、校名の頭字に因み論語の「歲寒うして然る後に松柏が凋に後るゝことを知る」といふ語から名づけたのである。當初本會は在學生、卒業生及び半途退學生中の志望者を以て會員とし現舊職員を客員に推薦するといふ組織であつた。

當時は、幹事部、文學部、運動部、家政部の四部だつた。その後の主なる變遷を年を逐うて摘録する。

明治三十八年 技藝部増設。

同 三十九年 松柏文庫及び美術部創設。

同 四十年 初めて同窓會が開かれた。同窓部の濫觴である。

同 四十一年 技藝部及び美術部廢止。此年から本校は郡立となつた。

同 四十二年 購買團組織され、會計部の設置を見た。又五月八日には郡移管記念の祝賀大演奏會が開催された。尙文學部は雑誌部と改稱し、別に實演部が設けられた。

同 四十三年 農園部設置。

大正二 年 同窓會期日毎年五月八日と決まる。第一回學藝會開催。

同 四 年 記念部特設、愛國勤勞團組織。

同 七 年 阪神支部の組織成る。

同 八 年 東京支部成立。修養部設置。

同 十一年 記念部、幹事部、修養部廢止。給品部設置。運動部を體育部と改む。此年本校は縣立となつた。

同 十三年 初めて竹野濱水泳團を募集。

同 十四年 籃球部が縣下大會に優勝し、十月明治神宮競技に出場。福知山支部確立。文化講座開設。温室及び花壇竣工。

同 十五年 近藤前會長を送り、津倉現會長を迎ふ。八月末初めて卒業生の講習會を開催した

昭和二 年 排球コート新設、文化講座を社會教育講座と變更。

昭和三 年 奉安殿落成式及び本校創立二十五周年記念式に伴ふ種々の記念事業を行ふ。水泳

プール(防火兼用)竣工し、水泳部の設置を見るに至る。卓球コート新設。佐治、國領、前山、竹田美和、神樂、葛野、黒井、幸世、小川の各支部成る。

同 四 年 學藝部より篠山高女學藝會へ代表四名を派遣出演せしめ、他校との演奏者交換の端を開く。プールを使用しての最初の水泳練習を行ひ、第一回水泳大會を舉行。排球部生る。

同 五 年 卓球部生る。

同 六 年 卒業生夏季講習會を開く。

同 七 年 愛國勤勞團解散(松柏會を離れて別に勤勞團組織さる)

現在の各部左の通り

學 藝 部 (學藝會、音樂會、講演會等を主宰)

編 輯 部 (専ら松柏會誌を編輯したが本年から松柏文集等をも編輯することゝなつた)

同 窓 部 (卒業生の會合、通信等を掌る)

體 育 部 (庭球部、籃球部、排球部、卓球部、陸上競技部、水泳部)

園 藝 部 (學校園、温室等の經營)

給 品 部 (學用品の購賣)

會 計 部

# 第二章 經費及び事業

## 第一節 豫算例

松柏會の活動状態は、拙い筆に表はさむより、豫算の一例を以て示す方が寧ろ詳細にして且つ明瞭であらう。

### 昭和六年度松柏會歳入出豫算書

科 目	歳 入 之 部		附 記
	昭和六年度 豫算額	昭和五年度 豫算額	
一、前年度繰越金	400.00	400.00	
二、生徒會費	1,400.00	1,850.00	一人當り四圓 三六〇人分
三、職員會費	76.00	95.00	一人當り四圓 一九人分
四、基本金ヨリ補助	400.00	400.00	
五、寄付金及雜收入	250.00	500.00	
六、預金利息	600.00	600.00	
歳入總計	1,966.00	2,346.00	

### 歳 出 之 部

科 目	經 常 部		附 記
	昭和六年度 豫算額	昭和五年度 豫算額	
一、學 藝 部	185.00	330.00	茶菓四百人分二〇圓、記念品百人分四〇圓
1. 卒業生送別會費	60.00	80.00	公開學藝會費三〇圓、他校へ出演旅費六〇圓
2. 學 藝 會 費	40.00	45.00	會場費二五圓、備人料二〇圓、印刷費二〇圓、雜費一〇圓
3. 講 演 會 費	30.00	30.00	會誌一部二〇錢 千八百六十部代
4. 音 樂 會 費	55.00	65.00	會誌送料三〇圓、名簿整理其他五圓
二、編 輯 部	330.00	440.00	寫真代其他當日ノ雜費
1. 會 誌 編 輯 費	370.00	440.00	
三、同 窓 部	95.00	85.00	
1. 通 信 費	55.00	55.00	
2. 印 刷 費	20.00	20.00	
3. 同 窓 會 費	20.00	10.00	
四、體 育 部	488.50	440.00	寫真代其他當日ノ雜費
1. 庭 球 部	98.00	110.00	コート修繕三〇圓、球二〇圓、ラケット二五圓、遠征費一〇圓、他校招待三、五圓、雜費九、五圓
2. 籃 球 部	400.00	400.00	球二四圓、チューブ八圓、其他八圓
3. 排 球 部	28.00	40.00	球二八圓
4. 陸 上 競 技 部	35.00	47.00	サロメチール五圓、ハードル二〇圓、靴修繕費五圓、インドアポール五圓



## 第二節 財源

本會經營の財源は本會事業の盛衰に至大の關係があり、時世の經濟事情も反映するものと見られるから、興味ある問題であるが、遺憾ながら舊いことは詳細には分らない。今會則等によつて大要を記す。

創立當初に在つては、在學會員の會費は毎月五錢宛であり、卒業生は卒業の際會費又は基本金として應分の寄附をなすものとすとある。明治四十年には在學生の會費を七錢に増加したが、當時の本科生は約百五十名であるから總額十二ヶ月分百二十六圓となり、現今の十分の一にも足りない。併し物價指數等との比較をしなければ事業の程度は強ち金額の絶對額だけでは推定できないことは勿論である。

さて明治四十一年以後の會費額は色々調査したけれども、全く記録が無く不明である。併し大正十年には現任職員から年額三圓を徴收して居る所から見れば、別表により推定される如く、年三圓の會費は大正九年度からであらうし、又在學會費即ち在校生徒も同様三圓となつたものであらう。更に經費支出額に於て大正六年度の二百八十一圓餘に比し、翌七年度に五百二圓餘であつたらしい所から考へると、大正七年度にも二圓以上に増額したことが推定される。何れにしても世界大戰後

の非常なる財界好況に影響されて、物價の騰貴と共に會費も亦増額したことが觀取されるのである。又卒業生は卒業の際應分の寄附ではなく、大正十一年には明に五圓と定めて居る。

爾來大正十二年度には會費年四圓五十錢とし、同十五年には六圓に増加した。此の増加は財界の事情と云はんよりは、松柏會の活動が益盛大となり、従つて經費を多く要した所に原因する。併しながら財界好況時代以後の隋性の餘弊は、漸次其の甚しさを累加し、我が國はあらゆる方面に於て恐慌を招來し上下を擧げて經濟緊縮を叫ぶに至り、爲めに昭和時代に入つてから諸學校の入學者も激減するの悲況を呈した。本會は爰に鑑みる所あり昭和五年度に於て會費年五圓に減じ、更に翌六年度に四圓に遞減した、即ち大正十二年よりも少い財源となつたのである。従つて事業の經營は甚しく困難を感じるのであるが教育事業本來の性質として、必ずしも金額には比例するものでなく、精神的努力によつて之を償ひ相當の成績を擧げ得るものとの確信の下に、職員生徒一致協力大に精進しつゝあるのである。

今左に正確では無いが本會創立以後の累年の決算額又は豫算額及び會費年額とを表記する。但し決算額は豫算額に改める方がよいと考へるのであるが、其の調査は非常に手數のかゝることであるから、以前調査した資料を轉記する。猶ほ此の總額は職員生徒の會費のみではないことは、前掲の豫算例でも知れる通り、基本金の利息中から經常費へ繰入れるものが相當の額に上る。是れは基本



金積立の性質からいへば不當の如くではあるが、大體卒業生へも配布する會誌の費用を標準として居るのであるから年々増加する卒業生に對しては亦止むを得ない次第である。

累年經費一覽 (大正十四年以前は決算額、十五年以後は豫算額とす)

年 度	經費總額	會費年額
明治三三	五〇、七二一	六〇?
同三三	五三、一八二	(不詳)
同三九	一五七、六六四	(同)
同四〇	(不詳)	八〇?
同四一	(同)	(不詳)
同四二	二五四、一八八	(同)
同四三	二一三、四八五	(同)
同四四	三二五、四六五	(同)
同四五	二五〇、九八三	(同)
同四六	二二二、四七〇	(同)
同四七	二六四、二三〇	(同)
同四八	二八六、〇〇〇	(同)

年 度	經費總額	會費年額
大正五	三〇三、九七〇	(同)
同六	二八一、一〇〇	(同)
同七	五〇二、二一〇	(同)
同八	五〇四、五八〇	(同)
同九	八八一、一〇〇	(同)
同〇	八四〇、二二〇	三、〇〇
同一	一三一六、七二五	三、〇〇
同二	一七〇一、七一九	四、五〇
同三	二〇七八、三〇〇	四、五〇
同四	二二七〇、一〇〇	四、五〇
同五	二四八七、二四〇	六、〇〇
昭和二	二七七三、〇〇〇	六、〇〇
同三	二六三四、〇〇〇	六、〇〇
同四	二八二八、〇〇〇	六、〇〇
同五	二四三六、〇〇〇	五、〇〇
同六	一九六四、五〇〇	四、〇〇
同七	二三二三、〇〇〇	四、〇〇

### 第三節 財 産

本會の財産は極めて不正確ではあるが、昭和六年度末現在に依り其の概略を記さう。  
全財産約一萬一千五百圓也はあらう。今種類別に見ると大體次の通りである。

#### 1. 土 地

- 一、柏原町柏原字大谷三十八番の三  
畑 一畝五歩 此地價金貳圓參拾壹錢
- 一、柏原町柏原字大谷三十八番の一  
畑 三歩 此地價金拾九錢
- 一、柏原町柏原字山田七一七番  
畑 五歩外六筆合計一畝二十歩
- 一、柏原町柏原字北町四七七番  
宅地 二十一坪外二筆合計五十七坪

合計反別四畝二十五歩

此買入代金八百七拾貳圓參拾九錢

右のうち大谷の土地とあるは、運動場東南隅の果樹園であり、山田及北町の土地は、例の燒跡で運動場北添ひの園藝科實習地がそれである。

#### 2. 建 物 及 備 品

- 一、圖書館 二階建一棟  
建坪 三十坪及備品 四千五拾八圓五拾錢
- 一、溫 室 平家一棟  
建坪 六坪 四百貳拾圓

#### 3. 圖 書

- 一、圖書館藏書 凡一五〇〇冊 貳千四百圓

#### 4. 其 他

- 一、基 本 金 參千七百圓
- 一、給品部資金及在庫品 壹千圓

右の中基本金は昭和五年度の繰越金を計上した。最近數年間の繰越金は四千五百圓前後であつたが、昭和四年度からのそれが、右の如く著しく減じたのは、土地購入費へ廻つた爲である。又給品部の財産も年によつて異なるが、大約現金七百圓と在庫品參百圓とで前掲の額を上下して居り、これは年々増加の傾向にある。



第四節 小學校女兒の體育獎勵

小學校女兒體育獎勵の爲めに、聊かなりとも貢献し兼ねて本校との親密を期せむ爲め、昭和二年秋季運動會に氷上郡及び多可郡一部の小學校から、尋常科並に高等科の四百米リレー優勝競技と、尋常科六年生の團體演技(以上何れも女子に限る)に参加出場される様、前記各小學校へ依頼したところ、幸に熱心なる賛成を得て爾來毎年年氷上郡の秋を彩る行事の一つとはなつた。塚口三之助氏寄贈の紅紫二旒の優勝旗が、燦として少女等の譽れを象徴する。茲に第一回以來の成績を回顧して見よう。

◇四百米リレー

△尋常科		△高等科	
年次	優勝校	優勝校	参加校數
昭和二年	黒井	葛野	一三
	一四		

◇團體演技

同三年	神樂	一四	大路	一三
同四年	竹田	一一	竹田	八
同五年	南河内	一一	南河内	九
同六年	沼貫	一四	沼貫	一〇
昭和二年				
同	圓陣	リレー	葛野	上久下
同	ダンス・オブ・ウエーブス		沼貫	黒井
同	砂山		黒井	黒井
昭和三年	セブンボルカ	操	崇廣	黒井
同	體操		黒井	黒井
同	ダンス「荒城の月」		黒井	黒井
昭和四年	木の葉の舞		黒井	黒井
昭和五年	福知山の踊		黒井	黒井
同	田植		黒井	黒井

第五節 公開學藝會

學校生活の内容乃至成果の一斑を、世に問ふ機會として行はれるものは、運動會、音樂、及び展覽會であらう。だがそれらは概ね技能を主とするものである。併し學校生活の重要な内容を成すところの智能的修練の成果の發表を加へた學藝會のみが、從來公開されなれてゐたことは、むしろ迂濶であつたのかも知れない。然るに尙現在でも公開學藝會といふものを企てゝゐる女學校は稀であるやうである。

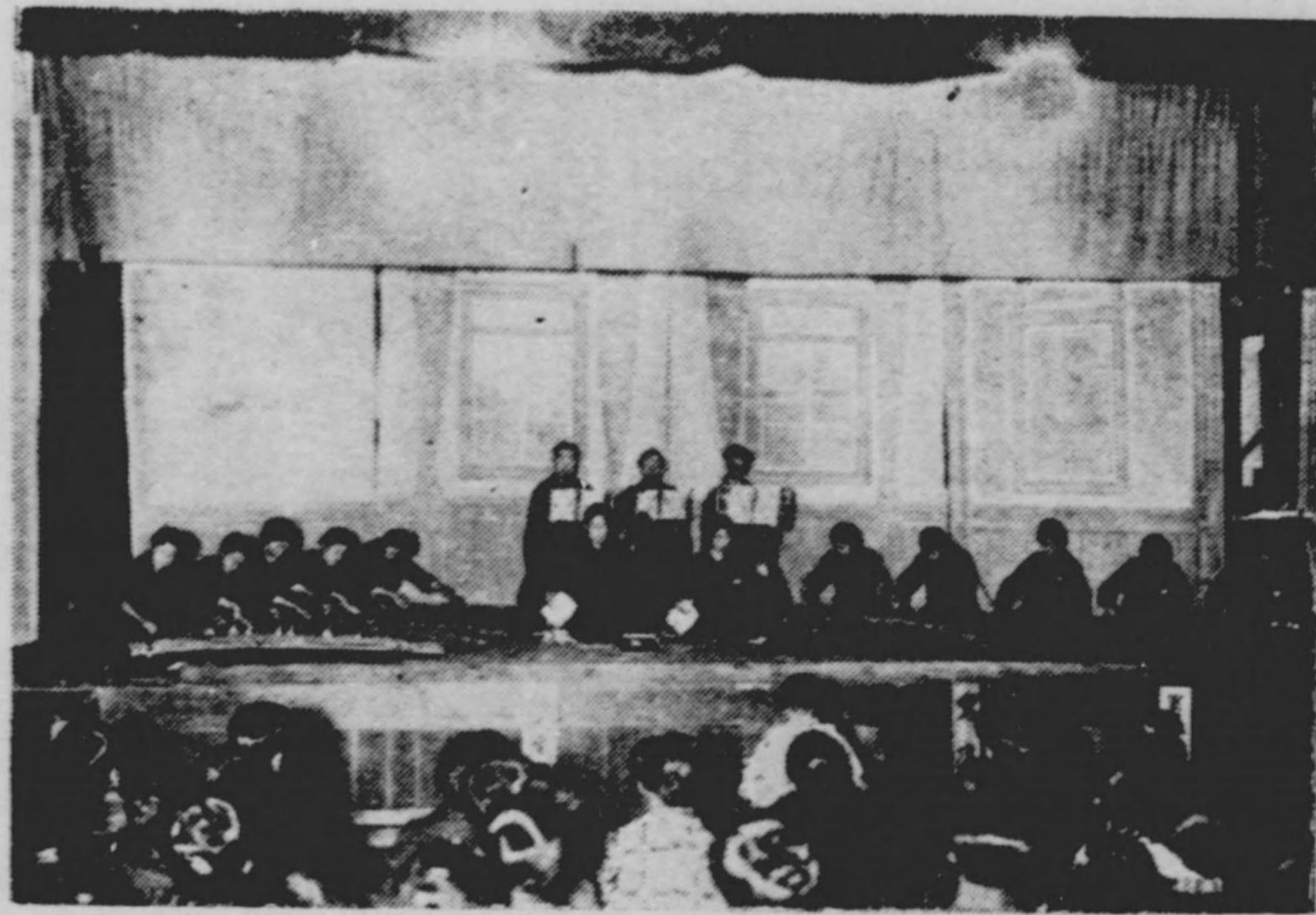
本校では松柏會主催の下に、昭和五年三月六日地久節の佳辰をトし、初めて公開學藝會を柏原劇場に開催したところ、素晴らしい成績で、乙女子の小さな唇から發する演説が聴衆をして思はず感の拍手を送らせるといふ有様であつた。淑やかなうちにも麗はしい舞臺装置と照明、一きり毎に下り上る綴帳の綺羅美やかさなど、環境が與へる氣分も手傳つて、洋樂、和樂、合唱、獨唱、演説談話と交々進むプログラムの何れの場合にも、聴衆は全く感興に我を忘れて、聊かもたるみを見せないであつた。出演者にも、校内だけの學藝會では見られぬ熱と力とがあつた。

この日のプログラムを、左に擴げて見る。

第一部	
1. 二部合唱 三部合唱	春の歡 春の旅
2. 演説	蛙
3. ピアノソロ	ウエルカムマイチング
4. 箏曲合奏	イ、雛 祭
5. 演説	ロ、春の遊び
6. 三部合唱	日本風景と美術
7. ピアノソロ	イ、菊の盃 ロ、祝へ吾が君を
8. 演説	ソナチネ・クレメチ 作品三六の一番
9. 箏曲合奏	女性よ母に歸れ
10. 演説	千鳥の曲

一年	立垣利枝
三年	島谷君
一年	田中千鶴
二年	足立伊都子
二年	十倉孝子
二年	遠藤智恵子
二年	藤本ふさ子
二年	安達嘉根
二年	小島節子
三年	足立美榮
三年	大槻文子
三年	小島節子
三年	白井清美
三年	藤井清美
三年	小寺園枝



(昭和六年度於柏原劇場)

一景光一の會藝學一

13 箏曲合奏	越後獅子	二補習科 藤井美穂
12 演説	新時代にある私達の自覚	四年 津倉道子
11 ピアノソロ	ソナチネ	四年 上田きぬ
10 演説	ヴァイターミン	三年 吉見初音
9 獨唱	私の太陽よ(イタリー民謡)夕の調べ(グノー曲)	三年 若宮雅子
8 箏曲合奏	紅薔薇	四年 阪谷静子
7 演説	春を待つ心	二年 西垣よし
6 ピアノソロ	ソナチネ・クローウ作	四年 篠山高子
5 獨唱	つばめ	四年 阪谷静子
4 演説	眼前に待てる	三年 橋本はる子
3 ピアノソロ	ソナチネ・クレメンチ作品三十六の六番	四年 藪和氣子
2 狂言	ブス	三年 篠山高子

11 二部合唱	日本少女の歌	一年	直田幸子
12 朗読	野天の風呂	三年	足立光子
13 ピアノソロ	オクターローの戦	四年	大西富喜子
14 演説	臺所の改善	二年	田村壽満子
15 二部合唱	イ、枯野 ロ、み寺の鐘の音	二年	佐野次枝子
16 箏曲合奏	六段の調べ	三年	葉上琴江
17 英詩暗誦	ザ・ベルス	四年	田原照子
18 三部合唱	栄ゆる御代 アルファベット	二年	田原照子

浪の花	三年	田原照子
-----	----	------

14 獨唱	夜の旅	四年	來住久子
15 演説	衣服の經濟	三年	井口ハツエ
16 箏曲合奏	新高砂	補習科	田原壽子
17 演説	農村女子問題	四年	上田みち子
19 三部合唱	イ、治まる御代 ロ、かぐや姫	三年	荻野波彌子

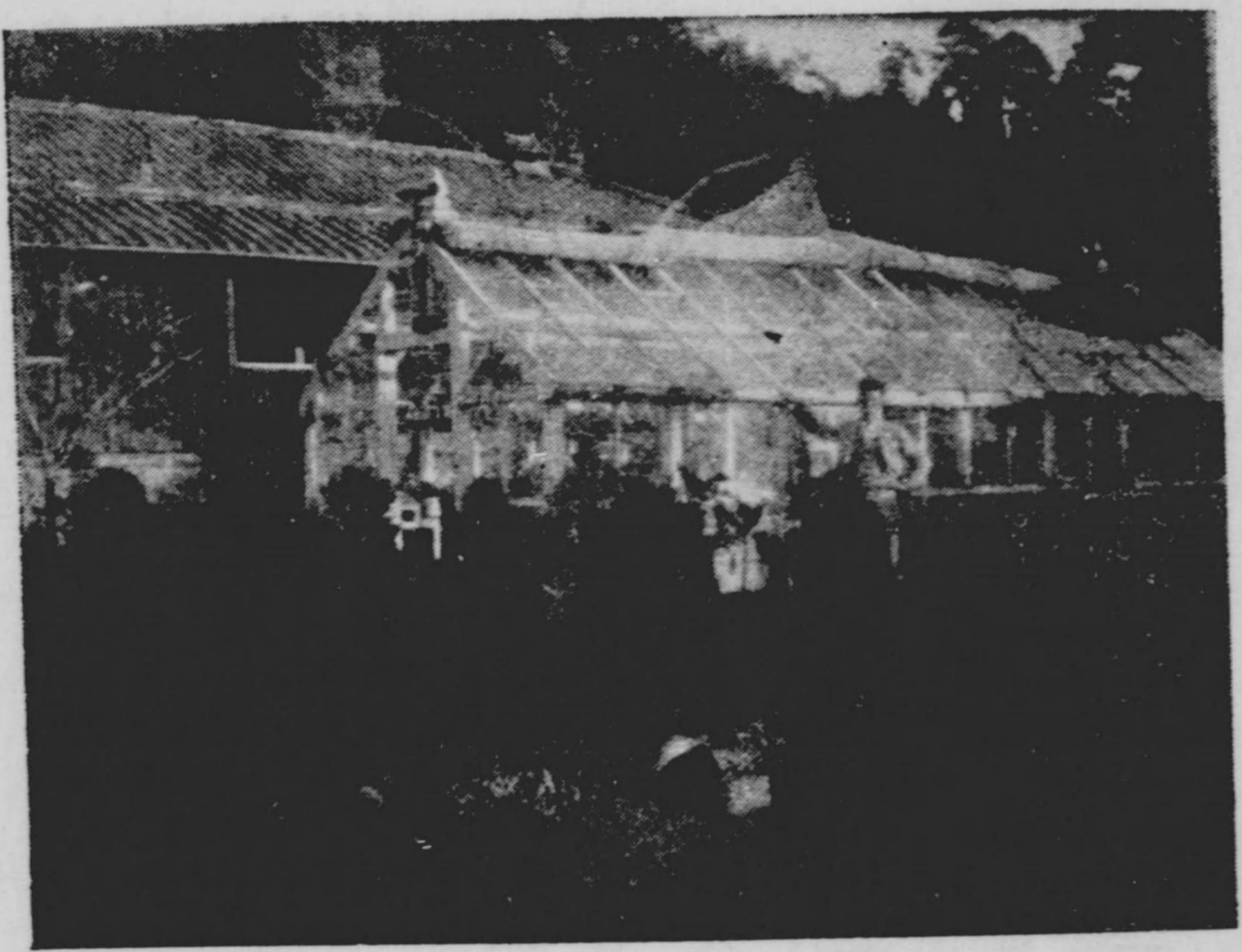
以上

第二回は、同年十一月柏原公會堂に、第三回は昭和六年十一月柏原劇場に、夫々開催したのであるが、回を重ねる度に進歩は著しく、毎回輝かしい成績を挙げ常に満員の盛況であつた。

### 第六節 温室の花

南洋でのみ育つ珍しい植物や、春が来るまで待たねばならぬ美しい花の數々を、處を問はず季節を撰ばず育て咲かせる温室は近代文化的装置の一つである。我が松柏會では 先帝陛下御銀婚の盛典を記念する事業の一として、既に大正十四年から之を校庭に設け、學習に觀賞に多大の利用効果を擧げてゐる。

熱帯植物では、アスナロ、オリーブ、ゴム樹、沙羅双樹、椰子、泰山木、百合樹、レモン、ペコ



温室

(大正十四年竣工)

ニア、コリウス、プリムラ、シユスラン、センパーフロレンス、ホクシヤ、アスパラガス、蘭、其他メロンの栽培も試みられて成功した。

早咲の試みられたものには、櫻草、シネラリヤ、シクラメン、サフラン、アネモネ、バンジー等があり、之等は當地厄神祭に街頭で一般へ分譲して好評を博したとさへある。

### 第七節 松柏會誌

松柏會誌は、明治三十七年十二月に第一號を出し、同十四年に

第六號、以後毎年一回十二月に發行され、昭和六年で第二十六號を重ねた。

内容は、講話、校報、會報、同窓部報、會員名簿、口繪及挿入寫真版等に大別される。

本校の一切の消息、在校生の活動狀況、卒業生會員及び松柏會支部の動靜等を輯めて殆き餘す所が無い。實に本校の重要な記録であり、本校と會員、及び會員相互間の有効な連絡機關として會員全部に配布されて居る。昭和七年の發行部數は千八百の豫定で、實に盛大なことである。

以前は、「文苑」などいふ欄があつて、生徒の作品を掲げられたのであるが、近年は、これをすべて「松柏文集」に廻し、少くともそれだけ會誌は、卒業生諸師の寄稿や通信を待望してゐるわけである。

### 第八節 校地の購入

松柏會の基本財産の中に、舊くより左の二つの土地があつた。

一、柏原町柏原字大谷三八ノ三 畑一畝五歩

一、同 三八ノ一 畑三步

合計反別一畝八歩 地價貳圓五拾錢

此買入代金八拾圓である。ところが昭和四年四月十五日の大火で、本校東部北側に隣接する民家

約十戸が焼失し、焼跡には間も無く新しい家屋が一軒建前を終り、引つゞき數軒建てられる模様であつた。此の焼跡の中、東西貫通の道路以南は本校の運動場に接続してゐるが、あらゆる點から考へて、本校に買収して置かるべきものであつた。併し學校としては財源が無く急場の間に合はないそこで松柏會が起つた。町の有力者の斡旋により遂に七百九拾圓餘を投じて、畑五歩外六筆計一畝二十歩、宅地二十一坪外二筆計五十七坪を購入したのである。建つてゐた家屋は直ちに道路北側へ曳き移された。現在ではとりあへず園藝實習地の一部として使用されてゐるが、近き將來には運動場の擴張に當てられるであらう。

### 第九節 音楽會

本校及び本會は本校生徒並に當地方一般の文化生活の向上を計るといふ趣旨から、色々の施設を講じて居るのであるが、高尚なる藝術を鑑賞させて生活に霑ひあらしめるといふことも、一の重要な教育と考へ其の一方面として有名な音楽家の獨唱會を開催して來た。先づ大正十五年十一月、當時有名なソプラノ歌手早川美奈子氏とピアノ上沼房子氏を特に招聘して柏原公會堂で獨唱會を開催した。當地方に於ては稀有のこととして一大センセーションを起し非常なる興味を以て迎へられ、聴衆は堂に滿つるの盛況を呈し、確に聲樂の鑑賞力を養ひ得たと信ずる。

次で昭和三年五月創立二十五周年記念事業の一として、ソプラノ澤里子及びピアニスト上沼房子  
兩女史を聘して獨唱會を開催した。今回は聽衆前回に増して多く好評を博し、一般の耳は大分肥え  
て來たと思はれる。

今昭和七年五月創立三十周年祝賀記念としてテナーの大家柳兼子先生を招聘して獨唱會を催し盛  
會を極めたことは別に記載した通りである。

更に特筆大書して憚らぬことは、今年十月十七日、現時に於けるソプラノの第一人者として有名  
な宮川美子嬢の獨唱會を、本會が主となり郡婦人會及び郡女子青年團と共同で大阪朝日新聞社の後  
援を得て開催したことである。同嬢は米國に育ち佛國で技を磨き同國の國立劇場で約三十日打通し  
て、歌劇お蝶婦人の主役を演じて名聲を博した方であるが、田氏の回縁に當られる所から、田昌氏  
及び藤井節太郎氏の斡旋に依り特に可能な條件で其の美聲と艷容に接し得たわけである。其のプロ  
グラムは次の通りである。

- グラナダ                   パレア   イ   カレハ
- ホ                           タ                   マヌエル   デ   ファイア
- ラ   セレナータ           パオロ   トステイ
- 歌劇「トスカ」           ブツチーニ
- 箱根八里は                   山田耕作

からたちの花           同

十六夜月               同

かやの木山           同

ちんちん千鳥       近衛秀麿

此の道               山田耕作

出雲の子守唄       (小泉八雲選) ロッス

花しぶき               松山芳野里

歌劇「マダム・バタフライ」の一節   ブツチーニ

右の中最後の「お蝶夫人」は殊の外の呼び物で、舞臺姿に扮装して「ある晴れたる日」を歌はれた。  
數回のアンコールにも快く應ぜられ、最後にも聽衆夢から醒めた心地で盛なる拍手暫し鳴り止まず  
また一曲を歌はれたのであつた。

### 第三章 卒業生の活躍

#### 第一節 社會的活動

卒業生は其の本來の任務として教養ある一家の主婦となり、善良なる家庭を構成して國家社會の





(數屋花線沿急阪於)日四十二月五年六和昭

健全なる單位を造れば宜しいのであるから、大多數は表面に現はれない活動をつゞけて居る。併しながら世運の状況は漸次婦人の社會的任務を擴大し、其の女性としての特質の一面を發揮せんことを要求しつゝある。本校卒業生は夙に其の個人の境遇時代の趨勢に適應して、社會的活動にも進出するものが尠くない。例へば小學校教員、幼稚園保姆等となり、或は婦人會、女子青年團等の幹部となつて地方の社會教育に貢獻する等所謂中堅婦人として其の存在は頗る必要にして鮮明なものとなつて居るのである。殊に近年著しく目立つのは從來執つた超然的態度を一抛し、若き卒業生が教養乏しき處女の間立交つて誘掖指導に努めて居ることである。其の爲め地方の女子青年團の發達は實に目醒しいものがある。

## 第二節 熱烈なる母校愛の發露

此の事は他の場合にも一言した如く、本校の卒業生の母校に對する親愛の至情は、從來遺憾なく發揮せられて居る。今其の數例を擧げる。

古いことは記録に残つてゐないため不明瞭であるが、先屢々諸種の事業のために醸金したことである。松柏會の財産として現存する、土地、温室、圖書館、圖書等は勿論オルガン、ピアノ、ミシン機及び近年の卒業生は運動會に於ける不便を察し、毎年テントを寄附した。斯の如く學校の經費を以てしては設備の容易ならぬものを、一意母校のためにとて援助を惜まない。又物品としては残らないが、幾度か催された諸種の記念事業等に醸金して學校の企てに快よく共鳴し、爲めに其の事業をして一層有効にしたのである。最近に於ては昭和三年舉行した本校創立二十五周年記念事業、又本年五月の三十周年記念事業の如きは記憶の新たなるものである。此の他近藤校長に對する謝恩事業、其の他の教職員に對する美はしき至情等甚だ多い。

右の如く金品を以てする母校愛の發露以外精神的勞力的至愛の顯現も亦熱心なるものがある。最近に在つては講堂増築運動の如き、殆んど自發的に當町支部みどり會幹部の斡旋は、實に學校として感謝に堪えない活動振りである。殊に園田豐子、原田一枝、片山芳子、春木ことみの四氏は數年に亘り不斷の努力をつゞけられ實に涙ぐましいばかりである。猶又各支部に在つて其の支部の發展に盡力を惜まず、遠く母校に心を寄せて一意其の發展を祈らるゝ人々の至情は誠に有難い次第で、

今爰に一々氏名を掲ぐことを得ないのを遺憾に思ふのであるが、母校と卒業生との間柄の緊密親近なる状況は推知するに難くないであらう。

○民聲新聞記事 (昭和五年七月廿六日)

### 柏原高等女學校の水泳大會

兵庫縣立柏原高等女學校では七月十日より同校プールで水泳の練習を續けてゐたが、去る十七日正午より水泳大會を催した。靜かな山間の同校プールは漫々と湛へた美しい水と、若い生命の充溢した乙女達の飛躍と赫熱の陽光とが交錯して山國に珍らしい愉快な催しであつた。先づ津倉校長開會の辭に始まり、面かぶり十米、四十米等の學年對抗競技があり三年が優勝したが特に一年の奮闘は目覺しいものであつた。餘興として井本教諭の水中の瓜の皮むき、瀧川教諭の水書き、生徒の寶探し、職員並に生徒の源平西瓜取等に打興じ無事午後三時閉會した。

○大阪毎日新聞記事 (昭和六年五月十日)

### 新緑薫る 鐘ヶ坂

#### 柏原高女同窓會の園遊會

縣立柏原高等女學校では八日創立廿九周年記念式を舉行了した後、同窓會總會を開催、明年の創立第三十周年記念事業について協議し、一同は同校職員と共に數臺の自動車に分乘、新緑薫る鐘ヶ坂

公園にて園遊懇親會を開き、楽しき半日を過して解散した。

○關西タイムス記事 (昭和六年十二月一日)

### 雨中ながら頗る盛會

#### 清き乙女の洗練された

#### 熱演振りに満堂感激

#### 柏原高女の學藝會

柏原高女の學藝會は去る廿八日午前九時から柏原劇場で開催されたが、當日は生憎の雨天であつたに拘らず、來賓其他父兄母姉の參觀者多數で、さしもの劇場も満員の盛況、當日のプログラムは左の如し。

合唱、三部合唱、演説、ピアノ獨彈、説話、箏曲合奏、談話、獨唱、齊唱、英語會話、物理實驗  
史譚、圖畫

等で計三十九番の多きに上り、清き乙女が日頃から修養洗練された音樂、演説等の熱演振りに日頃の熱心な教育振の程も偲ばれて參觀者感嘆せしめたことであつた。中程で津倉校長の挨拶あり、又篠山高女の應援出演も錦上華を添へて何れも成功、午後三時半頃終了した。

## 第四編 松柏圖書館

### 第一章 建設の由來

#### 第一節 建設の經過

文化の搖籃として母胎として、完備した圖書館の建設はその社會或は團體をより高き階段にすゝめる重要な施設である。

松柏圖書館の建設も亦この理想の實現、殊に地方婦人の開發に貢献し、合せて母校の内容充實を期せんがため、同窓會員相諮り、大正七年本校創立十周年記念事業並に大正十一年縣管移管祝賀記念事業として、會員相互の醵金を以て建設することを決議したのである。

さてこれが建設の運びに至るまでには、幾多の曲折と困難に直面して、事志と齟齬を來すこともしばしばであった。しかし近藤前校長の心血を濺がれた苦心畫策と素志貫徹の意氣に燃えて資金の調達に東奔西走した卒業生更に篤志家の支援もあつて資金も四千を以て算するに至つた。かくて建

松 柏 圖 書 館 全 景



本校本松柏會之援大正十五年五月成た  
居てし蓄貯金出に毎るあ會機で目的の立設館本は者業卒校本  
(れそが面正)たし成竣月五年五十五大け援を之會柏松がた



松柏圖書館上階圖書庫



松柏圖書館下階生徒自習室

築の機運熟して着手の運びに至るや突如近藤氏退職せられ事業も一時頓挫の形となつた。が二代校長津倉氏就任と共にこれを繼承せられ、大いなる熱意と決心を以て奮然再興をはかられ、こゝに偶々中學校不用寄宿舎の譲渡をうけて、四間に七間の二階造圖書館を建設する事を決議した。

## 第二節 成效

いよく建築に着手するに當り、教諭中より建築委員を囑托し、全職員生徒亦埋立工事に奉仕し設計工事の一切を建築家谷垣氏に托して大正十五年九月九日基礎工事に着手することとなつた。爾來竣工まで六十六日上下を擧げて協力一致非常な努力を以て十一月十三日竣工、翌十四日盛大な落成式が舉行せられたのであつた。

いよくその年の十二月一日開館し、外は廣く一般の利用を奨励し、内は職員生徒の學術研究に資せんために開放せられたのであつた。

斯く本館が愈成功するに至つたについては、上田確郎氏並に近藤前校長が各壹百圓を寄附せられ又谷垣春吉氏が義侠的に工事を請負はれたことは忘るべからざる御厚意で、茲に特記して感謝する次第である。

## 第二章 設備及び圖書

### 第一節 設備

本館は階上と階下の閲覧室に分けて居る。階下は生徒用閲覧室に充て、三方に書架を設け生徒自習用参考書、趣味涵養の書籍、月刊雑誌、新聞等を陳列し、五十人分の机椅子を備へて居る。尙正面に柱時計一個、塗板一個を設けて新購入圖書を報告し、その他必要事項の掲示に充てゝ居る。

階上は書庫と一般外來者の閲覧室に分ち、書庫は三周に書架を、中央に戸棚二個を置いて居る。その一つは両面の見上げるばかり高いもの、これこそ醒竹文庫即ち足立武一郎氏委托の書籍をぎつしりつめてゐる。更に書架の下周囲には小島文庫の昔ながらの書籍が處狭く置いてあり爲めに書庫も甚だ狹隘を感じてゐる。

閲覧室は大机四脚と數個の椅子の外に、大衝立を設け入口に近く醒竹文庫のカード式の目錄を置き閲覧者の自由使用に便してゐる、尙目下從來の帳簿式の目錄を廢して漸次カード式に改良中である。

### 第二節 圖書

内容の充實は圖書館の眞生命である。本館その新装の完成と共に銳意圖書の増加に努めてゐる。本館建設以前の圖書は、松柏文庫と名づけて教室の一隅に二個の書棚を設けて、三百二十部の書籍を陳列し生徒の自由閲覧にまかせてゐたにすぎなかつたが、昭和元年には松柏會より二百五十圓を支出して百十二冊の書物を購入し、翌二年度は同窓會員の醸出金四百圓と松柏會の補助を合して七百八十四圓を以て二百二十七冊の増加を見、三年度は二百六十圓で百七十一冊、翌四年度は二百二十九圓の豫算をもつて百五十四冊、五年度は二百九十四圓で購入圖書百九十一冊。六年度は財界不況の影響を受けて松柏會の歳入減のため、圖書費も百二十七圓に減し購入圖書百十八冊である。七年度は前年と同じく豫算額少く百三十圓となつて居る。

購入圖書は各方面にわたり、職員生徒の研究参考用を主とし、本館を特色づける婦人の教養に資するもの、その他必要に應じ優良圖書の蒐集に腐心してゐる。其の數は篤志家の寄贈圖書中川文庫八十六冊、委托圖書小島文庫一千七百三十一冊、醒竹文庫一千九百四十一部及び本校所有にかゝる圖書を合して總數實に六千八百三十八巻を算してゐる。これを開館當時に於いて本校所有の圖書五百二十七部と、松柏文庫の三百二十部合計八百四十七部に比して隔世の感がある。今本館及び學校

所有の圖書を各部門に分類して見ると次のやうになる。

修身	二三〇	家事	五一	數學	五一	教育	一三一
博物	二〇二	裁縫	六五	生理衛生	七	哲學	三四
手藝	八	心理	一六	美術	一〇四	歴史	一八九
叢書	一一七	社會	二六	地理	二六九	雜	二七〇
産業	四七	辭典	一三七	文學	七〇九	音樂	一一五
法制	五三	體操	七二	理化	七四	合計	三〇七六

### 第三節 委托圖書

郡立移管當時、久下村中川幸太郎氏は日本時代史全十卷及び日本地名辭書を初め日本百科全書等合計八十六冊を書架と共に寄贈せられ中川文庫として、早くより本校圖書に光彩を添へてゐた。本館開館當時佐治町小島友吉氏は嚴父小島省齋先生の遺書「皇清經解」全四十帙三百六十二冊を初め、二十五筐合計一千七百三十一巻を委托せられて、本館の權威頓に揚り、更に昭和六年十二月本郡に於ける屈指の藏書家足立武一郎氏の藏書の供托をうける事となつた。該圖書は文學書四百三十四部、宗教二百四十七部、哲學二百四十九部、法制九十九部、經濟九十、地理五十五、歴史二百二十部、

社會問題七十二、辭典二十四、數學三十三、軍事十三、語學十六、産業二十、技藝三、家政十二、美術二十四、理科五十三、雜書二百四十一部の多方面に分れ、而もいづれも新刊貴重なるもので總數一千九百四十三部、本館はこゝに大に面目を一新し名實共に内容充實したのである。爰に記して三氏の絶大なる御厚意に對し感謝の意を表する。

## 第三章 經營狀況

### 第一節 經費の變遷

本館の經營に要する費用は年々松柏會よりの補助金並に新入會員の醸出金及び篤志家の寄附金を以てこれに充てゝゐる。今開館以來の經費決算の狀況を見るに昭和元年度に於ては收入總額四百六十一圓此の中二百四十一圓は特志家の寄附他は職員生徒の醸出金である。支出總額は百九十五圓餘で殘額は翌年へ繰越された。翌二年度の歳入は一千百九十七圓三十六錢といふ多額の數を示してゐる。これは卒業生が本館の内容充實の目的を以て三百四十八人が四百四圓三十九錢を醸出した金を含み前年度の繰越金があつたからである。この年の歳出は一千六十圓四十一錢で約八百圓の圖書を

購入して頼に豊富になつた。三年度の歳入四百十三圓八十三錢歳出三百四十四圓六十錢、此の年から經營は概ね常態となつた。四年度の歳入は三百六十九圓八十七錢、歳出三百三十一圓五十二錢。五年度は三百九十二圓三十三錢の歳入を以て三百八十九圓二十九錢を支出して居る。六年度は二百六十一圓八十七錢の歳入で前年に比して百三十圓程の激減を見たのである。これ累年の財界不況に鑑み松柏會費を従來年額六圓徴收してゐたがこの年は五圓に低下したため、自然圖書館の豫算にもかく影響を蒙つたのである。この年の支出百六十二圓四十五錢。七年度の豫算額は前年度の繰越金が多かつたので三百四十二圓となつて居る。

### 第二節 役員

本館の事務遂行上、職員卒業生生徒中から次のやうな役員を定めてゐる。館長一名、松柏會長をこれに推戴し、館務統轄の任にあたる。司書二名は館長の指揮を受けて圖書及び重要な事務の掌理にあたつてゐる、幹事二名は館長の指揮を受けて庶務會計の事に従事し、評議員十名は重要な館務を評議決定する任に當り半数は卒業生である。尙生徒役員は十八名で二名づゝ交代して毎日圖書の貸出し整理につとめてゐる。

今本館開設以來の役員を列記して其の勞を多謝する。

館長	(現)津倉亮一	加藤立時	澤野惠津子
司書	河津啓太郎	(現)藤枝忠夫	
幹事	(現)池田光雄	(現)原田平三郎	(現)池上政太郎
評議員	菊澤貞吉	由良禧三	(現)角田しを
	清水敏二郎	高野康慶	(現)原田一枝
	草川梅	(現)十倉たみの	(現)片山芳子
	(現)園田豊子	(現)河津啓太郎	下田次子
	平内玉枝	(現)進藤隆義	(現)吉野善治
	(現)松本しげ		
	(現)澤野惠津子		

### 第三節 圖書館利用狀況

本館の閱覽室は學術の研究其他教育に關する目的の會合、協議會場として提供してゐる。今其利用狀況を見るに昭和三年度には、みどり會一〇回、氷上郡内小學校長會一、本校職員會一、卒業生會合二、氷上郡誌完成報告會一、氷上郡民謠調査研究會一、氷上郡教育會二、讀書會一、奉安殿特



別委員會一、郡内小學校教員有志會一、昭和四年度には、みどり會三、氷上郡教育研究會一、氷上郡女子青年團役員會二、本校家庭會幹事會一、本校補習科謝恩會一、昭和五年度は家庭會幹事會三、みどり會二、卒業生有志小集會一、郡教育會主催夏季大學黒正博士座談會一、本館評議員會一、六年度に於てはみどり會四、家庭會幹事會三、三十周年記念有志揮毫書畫展覽會三、本館評議員會一、松柏會支部長會一といふ状態である。

### 一 般 閱 覽 規 定

- 第一條 開館は午前八時、閉館は午後四時とす  
但し十一月一日より二月末日迄は午後三時閉館す
- 第二條 祝、祭日及臨時必要と認むる場合は休館す
- 第三條 閱覽者は係員より圖書閱覽請求書を受取り所要の事項を記入して差出し圖書を受取るべし
- 第四條 圖書は本館階上に於て閱覽すべし
- 第五條 閱覽を終へたる時は圖書を係員に返済すべし
- 第六條 閱覽期間は一日とす
- 第七條 圖書の貸出は借用日返済日を合して五日間之を行ふことあるべし

第八條 閱覽料は徴收せず

第九條 男子は入覽前係員又は柏原高等女學校職員に申出で其許可を受くべし

第十條 館内にては左の事項に注意すべし

- 一、音讀せざること
- 二、インキ、墨類を使用せざること
- 三、喫煙は指定の場所以外に於てせざる事
- 四、他人の迷惑妨害となるべき行爲を慎むこと

第十一條 本校生徒の圖書閱覽に關しては別に之を定む

### 本 校 生 徒 閱 覽 規 定

- 第一條 本校生徒は正課時間外に於て本館階下備付の圖書を隨意階下に於て閱覽することを得
- 第二條 開館は午前八時、閉館は午後五時とす、但し時宜により閉館時刻を延長することあるべし
- 第三條 閱覽を終へたる時は必ず元の位置に整頓し置くべし
- 第四條 圖書の貸出は行はず

- 第五條 圖書閱覽の外本館内に於て各自々修することを得
- 第六條 館内に於てインキ筆墨類を使用することを得ず、但し鉛筆は此の限にあらず
- 第七條 館内にては極めて靜肅にし他人の妨害となる行爲あるべからず
- 第八條 本館階上には第九條のもの及係員の外無斷にて出入することを得ず
- 第九條 階上の圖書を閱覽せんとする者は別に定むる圖書閱覽規程に依り其手續を経べし、但し特別の場合の外は階下に於て閱覽するを要す
- 第十條 本規定以外の事項に關しては圖書閱覽規定を準用す

#### 第四章 自由の學園

集藏せられた數千の書籍をいたづらに死書たらしめず、大いに活用し本館の機能の暢達を期せんため外部は廣く一般の利用を宣傳し、内は職員の研究の好伴侶たらしめ、殊に階下は生徒の自學自習的活動の道場として開放し、大にその利用を奨勵指導し、出來得る限りの便宜を與へてゐる。即ち階下備付の書籍は全く生徒の自由閱覽にまかせ階上の書物も規定の手續を経て一定の期間貸與せられる事となつてゐる。

これが利用法の指導については、教授と相俟つて重要視し毎月發表する學習豫定表に豫めその課に必要な參考書を教示し或は直接館内に於て辭書の索引、參考書の利用法を説明し、その他機會ある毎に各科の教師はその質疑に應じ指導の任にあたつてゐる。

始業前及晝休の休憩時間、放課後或は教師缺勤による自習時間等はこゝに參集する生徒を以て充満せられ、或は豫習に復習に、自由に參考書を手にして求智の眼を輝かせるもの、或は讀書慾の動くがまゝに高遠な真理の扉をたくもの、或は神韻漂渺たる藝術の殿堂をたづね、遠き世の聖賢の面影に接し、新しい思潮に棹して飽くことを知らぬ。今試に昭和六年度の貸出書籍を例示すれば、文學三七八、歴史九、地理六、修身六、理科七、教育五、辭典四、數學四、語學三、叢書三、宗教一、體操一、經濟一である。

これ等の貸出圖書の出し入れは毎日二人の生徒の係がこれにあたつてゐる。五時を閉館の時刻と限つては居るが、なほその後も汽車通學者及び特別希望者が薄暮せまるもなほ眞摯な態度に頁をくつてゐる涙ぐましい光景を目撃することは尠くない。

○農民時報記事 (昭和七年二月十七日)

松柏圖書館へ藏書千八百巻委託

醒竹居足立氏の美譽

氷上郡國領村足立武一郎氏は郡内屈指の讀書家であり藏書家であるが、曾て其の藏書の一部を同村小學校に置き、職員の研究等に公開提供してゐたが、過般更に他の全部一千八百卷を柏原高等女學校松柏圖書館に委託し、同校及び廣く世人の利用に供すべく、既にトラック一臺に滿載して同校に送致した。右圖書の中には仲々購ひ難きものも多々あり、而かも氏の趣味が多方面に亘つてゐるだけに、各種類を網羅してゐるので一般を裨益する所が多大である。

## 第五編 家庭會

### 第一章 設立事情

#### 一、創設の機運

子女の教養上完全を期するには獨り學校のみならず社會特に生徒家庭の理解後援に俟たねばならぬことは言ふまでもなく、從來本校では保證人會(父兄會)家庭訪問等を実行して來たのであるが、昭和三年奉安殿設立の頃から學校社會及び家庭の聯絡を緊密にしてよりよき教育効果を齎らすために、且又本校發展上設備充實等のために本會を設立すべしとの熱心なる聲が保證人諸氏の間に出た。

#### 二、設立可決と創立委員

斯かる機運は愈々熱し、遂に昭和四年五月十八日保證人總會に於て本會設立の件は議せられ、滿場一致を以て可決された。依つて直に創立委員を擧げて萬端の準備を一任することとし、保證人會

散會後創立委員會を開催し、發起人の詮衡、會則の原案等を議した。

創立委員氏名

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 柏原 藤井節太郎  | 柏原 片山 誠一  | 柏原 岡林 佐市  | 上久下 西垣 重雄 |
| 久下 中川幸之助  | 小川 廣瀬平三郎  | 和田 田中 武明  | 沼貫 波多野千太郎 |
| 成松 佐野 麟   | 薦野 植木 喜作  | 幸世 田中 宗太  | 薦田 西川 敏郎  |
| 佐治 蘆田 辰治  | 神樂 足立定右衛門 | 遠坂 足立 研治  | 竹田 渡邊榮三郎  |
| 前山 近藤 巖   | 吉見 能勢 齋   | 鳴庄 一色 綾雄  | 美和 田中 勇次  |
| 春日部 舟川 菊藏 | 大路 松山清一郎  | 國領 足立耕太郎  | 黒井 岸 常三郎  |
| 船城 萩野 重藏  | 生郷 大塚 秀次  | 新井 上山 直吉  | 有馬郡 前中惣三郎 |
| 多可郡 細田 昌二 | 多可郡 村上 延壽 | 朝來郡 山口 九郎 | 多紀郡 大西忠太郎 |

斯くて同年五月二十五日發起人會を開催し、前記委員二十名出席津倉校長を座長とし、名稱及會則等につき協議次の通り決定した。

趣 意 書

現代の文化が日に月に暢達して行く中に在つて、婦人の地位向上も唱道せられ、従つて女子教育の進展が重要視されるやうになりました。而も教育は單に學校のみに委すべきものではなく、家庭乃至社會は之に深甚の注意を拂ひ、學校に對して善意の協力をせねば十全なる効果は擧げられぬものであります。然るに從來の事實を見

るに一年一回學校の召集に應じて出席する位に過ぎませんでした。是では到底周到なる子女の教養は期せられませぬ。又現代は多衆の力が反映しなければ學校の如きも充分活動することの出來難い場合もあるやうであります。是に於て吾々子女を就學せしめて居るもの並に此の趣旨に賛成下さる人々を以て本會を結合し、學校と家庭とを一層圓滿親密なる状態に置いて學校教育の理解を深めると共に、家庭の要求する所をも知悉してもらひ、又子女教育の完全を期するために、學校の設備や内容の充實等に關して援助しようと思つたのであります。是れ吾々が本會の設立を必要なるものと確信し、別記の會則を定め皆様の御賛成を仰ぐ所以であります。幸に右趣旨を諒せられ、生徒の保護者諸君は勿論一般有志諸君も多數御賛助御入會下さるやう切望いたします。

昭和四年五月

創立委員一同

兵庫縣立柏原高等女學校家庭會會則

名稱及事務所

第一條 本會ハ兵庫縣立柏原高等女學校家庭會ト稱シ事務所ヲ兵庫縣立柏原高等女學校内ニ置

目的

第二條 本會ハ兵庫縣立柏原高等女學校ト其生徒ノ家庭トノ連絡ヲ親密ニシ且同校教育事業ノ進展ニ關シ援助スルヲ以テ目的トス

組織

第三條 本會ハ左ノ各員ヲ以テ組織ス

- 一、正會員 在學生徒ノ家庭
- 二、贊助會員 本會ノ趣旨賛成者
- 三、客員 同校職員
- 四、名譽會員 評議員會ノ議決ニ依ル推薦者

役員

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名 當分學校長之ニ當ル
- 二、幹事 若干名 會長之ヲ委囑ス
- 三、評議員 若干名 會長幹事協議ノ上之ヲ委囑ス

四、書記 二名 會長之ヲ委囑ス

第五條 各役員ノ任務及任期左ノ如シ

- 一、會長 會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス
  - 二、幹事 會務ヲ處理シ且緊急ノ事務ハ評議員會ニ代ツテ議決執行ス
  - 三、評議員 本會ノ重要ナル事務ヲ議決ス
  - 四、書記 本會ノ會計及庶務ヲ取扱フ
- 會長ノ任期ハ評議員會ニ於テ臨機ニ之ヲ議定ス  
幹事、評議員、書記ノ任期ハ各二ケ年トス

事業

第六條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- 一、學校ト家庭トヲ親密ナラシムル施設
- 二、學校ノ發展ニ關スル援助
- 三、生徒ノ校外指導
- 四、其他必要ト認ムル事業

會合

第七條 左ノ會合ヲ行フ

一、總會 毎年一回

二、評議員會 毎年一回以上

三、幹事會 必要ニ應ジ隨時之ヲ開ク

會計

第八條 正會員ハ會費毎年金壹圓齎出スルモノトス

第九條 本會ノ費用ハ會費及有志者ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

雜則

第十條 本會則運用上ノ細則ハ本會則ノ範圍内ニ於テ便宜ノ方法ニ依ル

本會則ヲ改正セントスルトキハ役員會ニ於テ議決シ更ニ總會ノ承認ヲ經ベキモノトス

### 第二章 役員

一、會長 (現任) 津倉亮一

二、副會長 津倉亮一

### 三、幹事

(一)現任 (就任順)

柏原町 藤井節太郎

同 岡林佐市

吉見村 能勢齋

成松町 佐野麟

久下村 中川幸之助

生郷村 大塚秀次

佐治町 高松策治

春日部村 畑七右衛門

柏原町 宮垣幸吉

多可郡杉原谷村 山口吉五郎

本校教頭 河津啓太郎

(二)退任 (退職順)

佐治町 芦田辰治

多可郡松井庄村 細田昌二

春日部村 舟川菊藏

### 三、評議員

多可郡 日野村 藤井 滋吉  
 柏原町 片山 誠一

#### (一)現任

(柏原)安藤正次郎、飯谷邦之祐(成松)佐野麟(佐治)足立秀古(黒井)野村乙太郎(上久下)竹内徳次(久下)中川幸之助(小川)林誠道(和田)田中武明(沼貫)塚口勇(葛野)山口嘉藏(幸世)田中宗太(芦田)西川敏郎(神樂)足立敬次郎(遠坂)足立穠次(竹田)西山亮三(前山)森本太郎兵衛(吉見)能勢齋(鴨庄)一色綾雄(美和)田中勇次(春日部)高見勘治(大路)足立欣一(國領)足立耕太郎(船城)荻野信太郎(生郷)岡林久右衛門(新井)上山直吉(多可郡)村上延壽、荻野仁助(朝來郡)足立信三

#### (二)退任

(柏原)田原喜久藏、岸本幸藏(佐治)芦田辰治、白井徳治(黒井)岸常三郎(上久下)西垣重雄(小川)廣瀬平三郎、依藤源右衛門(沼貫)波多野千太郎(葛野)植木喜作(神樂)足立定右衛門(遠坂)足立研治、足立庄右衛門、足立頼太郎(竹田)渡邊榮三郎(前山)近藤巖(春日部)舟川菊藏(大路)松山清一郎(船城)荻野重藏(有馬郡)前中惣三郎(多可郡)細田昌二、藤井滋吉(朝來郡)山口九郎(多紀郡)大西忠太郎

### 四、書記

本校書記 池上政太郎、同 原田平三郎

### 第三章 會員

昭和四年度創設當時より同六年度に到る既往三箇年間に於ける會員數の狀況は左の通りで、逐年入會者が増したるは獨り本會の發展のみならず本校のため慶賀すべき傾向である。

年度	生徒家庭數	會員數	未入會數	退會數	會費未納數
四	三五〇	二九四	五六	〇	一
五	三六一	三三〇	三一	〇	一
六	三五八	三四〇	一七	一	七

### 第四章 活動

教育内容の充實を圖るためには、どうしてもその教育を施すべき場所の設備を相當整へねばならぬ必要を痛感する。殊に今日の學校の如き大衆教育に於て然りである。本會は最初の事業として本校北接の燒跡地百七坪(内譯畑一畝二十歩、宅地五十七坪)の買收のため運動し、一時松柏會の基本

財産として買求め目下農業實習園として使用してゐる。次に講堂並教室増改築運動を本會創立當初より始め今尙繼續中である。本校は從來バラックに近き雨天體操場を以て講堂を兼ね、辛うじて精神教育を行ひ、又本館は明治十八年の建築に係り現代教育には不適當なる點不尠、現に細長き採光通風不充分なる二室を以て普通教室並に地歴教室に充て、居る現状であるので本會はあらゆる方面に猛烈なる運動をなし、縣當局に對しても之が改善を請願してゐるのであるが、此の間縣首腦部の交迭等も度々あり且柏原中學校増改築問題との關係等もあり、加ふるに最近殊に甚しき經濟不況の所謂非常時に際會せるため、頗る難色はあるが、本會幹事諸氏及び卒業生諸姉の熱誠と、本郡町村長其の他一般の同情輿論と更に有力なる人士の應援とに依り、難局を突破して遠からず目的を貫徹し得べき機運にあると觀測せられる。事の成否に拘らず特に熱心なる盡力を賜はれる人々の氏名を掲げて感謝の意を表する。

- |      |       |
|------|-------|
| 本會幹事 | 藤井節太郎 |
| 同    | 岡林佐市  |
| 同    | 宮垣幸吉  |
| 同    | 能勢齋   |
| 同    | 大塚秀次  |

右五氏の他中川幸之助、高松策治、佐野麟氏及び前幹事舟川菊藏、片山誠一氏等

- |      |      |
|------|------|
| 縣會議員 | 衣川退藏 |
| 同    | 村上雅司 |

の二氏及び町村長側では中島敏之介、田口正敬及び依藤源右衛門、澤田喜一、池田佐太郎、其の他の諸氏並に各種團體長の諸氏である。

以上の外本會は陰に陽に教育そのものにも盡す所がある。例へば學校と家庭との連絡提携、學校教育發展に關する後援、生徒の校外指導等は其の二三である。是等は概ね紙上の記録として殘すことの困難なものであるが、各生徒の人格育成の上に内面的な効力のあることを信するのである。



## 第六編 三十周年記念祝賀狀況

## 第一章 準 備

二十五周年に盛大な式典を挙げたのはつひ昨日の事と記憶も新しいのに、早や三十周年が目睫の間に迫つて來た。創立當初の苦しい生ひ立ちから町立、郡立二十年に亘る盤根錯節を経て今日の隆昌を見つゝ、健やかなそして而立の年を迎へる我が校としては、心の奥に溢れる喜びの泉を具象化するべき適當な記念行事をとほ、私共關係者の誰もが抱く心持であつた。

一昨年以來ぼつ／＼進められて居た案は臙氣ながら昨年春から松柏會本部幹事會、阪神支部總會等に就て外部に向つて呼びかけられ、其の反響によつて更に練られて行き、昨年夏以來各方面に亘り委員會、職員會、同窓部會を重ねる毎に次第に具體化して來た。中でも松柏會員に配付する記念扇子の揮毫は既に一昨年來校長先生のお宅で行はれて居たのである。

而して本年一月二十九日本部幹事會、二月十一日支部長會、四月十一日最後の職員會を以て愈々其の成立を見るに至つた。



辭式の長校倉津(日八月五年七和昭)式念記年周十三立創

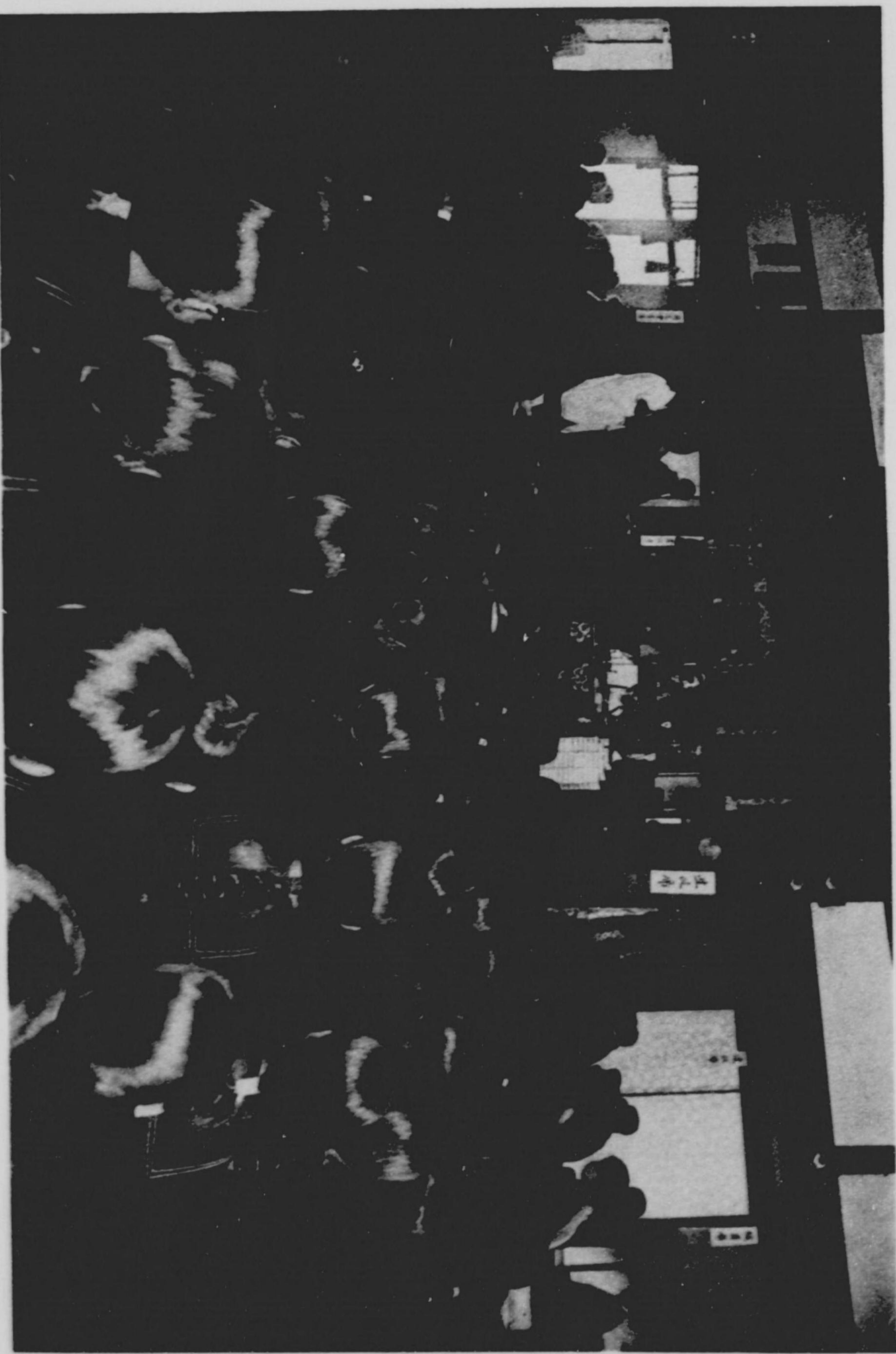


(日九月五年七和曆) 會悼追年周十三立創

記念事業プラン

- 一、記念式 五月八日
- 二、祝賀會 同
- 三、追悼會 同 九日
- 四、遺族慰安會 同
- 五、十年以上勤続職員謝恩
- 六、生徒祝賀會 同
- 七、活動寫真會 同
- 八、講演會 同 十日
- 九、音樂會 同
- 一〇、展覽會
- 一一、記念扇子を全松柏會員に配付
- 一二、記念エハガキ調製
- 一三、記念録編纂

以上



(日九月五年七和昭) 會悼追年周十三立創

記念事業プラン

- 一、記念式 五月八日
- 二、祝賀會 同
- 三、追悼會 同 九日
- 四、遺族慰安會 同
- 五、十年以上勤続職員謝恩
- 六、生徒祝賀會 同
- 七、活動寫真會 同
- 八、講演會 同 十日
- 九、音樂會 同
- 一〇、展覽會
- 一一、記念扇子を全松柏會員に配付
- 一二、記念エハガキ調製
- 一三、記念録編纂

以上